ISSN 1348－902X

自治医科大学看護学部年報（第14号）
Annual Report Jichi Medical University School of Nursing

自治医科大学大学院看護学研究科年報（第10号）
Annual Report Jichi Medical University Graduate School of Nursing

2015

目　次

○　**看護学部委員会等報告**

1. 人事委員会　春山　早苗 …… 5
2. 教務委員会　成田　　伸 …… 6
3. 学生委員会　大塚公一郎 …… 8
4. FD評価実施委員会・研究推進委員会　永井　優子 …… 10
5. 広報委員会　中村　美鈴 …… 12
6. 編集委員会　本田　芳香 …… 15
7. 国家試験対策委員会　渡邉　亮一 …… 16
8. 臨地実習指導研修委員会　半澤　節子 …… 18
9. 入試実施委員会　横山　由美 …… 19

○　**大学院看護学研究科委員会等報告**

1. 研究科委員会　春山　早苗 …… 23
2. 研究科委員会幹事会　半澤　節子 …… 25

○　**教育研究分野別報告**

1. 看護基礎科学　渡邉　亮一 …… 29
2. 基礎看護学　本田　芳香 …… 32
3. 地域看護学　春山　早苗 …… 35
4. 精神看護学　永井　優子 …… 38
5. 母性看護学　成田　　伸 …… 40
6. 小児看護学　横山　由美 …… 43
7. 成人看護学　中村　美鈴 …… 45
8. 老年看護学　宮林　幸江 …… 49

○　**大学院看護学研究科　教育の概要**

博士前期課程

実践看護学分野

1. 母子看護学領域「小児看護学」　横山　由美 …… 53
2. 母子看護学領域「母性看護学」　成田　　伸 …… 55
3. 健康危機看護学領域「クリティカルケア看護学」　中村　美鈴 …… 56
4. 健康危機看護学領域「精神看護学」　半澤　節子 …… 58
5. がん看護学領域「がん看護学」　本田　芳香 …… 59

地域看護管理学分野
6. 老年・地域看護管理学領域「老年看護管理学」　宮林　幸江 …… 62
7. 老年・地域看護学領域「地域看護管理学」　春山　早苗 …… 63
8. 共通科目　半澤　節子 …… 64
博士後期課程
1. 広域実践看護学分野　春山　早苗 …… 66

○　研究業績録

1. 看護基礎科学 …… 71
2. 基礎看護学 …… 73
3. 地域看護学 …… 75
4. 精神看護学 …… 79
5. 母性看護学 …… 81
6. 小児看護学 …… 82
7. 成人看護学 …… 83
8. 老年看護学 …… 86

○　資料

1. 2015年度（平成27年度）看護学部学年暦 …… 89
2. 自治医科大学看護学部の概況 …… 90
3. 看護学部教職員名簿 …… 91
4. 2015年度（平成27年度）大学院看護学研究科学年暦 …… 92
5. 大学院看護学研究科の概要 …… 92
6. 大学院看護学研究科教職員名簿 …… 93
7. 編集後記 …… 94

看護学部委員会等報告

人事委員会

委員長　春山　早苗

１．所管事項

⑴自治医科大学看護学部教員の選考に関する事項
⑵非常勤講師の選考に関する事項
⑶その他学部長が必要と認めた事項

２．委員会の構成

⑴「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に規定する者
（4名以上7名以内）

表1　構成員と役割

氏　　名	役　割
春山学部長	委員長
成田教務委員長	委　員
大塚学生委員長	委　員
永井ＦＤ委員長	委　員
被選考教員の関連領域の教授等	委　員
学部長が必要と認めた者（２名以内）	委　員

３．活動内容

⑴「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」第2条の規定により，表2のとおり人事委員会を開催した。

表2　2015年度の審議事項

回	開 催 日	審議事項
1	4月21日（火）	・平成27年度看護学部臨地教授等の付与（61人）について（資格審査） ・平成27年度非常勤講師（1人）の追加任用について
2	5月18日（月）	・成人看護学教員（講師又は助教）の候補者（1人）選考について
3	5月26日（火）	・成人看護学教員（准教授又は講師）の候補者（1人）選考について ・平成27年度看護学部臨地教授等の付与追加（3人）について（資格審査）
4	6月23日（火）	・学内教員の昇任選考について（教授昇任1人）
5	7月21日（火）	・母性看護学教員（助教）の候補者（1人）選考について
6	10月20日（火）	・成人看護学教員（助教）の候補者（1人）選考について
7	11月24日（火）	・平成28年度非常勤講師（1人）の任用について ・学内昇任（4月時）に係る事務の流れ及び履歴書について ・学内教員の昇任申請について（講師昇任2人）
8	12月22日（火）	・基礎看護学教員（助教）の候補者（1人）選考について ・基礎看護学教員（講師）の候補者（1人）選考について ・小児看護学教員（助教）の候補者（1人）選考について
9	1月19日（火）	・学内教員の昇任選考について（基礎看護学講師昇任） ・学内教員の昇任選考について（地域看護学講師昇任） ・平成28年度非常勤講師（3人）の任用について
10	2月15日（月）	・成人看護学教員（助教）の候補者（1人）選考について ・平成28年度非常勤講師（2人）の任用について ・教員選考作業部会報告書の一部修正について ・人事委員会申合せの一部改正について
11	2月23日（火）	・精神看護学教員（助教）の候補者選考について

教務委員会

委員長　成田　　伸

1．所管事項

本委員会は，授業及び試験，単位及び課程の修了，学生の入学，退学，休学及び卒業等，学生の修学指導，授業関係の予算，その他学部長が必要と認めた事項を検討するために設置され，10名の委員と1名のオブザーバーで構成されている。

2．委員会の構成

構成員と役割を表1に示した。

表1　構成員と役割

氏　　名	役　　割
成田　伸　　教授	委員長，助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考(主)，夏季へき地研修
本田　芳香　教授	副委員長，実習調整(主)
永井　優子　教授	実習調整(副)
中村　美鈴　教授	カリキュラム運用(副)，既修得単位認定(副)
野々山　未希子　教授	授業予算(主)
半澤　節子　教授	共通物品(主)
宮林　幸江　教授	既修得単位認定(主)
渡邉　亮一　教授	時間割(主)
横山　由美　教授	カリキュラム運用(主)，時間割(副)
小原　　泉　教授	時間割(福)
鈴木　久美子　准教授（オブザーバー）	夏季へき地研修(主)

3．活動内容

11回の委員会を開催した。委員会に先立って，各担当を中心として十分に事前検討し資料を作成し，委員会の実効性を高めた。

表2　平成27年度の審議事項

回	開催日	議　　題
1	平成27年4月9日	教務委員会年間計画，教務委員会下部組織の年間計画，平成27年度授業関係消耗品予算の執行，平成28年度以降（3年間）教育用機器備品購入計画，平成27年度3年次前学期実習の担当教員（案），平成27年度臨地教授等の講義・演習・実習への協力依頼一覧（予定），新入生オリエンテーション，3年次後学期実習ローテーション表（改訂版），看護基礎セミナー評価基準・レポート提出，ラボルームの運用，電子カルテのパソコンの更新等
2	平成27年5月7日	前学期履修状況，既修得単位認定，平成27年度授業関係予算の予算配分（機器備品），3年次4月開講科目の単位認定状況，ポートフォリオ活用状況結果等
3	平成27年6月11日	対象の理解実習の学生配置，平成28年度助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考，平成28年度以降（3年間）の講義・実習に係る機器備品購入計画，電子カルテ用のパソコンの購入，平成27年度実習教育説明会アンケート結果，学生の学習状況・学習環境状況調査の結果（概要），moodleにおける試験結果発表，看護総合セミナーの研究レポートの取り扱い，基礎科目におけるカリキュラム上の問題点等
4	平成27年7月9日	前学期定期試験（1，2，4学年）日程・再試験，平成28年度関係予算・教室整備に係る予算，平成28年度時間割の作成，平成28年度附属病院における看護学実習病棟及び控室に関する希望調査・年間実習配置案，平成27年度2年次後学期実習学生配置表，平成27年度3年次後学期実習ローテーション表，平成27年度教育支援者委嘱計画（追加分），平成28年度教育支援者委嘱計画，夏季へき地研修の実施計画，カリキュラムについての要望，学生の学習状況・学習環境調査等
5	平成27年9月10日	学生の休学，前学期再試験，平成28年度学年暦，平成28年度科目等履修生募集，電子カルテ用パソコンの要望，平成28年度授業関係予算・教室整備に係る予算，平成28年度モデル時間割，2年次後学期実習の学生配置，平成28年度教育支援者委嘱計画，現行カリキュラムの検討，学生の学習状況・学習環境状況調査等
6	平成27年10月8日	学生の休学，前学期単位取得状況，平成28年度附属病院における看護学部実習病棟および控室に関する調整，平成28年度科目責任者，平成28年度科目等履修生開講授業科目・募集定員等，学生の学習状況・学習環境状況調査，平成28年度各実習科目履修予定人数表等
7	平成27年11月12日	後学期履修状況，平成28年度時間割，前学期成績入力ミス，次年度各実習科目履修予定人数，夏季へき地研修の報告，履修登録期間（2年次後学期），学生相談対応ルート，実習の安全，安心が脅かされる出来事，カリキュラム検討における意見書等
8	平成27年12月10日	学生の休学，平成28年度科目責任者，平成28年度シラバスの作成，平成28年度学年暦・オリエンテーション計画，平成27年度予算（機器備品）の執行状況，現行カリキュラムについての検討，後学期前半科目筆記試験での不具合，生命科学フィールド実習報告等
9	平成28年1月10日	追実習（公衆衛生看護実習・老年在宅看護実習），後学期履修状況，平成28年度時間割，平成28年度実習教育説明会の企画，平成28年度附属病院における看護学部実習病棟および控室に関する調整結果，試験監督マニュアルの変更，平成28年度3年次前学期実習ローテーション，3年次後学期実習ローテーション，看護トピックス・看護基礎セミナーの展開及び評価，平成27年度後学期定期試験時間割，実習上の安全・安心が脅

		かされる出来事についての報告，今年度の附属病院実習の振り返り，休学期間満了となる学生への対応等
10	平成28年2月10日	休学・退学・復学，平成28年度4年次後学期取得単位，卒業認定，卒業時到達度評価（総合実習，看護総合セミナーの評価等），平成28年度学年暦，4月オリエンテーション，平成28年度実習教育説明会，平成28年度附属病院における看護学部実習控室，平成28年度実習要項，カリキュラム報告会，平成28年度教育用予算内示，学生便覧（試験，実習，成績評価等），3年次後学期実習ローテーション，平成27年度臨地教授等及び臨地スタッフ教育活動状況・実績報告及び平成28年度の申請等
11	平成28年3月10日	休学・退学・復学，平成28年度後学期単位取得状況，助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考試験結果，平成28年度3年次前学期実習学生配置，平成27年度教務委員会下部組織報告，総合実習，看護総合セミナー担当人数等，卒業時到達度評価（総合実習，看護総合セミナーの評価等），平成28年度臨地教授等及び臨地スタッフ教育活動計画の申請及び平成27年度の活動状況報告，サイボウズ・教室使用簿の取り扱い，看護師学校等の指定申請等提出書類，学生の学習状況・学習環境状況調査結果報告案等

学生委員会

委員長　大塚公一郎

１．所管事項

⑴学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
⑵学生の健康管理及び学生相談に関する事項
⑶学生のキャリア支援に関する事項
⑷学長賞等の選考に関する事項
⑸看護学部学生寮の管理運営に関する事項
⑹奨学生の採用及び貸与に関する事項
⑺その他学部長が必要と認めた事項

２．委員会の構成

学生委員会の機能を果たすために，奨学生選考担当，キャリア支援担当，学友会幹事がおかれた。役割担当（委員会外教員も含む）は，表1の通りである。

表１　構成員と役割

氏　　名	役　　割
大塚公一郎　教　授	委員長
永井　優子　教　授	副委員長 キャリア支援担当
北田　志郎　准教授	委員 学友会幹事
里光やよい　准教授	奨学生選考担当
鈴木久美子　准教授	奨学生選考担当
角川　志穂　准教授	キャリア支援担当
田村　敦子　講　師	キャリア支援担当
長谷川直人　講　師	キャリア支援担当

表2　下部組織

氏　　名	役　　割
小池　純子　助　教	キャリア支援担当
中塚　麻美　助　教	キャリア支援担当

３．活動内容

学生委員会は，「学生が健全な学業生活を送ることができるよう支援すること」を第一の目的とする委員会である。

上記目標に即して，平成27年度も，学生委員会は，学業（課外活動も含む）の奨励・支援，学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援，学生の健康問題解決への支援，学生への経済的支援，学生への進路指導であるキャリア支援を行った。

学部の学生は学生自治会を，また寮在住学生は寮自治会をそれぞれ組織し，自主的に運営している。この二つの自治会の運営の支援も本委員会が担当した。これらの活動は，本学部の看護学務課，看護総務課との緊密な相談・連携のもと行われた。

学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援は，各学生委員の学生との直接相談，学年担当アドバイザーとの緊密な連絡相談，カウンセリングルーム活用の奨励などを通して行った。

学生の健康問題解決への支援は，学生健康管理チームが中心となって行い，また大学保健室の行う検診への受診の奨励，個々の学生の健康相談などを行った。

学生への経済的支援は，主に奨学金の選考・推薦を通して行われた。自治医科大学看護学部奨学金，日本学生支援機構奨学金の選考・推薦を行った。

学生の将来の進路決定の支援は，キャリア支援担当が中心となって行った。27年6月10日に行われた附属病院による就職説明会とは別に，28年2月16日には3年生対象に，看護部，看護学部同窓会の協力を得て進路支援ガイダンスの目的として「将来のキャリアを考える会」を実施した。

学生自治会，寮自治会の運営の支援は，学生委員会委員と両自治会役員との懇談を通して行われた。寮生活そのもの支援として，入寮案内，寮生活オリエンテーション，防災訓練，寮規則違反者などへの指導などが行われた。

部活動，クラブ活動，サークル活動などの課外活動を，学友会（本学部では，学生委員会が所掌）を通して奨励した。薬師祭（学園祭）の開催を支援した。

学業（課外活動も含む）の奨励・支援の一環として，看護学部校舎における防災訓練を行った。４学年卒業予定者のなかより，学長賞候補者を選考し３名推薦した。

本学部生のうち奨学生となるものの自覚を促すために，28年度学生便覧の奨学金関係の項目の改訂，補充を行った。

学生委員会は，8月を除いて毎月定例開催され，合計11回開催された。

表３　平成27年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2015年4月2日	⑴年間予定 ⑵役割分担
2	2015年5月7日	⑴看護学生寮防災訓練 ⑵奨学金貸与申請 ⑶学生役割分担 ⑷キャリア支援関係
3	2015年6月4日	⑴学生寮防災訓練 ⑵学生支援機構奨学金 ⑶看護学部校舎防災訓練日程
4	2015年7月2日	⑴学部校舎防災訓練 ⑵学生寮防災訓練報告 ⑶キャリア支援関係 ⑷就職の学内推薦
5	2015年9月3日	⑴学部校舎防災訓練 ⑵駐車場申請許可 ⑶キャリア支援関係
6	2015年10月1日	⑴「将来のキャリアを考える会」の運営 ⑵駐車場申請許可 ⑶進路決定届提出状況
7	2015年11月5日	⑴校舎防災訓練報告 ⑵学生支援機構奨学金 ⑶キャリアガイダンス
8	2015年12月3日	⑴学長賞選考委員検討 ⑵将来のキャリアを考える会」計画
9	2016年1月7日	⑴卒業式送辞担当学生 ⑵「将来のキャリアを考える会」計画 ⑶学部および学生支援機構奨学金説明会報告
10	2016年2月4日	⑴学長賞選考 ⑵卒業式総代など担当学生について ⑶日本私立看護系大学協会会長賞推薦について ⑷将来のキャリアを考える会プログラム ⑸4年生進路決定届結果 ⑹学生便覧奨学金項目変更
11	2016年3月3日	⑴平成28年度学部校舎防災訓練日程 ⑵学部および学生支援機構奨学金 ⑶平成28年度キャリア支援プログラム実施計画案およびキャリアを考える会報告 ⑷平成28年度新入生懇談会日程 ⑸看護学部駐車場許可

ＦＤ評価実施・研究推進委員会

委員長　永井　優子

１．所管事項

FD評価実施委員会と研究推進委員会は，それぞれ独立した組織であるが，平成26年度に引き続き，大学教員の教育・研究等の資質開発に関連する組織として一体として活動している。

本委員会の所轄事項は，本看護学部委員会設置規程でFD評価実施委員会（看護学務課）4事項，研究推進委員会（看護総務課）3事項が規定され，さらに学部長が必要と認めた事項が加わっている。

１）授業の内容および方法の評価に関する事項
２）教員の資質開発に関する事項
３）教員研修会の企画，実施に関する事項
４）教育内容等の改善のための組織的取り組みに関する事項
５）看護職等との共同研究に関する事項
６）研究活動評価に関する事項
７）研究活動の充実，活性化に関する事項

２．委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に提示する。委員長，副委員長，および野々山教授，塚本准教授は両委員会を兼任している。

FD評価実施委員会に関連する以下の5事業については委員長を中心に活動した。

・学生・教員による授業評価およびマニュアル
・FDマップとその活動
・FD研修会・講習会の企画・実施
・若手教員のための研修会
・新任教員のための初任時教育

一方，研究推進委員会については以下の3事項について副委員長を中心に活動した。

・看護学部教員共同研究費申請に関する事項
・競争的資金（特に科研費）獲得に関する事項
・他施設からの研究支援依頼に関する事項

表１　委員会構成員一覧

役割	FD評価実施委員会	研究推進委員会
委員長	永井　優子　教授	
副委員長	小原　泉　教授	
委員	野々山　未希子教授，塚本　友栄　准教授	
	村上　礼子　教授 平尾　温司　講師	川上　勝　准教授 田村　敦子　講師

３．活動内容

本年度は毎月第2木曜日16：00～17：00を原則に11回開催した（表2参照）。FD評価実施委員会では，授業評価マニュアルを改訂し，学生による授業評価票の回収率は学年進行に伴って減少傾向は変わらないものの，全体の平均回収率が5%程度上昇し，科目責任者による科目の総合評価報告書の全体で10%程度上昇した。また，FDマップ活用状況の調査結果に基づいて活用マニュアルを整備した。さらに3月9日（水）の午後「インストラクショナル・デザインと看護学教育」をテーマにFD研究会を開催した。講師に本学情報センター淺田義和講師による講義と職位別のグループ演習を行った。参加者数36名（参加率78.3%）で，好評であった。

研究推進委員会では，看護学部教員共同研究費の申請は最終的に12件に総額3,814,400円を配当し，残額で三脚一台と長短焦点プロジェクター1台を購入し，ICレコーダーを小児看護学に移管して，本研究費の適正使用とその報告が円滑にできるように申し合わせ事項や申請書と報告書の執筆要領等を修正した。また，芳賀赤十字病院看護部から8件の個別研究支援と研究発表会講評1件の依頼があり，教員2名の派遣を決定した。附属病院看護部からの研究発表会講評1件の依頼があり，委員2名を派遣した。附属さいたま医療センターからは11件（後日1件取り下げにより，10件）の個別研究支援と研究発表会における評価の依頼があり，3名の教員の派遣を決定した。朝日病院からの研究に関する研修会2件の講師派遣について1名の教員の派遣を決定した。併せて研究支援の現状に応じて，派遣回数や支援期間を原則として1年にする等の基準と費用負担について検討し，マニュアルを作成した。さらに，競争的資金間接経費としては数年かけて承認されるまで変更せずに同じ物品を申請する原則を取り決めた。研究費獲得のために，学長による研究費獲得のための講演会の参加を全教員に呼びかけたほか，若手教員のための競争的資金獲得に関する研修会として，8月10日（月）午前にミニ講話（講師:委員長）とフリー・ディスカッションを開催し，参加者は7名で好評であった。科研費申請総件数は11件（前年度比＋2件）で例年並みであった。

表2　委員会開催日程と審議事項

回	開催日程	審議事項
1	平成27年 4月16日（木） 16：00- 17：20	1．役割分担と会議開催日程 2．前年度看護学部教員共同研究費報告書の提出状況 3．今年度看護学部教員共同研究費申請状況と配分案 4．今年度科学研究費研究補助金交付状況 5．今年度競争的資金の間接経費への応募 6．前年度FD研究会の評価 7．今年度授業評価マニュアルの改訂検討 8．FDマザーマップcheck sheetの利用
2	5月12日（火） 18：00- 19：20	1．今年度看護学部教員共同研究費追加募集の結果 2．前年度看護学部教員共同研究費報告書修正版提出状況 3．前年度看護学部教員共同研究費購入備品の使用状況 4．若手教員のための研究費獲得促進事業計画 5．看護研究支援の申請結果 6．今年度FD研究会の計画 7．FDマップ活用状況調査計画 8．FDマザーマップcheck sheet利用契約 9．今年度授業評価マニュアルの改訂検討
3	6月11日（木） 18：00- 19：10	1．看護学部教員共同研究費残額の使用案 2．看護研究支援の依頼の申し合わせ案 3．前年度看護学部教員共同研究費報告書 4．今年度若手教員のための研究費獲得促進事業計画 5．今年度FD研究会の計画 6．FDマップ活用状況調査計画 7．前年度FD研究会報告書案
4	7月9日（木） 18：00- 19：40	1．本学部関連施設からの研究支援依頼の検討 2．研究支援依頼に関するマニュアルの検討 3．今年度若手教員のための研究費獲得促進事業計画 4．競争的資金の間接経費への応募結果 5．FDマップ活用状況調査結果 6．FDマニュアルの改訂版
5	9月10日（木） 16：00- 16：40	1．若手教員のための研究費獲得促進事業の評価 2．FDマップの活用状況調査結果の評価 3．研究支援依頼マニュアル検討
6	10月8日（木） 16：00- 17：00	1．研究支援依頼の検討 2．FDマップ活用法の検討 3．今年度前学期の授業評価実施結果 4．その他
7	11月12日（木） 16：05- 16：40	1．今年度競争的資金館説明比の追加応募 2．FDマップ活用法の決定 3．その他
8	12月10日（木） 16：00- 16：45	1．研究支援依頼状況と派遣者の決定 2．FDマップマニュアルの改訂 3．FD研究会の準備 4．その他
9	平成28年 1月13日（水） 9：00～9：20	1．次年度事業計画案の検討 2．次年度供促的資金の間接経費への応募 3．その他
10	2月10日（木） 16：00-17：10	1．次年度委員会事業日程案 2．今年度FD研究会の運営 3．研究支援に関する申し合わせの変更点
11	3月10日（木） 16：00-17：00	1．研究支援マニュアル改訂版 2．今年度FD評価実施委員会・研究推進委員会事業の評価 3．今年度FD研究会の評価 4．今年度後学期授業評価の結果 5．その他
12	3月23日（水） 17：00 期限メール審議	1．今年度FD研究会アンケート結果

広報委員会

委員長　中村　美鈴

1．所管事項

広報委員会は常設委員会であり，所轄事項（庶務担当部署：看護学務課）は自治医科大学看護学部委員会規程集より，次に示す通りである。

1）広報誌，パンフレット等の作成及び発行に関する事項
2）ホームページの作成及び管理に関する事項
3）オープンキャンパスの実施に関する事項
4）その他学部長が必要と認めた事項

2．委員会の構成

構成委員は6名で，表1に示す通りである。

表1　構成員と役割

氏　名	役　割
中村　美鈴　教　授	委 員 長
宮林　幸江　教　授	副委員長
横山　由美　教　授	委　員
角川　志穂　准教授	委　員
清水みどり　講　師	委　員
平尾　温司　講　師	委　員
渡辺　秀男　課　長	事 務 局
三上　博史　参　事	事 務 局
湯浅　芳恵　係　長	事 務 局

3．活動内容

1．平成27年度の実施事項および担当者について

1）広報誌，パンフレット等の作成および発行に関する事項（角川委員・横山委員）

⑴「Campus Guide」（清水委員・横山委員）

①「Campus Guide2015」（発行・納品・発送）

②「Campus Guide 2016」制作

＊平成28年度予算要求までに検討する事項

a．高校生等を対象とした簡易イメージパンレットと保護者等を対象とした情報を主体とした詳細パンフレットの2冊にするかどうかの検討

b．大学パンフレットと看護学部パンフレットをあわせて活用する広報活動

c．新入生・受験生・保護者のアンケート結果の分析と検討

⑵「ビタミンN」（平尾委員・角川委員，所管は看護総務課　担当：森下主事）

①第11号特集号の編集・7月上旬発行（業者は入札結果により近日決定予定）
原稿提出期限5月12日（月），原稿依頼開始（人選の要再検討）

②平成27年度読者アンケートの実施の検討について

③平成28年度予算要求までに検討する事項

a．印刷部数・総ページ数等を踏まえた経費

b．アンケート等の実施経費

④第12号企画・制作

＊平成27年度予算要求までに検討する事項

a．中期計画及び今年度事業計画を踏まえた保護者および実習施設等への広報内容

b．学長コメントの掲載について

c．本看護学部の1年間がイメージできる内容の検討

⑶オープンキャンパス周知ポスターの制作（横山委員，清水委員）

パンフレットに同封する「オープンキャンパス2016」および「オープンキャンパス2016」のポスターを4月下旬までに発行した。

2）ホームページの作成および管理に関する事項（中村委員長，清水委員）

⑴看護学部FD評価等を含めた記録物を公開するホームページなどの整備（中村委員長）

⑵教員データの更新状況の促進と管理（清水委員）

⑶英語表記に関する検討（中村委員）

3）オープンキャンパスの実施に関する事項（中村委員長，宮林副委員長他，全委員）

⑴第1回オープンキャンパスおよび高等学校進路指導担当を対象とした進学説明会の実施計画の立案と実施評価（中村委員長，他委員）

⑵第2・3回オープンキャンパス実施計画の立案と修正，実施評価（中村委員長，宮林副委員長，他全委員）

参加者は，

⑶適宜，「看護学部ムービー2015」の制作（平尾委員）

⑷記念品の検討と協力学生の業務管理（角川委員）

⑸次年度オープンキャンパスに関する予算要求に関する検討事項（継続）

①昼食の無料提供について

②ポロシャツ等協力学生の経費，記念品，実施方法等について

③新入生，受験生，保護者アンケート結果の分析と検討

4）高等学校等の出前授業・進路説明会への対応（宮林副委員長）

⑴下野市立南河内第二中学校の授業協力（5月21日，中村委員長，5月29日；宮林福委員長，平尾委員，所管は看護総務課，担当：塙課長）

①内容・実施方法の調整（宮林副委員長・中村委員長・塙課長）

「法学」選択学生の参加の免除について検討を要する。

②4年次学生の出欠確認，交流事業責任者（平尾委員）

③中学校担当教員との連絡調整（塙課長，中村委員長）

⑵指定校訪問（全教員，平成27年度入学試験推薦指定校は近日決定予定，6月以降）

初回担当教職員の場合は，経験豊かな教職員との組み合わせで訪問する。

⑶出前授業・進路説明会の対応（2年目以降の全教員に協力依頼，別紙参照）

⑷看護学部情報掲載業者web版および雑誌情報の更新・学生への原稿依頼等

⑸「本看護学部広報活動用パワーポイント」の作成

昨年度のオープンキャンパスおよび説明会等で使用したパワーポイントを適宜，修正・加筆して，出前授業等を担当する教員が活用できるように整備する。

⑹「広報活動担当教員マニュアル」の作成

今年度から対応する助教，新任教員，看護基礎科学教員も含めて対応できるように，昨年度作成した「指定校訪問マニュアル（試行版）」について修正・加筆し，制作する。

⑺受験情報業者主催の広報活動セミナーへの参加

2．広報委員会　審議事項

・委員会開催および所管事業日程（案）：定例開催（第3木曜日　前学期16：30－17：30，9月以降16：00－17：00，特例あり）とする。会議資料は，原則として委員会開催週月曜日17：00までに委員長と湯浅係長に提出する。審議事項の通過がある場合も同期限までに委員長に直接連絡する。具体的には，表1に示す通りであった。

表3　平成27年度広報委員会日程および審議事項

回	日程	行事名・審議事項
	4月1日（月） 4月13日（月） 15：50 4月16日（木）	2・3・4年生広報委員会関連ガイダンス 1年生広報委員会関連ガイダンスとアンケート 全学年オープンキャンパス学生募集説明会12：00～12：40
1	4月16日（木） 16：00～17：30 予定	1. 平成27年度活動内容・計画・役割分担の決定 2. 平成27年度進路担当教諭への説明会の実施（案） 3. 平成27年度第1･2回オープンキャンパス実施（案） 4. 南河内第2中学校体験学習実施計画（案） 5. 「ビタミンN」第12号進捗状況報告
	5月21日（木） 5月29日（金）	下野市南河内第2中学校体験学習 1回目 下野市南河内第2中学校体験学習 2回目
2	5月21日（木） 16：30-17：30 予定	1. 平成27年度第3回オープンキャンパス実施計画（案） 2. 看護学部広報活動各担当者マニュアル（案） 3. 各担当の進捗状況の報告
	5月23日（土）	午前　高等学校進路指導担当教諭等への進学説明会 午後　第1回オープンキャンパス
3	6月18日（木） 16：30-17：30 予定	1. 高等学校進路指導担当教員等への進学説明会実施結果と評価 2. 第1回オープンキャンパス実施結果および評価 3. 第2・3回オープンキャンパス実施計画（案） 4. 新入生および保護者アンケート集計結果と分析 5. 各担当の進捗状況の報告
	7月10日（金）	ビタミンN第12号発行予定
4	7月16日（木） 16：30-17：30 予定	1. 第2・3回オープンキャンパス最終調整案 2. 平成27年度予算案の検討 3. 各担当の進捗状況の報告
	7月25日（土） 8月21日（金）	第2回オープンキャンパス 第3回オープンキャンパス
5	9月17日（木） 16:00～17:00 予定	1. オープンキャンパス実施評価 2. 教員情報の掲載状況の確認結果 3. 各担当の進捗状況の報告

6	10月15日（木） **16:00～17:30** **予定**	1. 適宜，オープンキャンパス実施評価 2. 「ビタミンN」第12号評価 3. 「Campus Guide 2016」の評価 4. 看護学部ムービー2016の評価 5. 各担当の進捗状況の報告
7	11月19日（木） 16：00～17：00 予定	1. 「ビタミンN」第13号企画・編集方針（案） 2. 「Campus Guide 2017」企画・編集方針（案） 3. 各担当の進捗状況の報告
8	12月17日（木） 16：30～17：30 予定	1. 「ビタミンN 」第13号内容構成・執筆者の決定 2. 平成27年度オープンキャンパス等の企画概要（案） 3. 「Campus Guide 2017」内容構成・執筆者の決定 4. 各担当の進捗状況の報告・検討各担当の進捗状況の報告・検討
9	1月21日（木）	適宜，開催
10	2月18日（木） 16：00～17：00 予定	1. 平成27年度オープンキャンパス等のHP掲載（案） 2. 平成27年度広報活動の評価 3. 各担当の進捗状況の報告・検討
11	3月17日（木）	適宜，開催

ゴチック体は広報委員会行事を示す。

編集委員会

委員長　本田　芳香

１．所轄事項

本委員会は，自治医科大学看護学部年報，自治医科大学大学院看護学研究科年報および自治医科大学看護学ジャーナルの刊行を所轄する。

２．委員会の構成

本委員会の構成員と役割は表１に示すとおりである。

表1　構成員と役割

役　割	氏　名
委員長	本田教授
副委員長	大塚教授
年報の編集・刊行担当	大塚教授 飯塚講師
看護学ジャーナル担当	本田教授 小原教授 塚本准教授 千葉講師

３．活動内容

本委員会は，今年度は表2に示すとおり3回の委員会を開催し，平成27年度年報の編集内容の検討，看護学ジャーナル規定の運用方法の一部改定について検討をおこなった。

表2　委員会開催

回	開催日	審議事項
1	2015年4月16日	年間方針，年間計画,役割分担 年報の編集内容の一部変更・追加検討
2	2015年5月25日	看護学ジャーナル投稿論文審査規程の運用
3	2016年2月4日	看護学ジャーナル第12巻掲載論文の一部取り下げ，看護学ジャーナル第13巻投稿論文の採否と原稿の種類の決定 年報の編集他

自治医科大学看護学部年報（第13号）は，自治医科大学大学院看護学研究科年報（第9号）とあわせて発行した。編集内容は，年報第13号では，特別報告として，ブータン医科大学との国際交流協定について国際交流研修の先駆的取り組みを執筆していただいた。また活動報告として，前年度の国家試験合格率が，看護師，保健師，助産師とも新卒100％であった活動を執筆していただいた。

自治医科大学看護学ジャーナル（第13巻）は，投稿論文は計2編，内訳は資料１編，実践報告１編であった。1編につき1名の担当編集委員を選定，2名の査読者が論文内容の査読にあたった。

さらにより質の高い看護学ジャーナル編集を目指し，看護学ジャーナルの投稿論文審査規程の投稿論文査読方法の一部見直しをおこなった。

なお，自治医科大学看護学部年報（第13号）および自治医科大学大学院看護学研究科年報（第9号）は，国立国会図書館をはじめ，政府関係機関，学外の実習関連施設，全国の看護系大学，栃木県関係，県内の看護系学校，総合病院などへ送付した。

国家試験対策委員会

委員長　渡邉　亮一

１．所管事項

本委員会の所管事項は，保健師・助産師・看護師国家試験を受験する本学部の在学生や卒業生が国家試験に合格するように，学習環境を整え，学習相談などの支援を行うことである。

２．委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示す。また，本委員会の下部組織として設置されたワーキンググループの構成員を表2に示す。委員会活動は，委員会の委員とワーキンググループの委員とが協力して行った。

表1　委員会の構成員と役割

氏　名	役　割
渡　邉　亮　一　教　授	委員長
野々山　未希子　教　授	副委員長
北　田　志　郎　准教授	委　員
浜　端　賢　次　准教授	委　員
島　田　裕　子　講　師	委　員
長谷川　直　人　講　師	委　員

表2　ワーキンググループの構成員

氏　名	役　割
石　井　慎一郎　助　教	委　員
江　角　伸　吾　助　教	委　員
小　西　克　恵　助　教	委　員
篠　原　有美子　助　教	委　員
湯　山　美　杉　助　教	委　員

３．活動内容

本年度は，表3に示すような議題で計7回の委員会を開催した。

委員会の具体的な活動としては，まず国家試験受験に向けてのガイダンスを3回実施した。また，これ以外に，3年生を対象にしたガイダンスを1回実施した。次に，国家試験対策のための模擬試験を，保健師については2回，助産師については2回，看護師については3回実施した。これらの模擬試験の成績を踏まえて，学生の個別面接・指導を行った。個別面接・指導は，学生を5グループに分け，それぞれのグループを本委員会の委員1名とワーキンググループの委員1名とがペアを組んで担当することとし，学習方法や学習上の悩みなどの学習相談を行った。また，国家試験出題科目を担当する他の教員にも協力を要請し，2015年9月および2015年11月から2016年1月にかけて，国家試験対策ゼミを開講した。

学習環境の整備については，学生サロンに設けられた国家試験対策コーナーに，受験参考書や問題集を置き，学生がいつでも利用できるようにした。また，業者が実施する国家試験対策模擬試験・国家試験対策講義（講習）のパンフレットを置き，学生が国家試験に備えるための便宜を図った。

2015年度の国家試験は，看護師が2016年2月14日（日）に，保健師が2016年2月16日（火）に，助産師が2016年2月17日（水）に実施され，その結果は表4に示すとおりであった。2015年度の全国平均の合格率は，看護師が97.1％，保健師が97.1％，助産師が100.0％であった。本学部の合格率は，いずれも全国平均を上回り，助産師の合格率は100％であった。次年度以降も高い合格率を維持できるように，引き続き国家試験対策に力を注いでいく必要がある。

表3　2015年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2015年 4月16日	・新委員の紹介 ・年間スケジュールについて ・4年生に対する国家試験対策ガイダンスの報告 ・低学年対象専門基礎科目実力確認テストの結果について ・担当学生の個別面接の実施について
2	5月21日	・国家試験対策模擬試験マニュアルについて ・担当学生の個別面接の経過について
3	7月9日	・第1回看護師国家試験対策模擬試験の実施状況ならびに結果について ・9月に実施する国家試験対策ゼミについて ・担当学生の状況について
4	9月10日	・保健師・助産師・看護師国家試験の施行（官報）について ・国家試験受験説明会の日程について ・国家試験対策模擬試験の日程等について ・国家試験受験説明会の日程について ・担当学生の状況について
5	11月19日	・国家試験対策模擬試験の受験状況および結果の報告 ・国家試験出願手続説明会等の開催について ・3年生に対する国家試験ガイダンスの開催結果について ・国家試験対策ゼミの予定について ・担当学生の状況について

6	2016年 1月14日	・国家試験対策模擬試験の受験状況の報告 ・国家試験対策に関するアンケート調査について ・次年度に向けた国家試験対策推薦図書について ・担当学生の状況について
7	3月25日	・第102回保健師・第99回助産師・第105回看護師国家試験の合格発表について ・国家試験対策に関するアンケート調査の結果について ・次年度に向けた国家試験対策推薦図書について ・次年度の国家試験対策委員会への申し送り事項について

表4　2015年度保健師助産師看護師国家試験の結果

区　分	資格	受験者数（人）	合格者数（人）	合格率（%）
自治医科大学看護学部	看護師	105	102	97.1
	保健師	104	101	97.1
	助産師	6	6	100.0
全　国	看護師	62,154	55,585	89.4
	保健師	8,799	7,901	89.8
	助産師	2,008	2,003	99.8

臨地実習指導研修委員会

委員長　半澤　節子

1．所管事項

本委員会の所管事項は，臨地実習指導研修会を企画，実施，評価するという一連の業務を担当する。平成18年度に第1回目の研修会を開催し，平成27年度には10回目の開催となった。

本研修会の目的は，自治医科大学看護学部の教育の理念を踏まえ，臨地実習の場において教員と臨地実習指導者とが相互理解を深め，協力して一貫した指導を提供できることとしている。そのため，以下の3つの目標を設定している。

① 本看護学部の教育理念に基づいた看護学実習の目的，目標を理解する。
② 本看護学部の学生の特徴を踏まえた臨地実習指導について考える。
③ 臨地実習の場における教育支援方法について考える。

受講対象者は，看護師免許取得後，3年以上の看護実務経験を有する，現在看護学部の臨地実習を行う施設に勤務している，研修の全日程に参加可能という3つの条件を満たす者としている。

本研修会は2日間のプログラムにより構成されている。両日ともに午前の講義，午後のグループワークとなっており，グループワークでは，臨地実習指導に際して起こりやすい状況設定についてディスカッションするなど，実践的な内容のプログラムとしている。また，本研修会を受講した参加者には，修了証を授与している。

2．委員会の構成

表1　構成員と役割

氏　名		役　割
半澤　節子	教　授	委員長
宮林　幸江	教　授	副委員長
村上　礼子	准教授	
里光やよい	准教授	
佐々木雅史	講　師	
福田　順子	講　師	
看護総務課　大石参事，坂本係長，津久井主事		事務局

3．活動内容

本委員会では，研修会の企画，実施，評価の一連の業務を進めるため，年5回の委員会を開催した。

平成27年度の参加者は48人であり，内訳は，附属病院28人，とちぎ子ども医療センター5人，さいたま医療センター3人，外部実習施設など12人であった。臨地実習指導の経験では「なし」が32人（67%）と，今後実習指導を予定している者が多かった。アンケート結果によると，「研修内容は全体として満足できた」，「臨地実習指導の基本が理解できた」，「看護実践の場における教育支援方法の実際を学ぶことができた」，「研究環境が適当であった」などいずれも肯定的な回答が8割を占めていた。次年度も，引き続き，講義，グループワークともに充実を目指して企画，実施，評価を行う。

表2　平成27年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月16日	1. 活動計画の検討 2. 研修会のマニュアル，役割分担，案内，講師選定案
2	8月20日	1. 申し込み状況 2. プログラムと当日の役割分担 3. アンケート
3	9月17日	1. 参加状況，アンケートの集計結果 2. 研修会当日の担当者からの報告 3. 次年度の課題の検討
4	11月19日	1. 次年度のマニュアルとアンケートについて 2. 講義担当講師の選定
5	2月1日	1. 次年度の申し込み条件の検討

入試実施委員会

委員長　横山　由美

1．所管事項

入学試験実施に関する事項であり，具体的には入試実施日の役割分担・実施手順に関すること，入試実施説明会に関することである。

2．委員会の構成

表1　構成員と役割

氏　　名	役　割
横山　由美　教　授	委員長
渡邉　亮一　教　授	副委員長
浜端　賢次　准教授	委　員
飯塚　秀樹　講　師	委　員
清水みどり　講　師	委　員
千葉　理恵　講　師	委　員
渡辺　秀男　課　長	事務局
三上　博史　参　事	事務局
湯浅　芳恵　係　長	事務局

3．活動内容

本年度は，3回の委員会を開催した。

第1回の委員会では，構成員および所管事項，入学試験の日程，入学試験における変更点の確認等を行った。

第2回の委員会では，推薦入学試験の入試実施マニュアルの点検を行い，各委員から出された疑義・修正意見について審議・検討を行い，改訂・作成した。また感染の疑いがある受験者に対する対応については感染症の発生・流行の動向を見ながら，必要な場合に配布使用していくこととした。

作成したマニュアルを用いて2015年11月12日（木）に推薦入試実施説明会を開催し，推薦入学試験を11月21日（土）に実施した。

第3回の委員会では，一般入学試験の入試実施マニュアルの点検を行い，各委員から出された疑義・修正意見について審議・検討を行い，改訂・作成した。また感染の疑いがある受験者に対する対応については感染症の発生・流行の動向を見ながら，必要な場合に配布使用していくこととした。2016年1月21日（木）に作成したマニュアルを用いて一般入試実施説明会を開催し，一般入学試験（一次試験）を1月30日（土）に，一般入学試験（二次試験）を2月11日（木）に実施した。

推薦入学試験，一般入学試験とも，支障なく実施できた。

表2　2015年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2015年4月30日	1. 入試実施委員会の委員等の構成について 2. 入試実施委員会の所管事項について 3. 平成27年度看護学部入学試験関係の日程について 4. 平成28年度看護学部入学試験における変更点 5. その他 一般入試の面接試験会場について 一般入試の筆記試験準備について
2	2015年10月27日	1. 平成28年度推薦入学試験実施マニュアルについて
3	2016年1月4日	1. 平成28年度一般選抜入学試験実施マニュアルについて

大学院看護学研究科委員会等報告

大学院看護学研究科委員会

委員長　春山　早苗

1．所管事項

⑴学則の制定及び改廃に関する事項
⑵研究科の教育課程に関する事項
⑶入学，休学，退学，転学，転入学，除籍及び賞罰に関する事項
⑷試験に関する事項
⑸学位論文審査に関する事項
⑹その他研究科の学事に関する重要事項

2．委員会の構成

⑴「自治医科大学大学院学則」第41条第2項に規定する者（研究科長，専攻分野主任教授，研究科長が指名する教授）

表1　構成員と役割

氏　名	役　割
春山　早苗	委員長（研究科長）※
半澤　節子	委　員（幹事長）※※
大塚　公一郎	委　員
小原　泉	委　員
永井　優子	委　員
中村　美鈴	委　員　※※※
成田　伸	委　員
野々山未希子	委　員
本田　芳香	委　員
宮林　幸江	委　員
横山　由美	委　員
渡邉　亮一	委　員
村上　礼子	委　員

※地域看護管理学分野主任兼ねる
※※広域実践看護学分野主任兼ねる
※※※実践看護学分野主任兼ねる

3．活動内容

⑴「自治医科大学大学院学則」第41条第1項の規定により，看護学研究科の学事に関する重要事項について審議を行うため，表2のとおり看護学研究科委員会を開催した。

表2　2015年度の審議事項

回	開催日	審議事項
①	4月21日	・平成27年度大学院看護学研究科長期履修制度申請について
2	5月7日	・平成27年度看護学研究科履修科目（博士前期・博士後期）の決定について ・平成27年度大学院看護学研究科既修得単位の認定について ・平成28年度自治医科大学大学院看護学研究科博士前期課程・後期課程（科目等履修生）学生募集要項について ・平成27年度博士前期課程科目等履修生後期開講科目一覧（追加募集）について ・研究指導教員の変更・決定について ・自治医科大学大学院看護学研究科論文再入学者に関する規程の制定について
3	7月2日	・看護学研究科教員任用申請について ・平成28年度看護学研究科予算要求について ・平成28年度看護学研究科出願資格認定試験及び入学試験の実施要領（案）について
4	9月3日	・休学願について ・平成28年度看護学研究科博士前期課程出願資格認定試験合否判定について ・平成28年度看護学研究科博士前期課程入学試験実施マニュアルについて ・予算要求に伴う看護学研究科博士後期課程研究費の取り決め（案）について ・平成28年度看護学研究科非常勤講師の任用（追加）について
5	9月24日	・平成27年度科目等履修生（追加募集）について ・平成27年度科目等履修生（後期開講科目）の履修取消について ・看護学研究科教員任用申請について
6	10月1日	・平成28年度看護学研究科（博士前期課程）入学試験合否判定について ・平成27年度看護学研究科科目等履修生単位取得（前期課程・後期課程）認定について ・平成27年度看護学研究科第3回合同研究セミナーについて ・平成27年度看護学研究科（博士前期・後期課程）時間割について ・平成27年度看護学研究科（博士後期課程）入学生の副研究指導教員について ・研究計画審査について
⑦	12月1日	・平成27年度大学院看護学研究科博士学位論文の審査について
8	12月14日	・平成27年度論文審査（口頭試問）及び最終試験（発表会）について ・平成27年度看護学研究科（博士前期・博士後期）論文審査実施要領について ・不正引用防止対策について
9	1月7日	・平成27年度博士後期課程論文審査（口頭試問）の結果について ・平成28年度看護学研究科研究計画支援委員会（博士前期課程）日程について ・平成28年度看護学研究科研究計画審査会（博士後期課程）日程について ・平成29年度看護学研究科入学試験日程について

		・科目等履修生募集日程（平成28年度追加募集・平成29年度募集）について ・平成28年度看護学研究科学年暦について ・平成28年度看護学研究科授業科目責任者（博士前期・博士後期）の決定について ・平成28年度看護学研究科（博士後期課程）入学試験実施マニュアルについて
10	2月4日	・平成27年度博士前期課程論文審査（口頭試問）の結果について ・平成27年度学位論文発表会（最終試験）スケジュールについて ・平成28年度科目等履修生（博士前期課程）の決定について ・大学院教員の任用及び担当授業科目の追加承認について ・平成28年度大学院看護学研究科非常勤講師の任用について ・平成28年度博士前期課程入学予定者の研究指導者の決定と在校生の研究指導者の変更について ・平成28年度看護学研究科学年暦について ・博士後期課程学位論文審査報告書について
11	2月15日	・平成27年度看護学研究科博士（看護学）学位論文審査最終試験の判定について ・平成27年度看護学研究科修士（看護学）学位論文審査最終試験の判定について
12	2月18日	・平成28年度看護学研究科（博士後期課程）入学試験合否判定について
13	3月2日	・平成27年度看護学研究科（博士前期・博士後期）修得単位の認定について ・平成27年度看護学研究科（博士前期・博士後期）修了認定について ・平成27年度看護学研究科科目等履修生の単位修得（後期履修）について ・平成28年度看護学研究科入学生の研究指導教員（博士後期課程）の決定について ・平成28年度看護学研究科ティーチングアシスタントの決定について ・平成28年度看護学研究科修士・博士（看護学）学位申請日程について ・平成28年度看護学研究科新入生・在学生オリエンテーションについて ・平成28年度看護学研究科運営組織について ・平成28年度看護学研究科委員会議事日程について ・退学願について ・平成28年度科目等履修生（博士後期課程）決定について ・科目責任者の追加について ・長期履修期間短縮申請について ・博士論文公表について ・平成28年度大学院看護学研究科非常勤講師任用審査について ・平成28年度大学院看護学研究科研究生の受入について
14	3月24日	・休学願について ・大学院看護学研究科教員（主研究指導教員）任用について ・平成28年度看護学研究科非常勤講師任用について ・自治医科大学大学院博士課程奨学資金申請者の選考について ・大学院看護学研究科博士後期課程研究費について ・大学院看護学研究科博士後期課程入学予定者のティーチングアシスタント申請について

（回数表示の○囲みは持回り審議）

研究科委員会幹事会

幹事長　半澤　節子

１．所管事項

研究会委員会幹事会の所管事項は，自治医科大学大学院看護学研究科委員会幹事会運営内規に基づき，以下の内容を審議することを定めている。

⑴自治医科大学大学院看護学研究科委員会（以下「研究科委員会」という）に付議する事項に関する事前審議

⑵自治医科大学大学院看護学研究科に係る企画立案

⑶その他大学院看護学研究科の運営に係る日常業務の処理

２．委員会の構成

委員会の構成員と各委員の役割について，表1に示した。

表1　構成員と役割

氏　　名	役　　割
春山　早苗　教授	研究科長 地域看護管理学分野主任
半澤　節子　教授	幹事長 広域実践看護学分野主任
中村　美鈴　教授	実践看護学分野主任 広報委員長
永井　優子　教授	FD評価実施委員長
成田　伸　　教授	入試実施委員長
本田　芳香　教授	カリキュラム委員長
看護学務課　佐藤	事務局担当

３．活動内容

平成27年度は計11回の研究科委員会幹事会を開催した。平成27年度の審議事項の概要を表2に示した。

研究科委員会幹事会の所管事項が適時審議されるよう，幹事会の定例会における議題を年度当初に設定し，必要な検討事項について各委員会において審議を行い，幹事会ではその内容に基づいて委員長より報告がされ，審議した。

表2　平成27年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月21日	1. 平成27年度看護学研究科履修科目（博士前期・後期課程）の決定について 2. 既修得単位の認定について 3. 看護学研究科論文再入学者に関する規程の検討について 4. 平成28年度看護学研究科博士課程出願資格認定試験ならびに入学試験の学生募集要項について 5. 平成27年度追加募集及び28年度看護学研究科科目等履修生の募集要項について 6. 平成28年度看護学研究科博士課程出願資格認定試験ならびに入学試験の学生募集要項、科目等履修生募集要項のホームページへの掲載について
2	5月26日	1. 平成28年度看護学研究科博士課程出願資格認定試験ならびに入学試験の学生募集要項、科目等履修生募集要項のホームページへの掲載について 2. 平成27年度看護学研究科博士課程説明会の実施について 3. 大学院パンフレット・学生募集要項の送付先について
3	6月23日	1. 平成28年度看護学研究科出願資格認定試験ならびに入学試験の実施要領（案）について 2. 平成28年度大学院看護学研究科（博士前期課程）入学試験のマニュアルについて 3. 自治医科大学大学院博士課程奨学資金申請者の選考について 4. 看護学研究科非常勤講師任用審査について 5. 看護学研究科論文再入学者に関する規程について 6. パンフレット等の送付先について
4	7月21日	1. 平成28年度大学院看護学研究科予算（案）について 2. 看護学研究科非常勤講師任用審査について 3. 経常費補助金調査　大学院担当者の根拠資料について
5	9月15日	1. 平成27年度大学院看護学研究科科目等履修生単位修得（前期課程・後期課程）認定について 2. 看護学研究科教員任用審査について 3. 平成27年度第3回合同研究セミナーについて 4. 平成28年度博士前期課程時間割について
6	10月20日	1. 大学院広報パンフレット2017構成案について 2. 大学院看護学研究科博士前期課程履修科目の追加について

7	11月24日	1. 平成27年度論文審査（口頭試問）及び最終試験（発表会）実施方法について 2. 平成27年度看護学研究科（前期・後期）論文審査実施要領について 3. 平成28年度看護学研究科（博士後期課程）入学試験実施マニュアルについて 4. 看護学研究科（博士前期課程）のカリキュラム評価について 5. 不正引用防止対策について
8	12月22日	1. 平成28年度看護学研究科看護学研究計画審査会（博士後期課程）日程について 2. 平成28年度看護学研究科研究計画支援委員会（博士前期課程）日程について 3. 平成29年度看護学研究科入学試験日程について 4. 平成29年度看護学研究科科目等履修生の入学試験日程について 5. 平成28年度看護学研究科学年暦について 6. 平成28年度大学院看護学研究科科目責任者（博士前期・博士後期）の決定について 7. 平成28年度大学院要綱について 8. 看護学研究科（博士前期課程）のカリキュラム評価について 9. 研究計画審査会の実施について
9	1月19日	1. 看護学研究科教員の任用及び担当授業科目の追加申請について 2. 平成28年度看護学研究科非常勤講師の任用について
10	2月23日	1. 平成28年度看護学研究科新入生・在学生オリエンテーションについて 2. 平成28年度看護学研究科ティーチングアシスタントの決定について 3. 平成28年度看護学研究科学位申請日程について 4. 平成28年度看護学研究科非常勤講師任用審査について 5. 平成28年度大学院要綱について 6. 看護学研究科FD研究会について 7. 平成29年度大学院看護学研究科学生募集要項と博士前期課程の面接個票について 8. 博士前期課程　課題研究の科目責任者について
11	3月22日	1. 平成28年度幹事会審議事項について 2. 大学院看護学研究科教員（主研究指導教員）の任用審査について 3. 平成28年度看護学研究科非常勤講師任用審査について 4. 自治医大学大学院博士課程奨学資金申請者の選考について 5. 休学について 6. 大学院看護学研究科博士後期課程研究費について

教育研究分野別報告

看護基礎科学

教授　渡邉　亮一

1．スタッフの紹介

教　授　渡邉　亮一
教　授　大塚　公一郎
准教授　北田　志郎
講　師　飯塚　秀樹
講　師　平尾　温司

2．教育の概要

1）看護基礎科学に関する教育概要

（1）情報学（1年次後学期2単位：必修）
科目責任者である渡邉が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

（2）統計学（2年次前学期1単位：必修）
科目責任者である渡邉が15時間を担当して講義を行った。

（3）統計学演習（2年次後学期1単位：必修）
科目責任者である渡邉が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

（4）疫学（4年次前学期2単位：必修）
科目責任者である渡邉が30時間を担当して講義を行った。

（5）心理学（2年次前学期2単位：必修）
科目責任者である大塚が30時間を担当して講義を行った。

（6）人間関係論（1・2年次前学期1単位：選択）
科目責任者である大塚が5時間，髙村寿子非常勤講師（自治医科大学名誉教授）が10時間を担当して講義ならびに演習を行った。

（7）倫理学（1年次後学期1単位：必修）
科目責任者である大塚が15時間を担当して講義を行った。

（8）文化人類学入門（1・4年次後学期2単位：選択）
科目分担者である青木啓将非常勤講師（早稲田大学教員）が12時間，山越英嗣非常勤講師（早稲田大学教員）が12時間，科目責任者である大塚が6時間を担当して講義を行った。

（9）病態学概論（1年次後学期2単位：必修）
科目責任者である北田が30時間を担当して講義を行った。

（10）病態学各論（2年次前学期2単位：必修）
科目責任者である北田が30時間を担当して講義を行った。

（11）臨床検査学（2年次後学期1単位：必修）
科目責任者である北田が7時間，紺野　啓非常勤講師（本学医学部准教授）が4時間，松浦克彦非常勤講師（本学さいたま医療センター）が2時間，出井　充非常勤講師（本学RIセンター管理主任）が2時間を担当して講義を行った。

（12）基礎英語（1・2年次前学期1単位：選択）
科目責任者である飯塚が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

（13）医療英語コミュニケーション（1・2年次後学期1単位：選択）
科目責任者である飯塚が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

（14）医療英語（2・4年次前学期1単位：選択）
科目責任者である飯塚が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

（15）人体の構造と機能Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）
科目責任者である平尾が28時間，野田泰子非常勤講師（本学医学部教授）が2時間を担当して講義を行った。

（16）人体の構造と機能Ⅱ（1年次前学期2単位：必修）
科目責任者である平尾が28時間，野田泰子非常勤講師（本学医学部教授）が4時間，加藤一夫非常勤講師（筑波技術大学教授）が8時間を担当して講義および実習を行った。

（17）免疫学（1年次後学期2単位：必修）
滝　龍雄非常勤講師（元北里大学准教授）が18時間，補助科目責任者である平尾が12時間を担当して講義を行った。

2）看護基礎科学以外の担当教育概要

（1）国際看護論（4年次前学期1単位：必修）
飯塚は，1時間の講義を担当した。

（2）看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：選択）
渡邉，大塚，北田，平尾は，それぞれ30時間の演習を担当した。

（3）文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）
渡邉，飯塚はそれぞれ2時間の講義を，飯塚は10時間の演習を担当した。

（4）研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

渡邉は，2時間の講義を担当した。

（5）へき地の生活と看護（1～4年次後学期1単位：選択）

北田は，2時間の講義と6時間の実習を担当した。

（6）対象の理解実習（1年次後学期2単位：必修）

渡邉，大塚，北田，飯塚，平尾は，それぞれ8時間の実習を担当した。

（7）公衆衛生看護実習（3年次後学期4単位：必修）

渡邉，大塚，北田，飯塚，平尾は，それぞれ6時間の実習を担当した。

（8）大塚は，本学医学部3年生を対象に，2時間の社会精神医学の系統講義を行った。

（9）大塚は，本学医学部4年生を対象に，精神科臨床実習クルズス「サイコネフロロジー」の講義を計16時間行った。

（10）飯塚は，本学医学部1年生を対象に，12時間の「医療英語コミュニケーション」の講義を行った。

（11）平尾は，本学医学部2年生を対象に，96時間の解剖学実習を担当した。

（12）平尾は，本学医学部2年生を対象に，12時間の神経解剖学実習を担当した。

３．研究の概要

（1）上級医療情報技師の育成に関する研究

渡邉は，一般社団法人日本医療情報学会医療情報技師育成部会が認定する資格である「医療情報技師」および「上級医療情報技師」の育成にかかわっているが，そのなかで「上級医療情報技師」の育成制度や資格制度に関連した研究を行った。

（2）自閉症スペクトラムの精神病理学的研究

大塚は，医学部総合教育部門の稲垣　諭教授とともに，自閉症スペクトラムの精神病理学的，精神分析学的研究を行った。

（3）日系ブラジル人児童のメンタルヘルス支援

大塚は，日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C））による研究課題「レジリエントなコミュニテイ形成をめざして－在日ブラジル人の震災経験を踏まえた支援の検討－」（研究代表者：野﨑章子　千葉大学）に研究分担者として参加し，同研究を実施した。

（4）日系ブラジル人の多文化間精神医学的研究

大塚は，本学附属病院精神科において，日系ブラジル人を中心とした外国人患者の診療にあたるとともに，多文化間精神医学的研究を行った。

（5）在宅医療における身体科医と精神科医の連携モデル構築に関する研究

北田は，在宅医療助成・勇美記念財団研究費による研究課題「在宅医療における身体科医と精神科医の連携モデル構築に関する研究」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，渡邉，大塚，あおぞら診療所の松川二三子であった。

（6）在宅医療における東アジア伝統医学の位置づけに関する研究

北田は，在宅医療における東アジア伝統医学，特に漢方薬治療の位置づけと効果に関する研究を行った。

（7）在宅医療における医療－介護連携に関する研究－

北田は，認知症グループホームへの訪問診療を通じて医療・介護連携に関する研究を行った。

（8）プラストミック標本を用いた膀胱ろうカテーテル交換シミュレータの開発

平尾は，看護学部共同研究費による研究課題「プラストミック標本を用いた膀胱ろうカテーテル交換シミュレータの開発」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，本学部の川上　勝准教授，田村敦子講師，福田順子講師，本学医学部教員の黒川真輔，附属病院看護師の田口深雪であった。

（9）ハシブトガラス（*Corvus macrorhynchos*）の尾腺および盲腸の形態に関する研究

平尾は，ハシブトガラスの尾腺の形態に関する研究を代表者として実施した。研究分担者は，宇都宮大学農学部の杉田昭栄と青山真人であった。

４．その他

（1）渡邉は，平成26年度に引き続いて，財団法人日本医療機能評価機構の評価調査者として，第三者病院機能評価事業に参画した。

（2）渡邉は，日本医療福祉設備学会副会長，理事ならびに総務委員会委員長，日本医療情報学会理事・評議員ならびに利益相反委員会委員長，日本診療情報管理学会評議員などを務めた。

（3）渡邉は，第41回日本診療情報管理学会学術大会において，一般演題の座長を務めた。

（4）渡邉は，第35回医療情報学連合大会（第16

回日本医療情報学会学術大会）のプログラム委員を務めた。
（5）渡邉は，非常勤講師として，女子栄養大学栄養学部保健栄養学科の「情報科学概論」の講義（30時間）を，一般社団法人南埼玉郡市医師会久喜看護専門学校の「看護学概論Ⅲ（看護研究）」の講義および演習（30時間）を担当した。
（6）大塚は，平成21年1月より多文化間精神医学会評議員，同年9月より同学会機関誌「こころと文化」編集委員を務めている。
（7）大塚は，平成22年10月より日本精神病理・精神療法学会評議員を務めている。
（8）大塚は，非常勤講師として，栃木県立衛生福祉大学校看護学科専科で2時間の精神医学の講義を行った。
（9）北田は，平成22年9月より日本中医学会評議員を務めている。
（10）北田は，平成24年度より介護支援専門員実務研修受講試験委員を務めている。
（11）北田は，「自治医科大学看護学ジャーナル」の投稿論文の査読を行った。
（12）北田は，第17回日本在宅医学会の一般演題抄録の査読を行った。
（13）北田は，第5回日本中医学会の一般演題抄録の査読を行った。
（14）北田は，第17回日本在宅医学会において，シンポジウム「認知症ケアの根幹を見つめる」を企画し，座長を務めた。
（15）北田は，第37回日本POS医療学会大会・市民公開講座において，シンポジウム「在宅医療・ケアにおける情報共有とPOS」を企画し，座長を務めた。
（16）平尾は，宇都宮大学農学部動物生産学科の4年生を対象に，研究課題「カラス類における三叉神経枝の分布について」について研究指導を行った。
（17）平尾は，Frontiers in Ecology and Evolution, section Behavioral and Evolutionary Ecologyの査読員を務め，投稿論文の査読を行った。
（18）平尾は，宇都宮大学大学院農学研究科（修士課程）の外部アドバイザーを務めた。
（19）平尾は，群馬県立館林女子高等学校の模擬授業を2時間担当した。

基礎看護学

教授　本田　芳香

１．スタッフの紹介

教　授　本田　芳香
教　授　小原　　泉
准教授　里光やよい
講　師　福田　順子
助　教　飯塚由美子
　　湯山　美杉
　　中塚　明美

２．教育の概要

基礎看護学科目群では，発達段階に合わせたすべての人を意識し，4年間で学ぶべく看護学の基礎を，また看護実践していくための基本的な論理思考の構築を目指し教育を進めた。

１）基礎看護学に関する教育概要

（1）看護学概論（１年次前学期2単位：必修）担当：本田芳香：人間・健康・環境・看護の主な概念，看護理論，歴史的変遷，法律・倫理及び看護活動の場と保健医療福祉チームにおける看護の役割・機能など，今後看護が目指す概要を教授する。

（2）実践看護学概論Ⅰ（１年次前学期1単位：必修）担当：本田芳香：看護過程の基本として論理的思考及び対人関係スキルの概要を教授する。特にインタビュー技術及び観察技術をグループワークを導入しながら学生自身の日常生活と関連させながら教授した。

（3）看護技術論Ⅰ・看護技術演習Ⅰ（１年次前学期1単位・1単位必修）担当：里光やよい，他基礎看護学教員全員：看護技術の導入としての環境や健康におけるバイタルサイン，基本的大意に関し講義と演習を進めた。

（4）看護技術論Ⅱ・看護技術演習Ⅱ（1年次後学期1単位・1単位必修）担当：福田順子，他基礎看護学教員全員：日常生活援助に関し，食事，排泄，清潔等の講義と演習を進めた。

（5）看護技術論Ⅲ・看護技術演習Ⅲ（2年次前学期1単位・1単位必修）担当：小原泉，他基礎看護学教員全員：診療の補助業務に関し，滅菌操作，採血等の検査，与薬に関連する点滴，筋注，皮下注等の講義演習を行った。

（6）看護技術演習Ⅳ（２年次前学期1単位必修）担当：本田芳香，他基礎看護学教員全員，フィジカルアセスメント，看護過程の展開を教授し，学生にはグループに分け基礎看護学の教員全員で個別に指導した。

（7）対象の理解実習（1年次前学期1単位必修）担当：里光やよい，他基礎看護学教員全員：附属病院の病棟・外来に来訪する対象の理解を人間・健康・環境・看護の視点から実習を通して学ぶ。

（8）日常生活援助実習（2年次後学期2単位必修）：担当：本田芳香，他基礎看護学教員全員，附属病院で入院している患者を初めて受け持ち，日常生活に関わる援助を実習を通して学ぶ。

（9）その他：「がん看護学」は，小原が担当。「看護トピックス」は里光，「看護基礎セミナー」は，基礎看護学教員全員が担当した。「看護研究セミナー」は，教授（本田，小原）を中心に，准教授，講師，助教全員（里光，福田，飯塚，湯山，中塚）が担当した。「総合実習・総合セミナー」は，教授（本田，小原）を中心に，准教授，講師，助教全員（里光，福田，飯塚，湯山，中塚）が担当した。

３．研究の概要

１）研究プロジェクトの参加（研究代表者）

①小原は，文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）（研究代表者：小原泉）による研究課題「がん臨床試験についての患者の理解度評価に関する研究」において，理解度評価尺度の開発に向けて，本学部教員の本田，本学医学部教員の藤井博文および藤原寛行，金沢大学の吉村健一，がん研有明病院の宋菜緒子とともに，本調査の実施およびデータ分析を行った。

②飯塚は，在宅医療助成勇美記念財団研究費（平成26年度一般公募前期）による研究課題「訪問看護師の在宅看取りのケアの経験―悪化期から臨死期の短期間の関わりの分析―」の研究代表として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，本田であった。

③飯塚は，自治医科大学看護学部共同研究費による研究課題「婦人科がんで治療をうける患者とその家族の意思決定支援スキルアッププログラムの評価」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，本田，小原，中塚，附属病院　渡辺芳江，竹野井さとみ，渡辺道子，小室るみ，樋山伸子，看護学研究科博士前期課程　岩永

麻衣子であった。
④湯山は，平成27年度看護学部教員共同研究費による研究課題「対人関係スキル習得のための模擬患者導入による学習の有効性に関する研究」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，本学看護学部教員本田，小原，里光，福田，飯塚，中塚，浜端，附属病院看護部看護師長野沢博子，亀田美智子，高久美子，看護師安藤恵であった。

２）研究プロジェクトの参加（分担研究者）
①本田は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C）による研究課題「がん臨床試験についての患者の理解度評価に関する研究」（研究代表者：小原泉）に分担研究者として参加し，同研究を実施した。
②本田は，厚生労働省科学研究費補助金　地域医療基盤開発推進研究事業「診療の補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究」（研究代表者：春山早苗）に分担研究者として参加し，同研究を実施した。
③本田は，文部科学省　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本型地域ケア実践開発事業」テーマ１「地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発研究」（研究代表者：春山早苗）の分担研究者として参加し，同研究を実施した。
④本田は，在宅医療助成，勇美記念財団研究費による研究課題「訪問看護師の在宅看取りのケアの経験」（研究代表者：飯塚由美子）の分担研究者として参加し，同研究を実施した。

３）研究業績録
（1）論文
①浜端賢次，安藤恵，本田芳香　高齢者が参加しやすい模擬患者養成プログラムの検討，川崎医療福祉学会誌10巻1　p217－222　2015.
②関山友子，湯山美杉，江角伸吾，山田明美，中島 とし子，福田順子，鈴木久美子，塚本友栄，島田 裕子，青木さぎ里，春山早苗　へき地診療所に勤務する看護師が認識した看護活動に関連する困難感　日本ルーラルナーシング学会誌（1881-2783）10巻 p 31-39　2015.
③春山早苗，江角伸吾，関山友子，青木さぎ里，島田裕子，塚本友栄，鈴木久美子，山田明美，中島とし子，福田順子
わが国のへき地診療所における看護活動の特徴 2003年，2008年，2013年の比較から，日本ルーラルナーシング学会誌（1881-2783）10巻 p 1-13 2015.
（2）学会発表
①Izumi Kohara, Eriko Tamura, Kyoko Nishiwaki,, Mika Takayama,, Mitsuyo Ueno, ,Yoshie Watanabe: Practice of clinical research nursing and future issues at a university gynecology clinic, International Association of Clinical Research Nurse 2015 CONFERENCE INTERNATIONAL VIRTUAL POSTER ABSTRACT SUBMISSION, Boston, October 14-16, 2015.
②Yoshikazu Asada, Yoshika Honda,Reiko Murakami,ShingoEsumi,Yumiko Iizuka, Sanae Haruyama:Design and development of The e-learning course for the nurses who perform medical auxiliary acts,An International Association for Medical Education,UK,August,e-Poster,2015.
③小原　泉：臨床研究専門職に対する教育の現状と課題，第15回CRCあり方会議　シンポジウム2：臨床研究専門職のキャリア形成と現任教育，神戸，2015年9月12日
④小原　泉，町田静生，種市明代，高橋寿々代，佐藤尚人，竹井裕二，藤原寛行：婦人科がん臨床試験におけるスクリーニングのプロセス，第53回日本癌治療学会学術集会一般演題，京都，2015年10月29日.
⑤若澤弥生，飯塚由美子，里光やよい，湯山美杉，中塚麻美：臨地実習時に看護教員が行う実習指導者との学習環境の調整．日本看護学教育学会第25回学術集会，徳島，2015年8月19日．日本看護学教育学会誌 25巻学術集会講演集；227，2015.
⑥飯塚由美子，本田芳香，小原　泉，岩永麻衣子，竹野井さとみ，渡辺芳江，樋山伸子，手塚芳美，大貫晃子，上野充代：婦人科がんで治療を受ける患者の意思決定支援のためのスキルアッププログラム．第29回日本がん看護学会学術集会，神奈川．2015年2月28日．（第29回日本がん看護学会学術集会抄録集；p204，2015）.
⑦岩永麻衣子，本田芳香，小原泉，飯塚由美子，竹野井さとみ，渡辺芳江，樋山伸子，上野充代，手塚芳美，大貫晃子：終末期がん患者とその家族

の意思決定プロセスに関わった看護師の内省的対話に関する研究，第29回日本がん看護学会学術集会，神奈川．2015年2月28日．（第29回日本がん看護学会学術集会抄録集；p169，2015.）
⑧飯塚由美子，本田芳香：訪問看護師によるがんの在宅看取りのケアにおけるチーム調整に関する検討,第2回日本CNS看護学会,東京．2015年6月13日（第2回日本CNS看護学会プログラム・抄録集；p.95, 2015.）
⑨村上礼子，川上勝，関山友子，樅山定美，飯塚由美子，中村美鈴，早瀬行治，淺田義和，鈴木義彦，河野龍太郎：看護学生向けＩＣＬＳコースにおける看護教育の役割～病棟急変場面における意図的な声かけの分析から～Roles of teachers of nursing in the ICLS course for student nurses. 第3回日本シミュレーション医療教育学会学術集会，栃木．2015年6月27日．（第3回日本シミュレーション医療教育学会学術集会プログラム・抄録集，p.54－55，2015.）
⑩飯塚由美子，本田芳香：訪問看護師のがん療養者とその家族への在宅看取りのケア―悪化期から臨死期の短期間の関わりの分析―．第20回日本在宅ケア学会学術集会，東京．2015年7月18日．（第20回日本在宅ケア学会学術集会講演集；p.177,2015.）
⑪小島好子，本田芳香，飯塚由美子：大学病院の救命救急センターにおけるＭＳＷの早期介入に関する研究－ソーシャルハイリスクな家族の代理意思決定支援の事例―．日本医療社会福祉学会第25回大会，東京．2015年9月12日．（日本医療社会福祉学会第25回大会抄録集；p.64, 2015.）

（3）その他

①春山早苗，淺田義和，阿部幸恵，大湾明美，亀崎豊実，波多野浩道，本多正幸，本田芳香，飯塚由美子，江角伸吾，浜端賢次，村上礼子：診療の補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究，平成26年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）総括研究報告書，2015.
②春山早苗，淺田義和，阿部幸恵，大湾明美，亀崎豊実，波多野浩道，本多正幸，本田芳香，飯塚由美子，江角伸吾，浜端賢次，村上礼子：就労継続支援型の看護師の特定行為研修の実施にあたっての手引き，平成26年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「診療補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究」，2015.
③春山早苗，淺田義和，阿部幸恵，大湾明美，亀崎豊実，波多野浩道，本多正幸，本田芳香，飯塚由美子，江角伸吾，浜端賢次，村上礼子：特定行為研修のICTを活用した教育例集，平成26年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「診療補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究」，2015.
④里光やよい，本田芳香，湯山美杉，飯塚由美子，岩永麻衣子，若澤弥生，淺田義和：看護過程におけるクリティカルシンキング力を高めるためのマインドマップ活用の検討，自治医科大学看護学ジャーナル12巻；36．2015.
⑤湯山美杉，本田芳香，里光やよい，若澤弥生，岩永麻衣子，飯塚由美子，山本真由美：看護過程演習に用いる紙上事例に関する教材開発，自治医科大学看護学ジャーナル 12巻；43，2015.

地域看護学

教授　春山　早苗

１．スタッフの紹介

教　授　春山　早苗
准教授　鈴木　久美子
准教授　塚本　友栄
講　師　島田　裕子
助　教　関山　友子
助　教　青木　さぎ里
助　教　江角　伸吾

２．教育の概要

１）地域看護学に関する教育概要

公衆衛生の理念を追求する看護の目的と活動方法の基本を理解し，公衆衛生看護活動の展開に必要となる基本的な知識と技術を学生が修得できることを目指して，主に行政に所属する保健師の活動を素材にして，教育にあたっている。担当科目は，実践基礎看護学概論Ⅲ（2年次前学期2単位：必修），健康生活支援技術Ⅰ（3年次前学期1単位：必修），健康生活支援技術Ⅱ（3年次後学期1単位：必修），公衆衛生看護活動論（3年次後学期2単位：必修），公衆衛生看護方法論（3年次後学期1単位：必修），公衆衛生看護実習（3年次後学期4単位：必修），行政看護管理論（4年次前学期1単位：必修），地域健康危機管理論（4年次前学期1単位：必修）であり，本学科目教員全員で担当した。

２）地域看護学以外の担当教育概要

①「保健医療福祉システム論」（1年次後学期2単位：必修）：島田が科目責任者，春山・鈴木・塚本・関山・江角も担当。②「看護基礎セミナー」（１年次前学期：必修）：鈴木・関山が担当。③「へき地の生活と看護」（1～4年次後学期1単位：選択）：鈴木が科目責任者，青木も担当。④「文献講読セミナー」（2年次前学期：必修）：塚本・島田・青木・江角が担当。⑤「研究セミナー」（3年次後学期1単位：必修）：塚本が科目責任者，塚本は講義・演習，春山は講義担当。⑥「国際看護論」（4年次前学期1単位：必修）：春山が科目責任者，塚本・江角も担当。⑦老年在宅看護実習（3年次後学期2単位：必修）：本学科目教員全員が１クール担当。⑧「看護政策学」（4年次前学期1単位：必修）：春山が科目責任者。⑨「総合実習」（4年次後学期：必修）：本学科目教員全員で19名を担当。実習場所は下野市3名，群馬県吾妻郡中之条町六合地域9名，日光市足尾地域4名，県内訪問看護ステーション3名。⑩「看護総合セミナー」（4年次後学期：必修）：本学科目教員全員で学生19名を担当。春山2名，鈴木3名，塚本3名，島田3名，関山3名，青木2名，江角3名の学生を指導。学生は，第一子を育てる母親の育児認識・行動と影響要因，発達に問題のある可能性を持つ児の母親の思い・体験，生活習慣病予防のための行動目標立案支援，交流が山間地域居住の独居後期高齢者にもたらす意味，世帯別にみた山間地域に住む高齢者の転倒予防にかかわる生活，介護老人保健施設における認知症高齢者に対する看護支援，認知機能低下高齢者の家族介護者が介護を前向きに継続できるための支援等に関する看護研究に取り組んだ。⑪「看護トピックス」（4年次後学期：必修）：本学科目では，鈴木が責任教員となり，前学期に「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」をテーマに実施。本学科目教員全員で学生16名を担当。⑫その他：鈴木・青木は「へき地の生活と看護」担当者とともに，履修者22名，夏季へき地体験研修者7名，計29名の研修を11カ所の施設において企画・実施した。

３．研究の概要

１）本学部共同研究費「保健師現任教育における管理的立場にある行政職の役割認識～小規模町村における新任期現任教育に焦点をあてて～」：青木が研究代表者となり，本学科目教員全員で栃木県保健師とともに実施。

２）平成27年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））「健康格差を縮小しソーシャルキャピタルの醸成を促進する市町村保健師の地区管理」：春山が研究代表者，鈴木・塚本・島田・関山・青木・江角は研究分担者。

３）平成27年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））「県外に避難した者を対象とした避難所活動のための自治体保健師の活動指針の作成」：島田が研究代表者，鈴木・塚本・関山は研究分担者，春山は連携研究者。

４）平成27年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究（B））「離島町村で働く新任期保健師の看護実践能力の向上につながる経験」：青木が研究代表者。

５）平成27年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「診療の補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究」：春山が研究代表者，江角は研究協力者。
６）平成27年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））「島しょ看護学の学習指導書作成に関する研究」（研究代表者：沖縄県立看護大学　名誉教授　野口美和子）：春山が研究分担者。
７）平成27年度厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））「保健師による保健活動の評価指標の検証に関する研究」（研究代表者：長崎県立大学　特命教授　平野かよ子）：春山は，研究分担者として「感染症対策分野の評価指標の検証」に取り組んだ。
８）平成27年度厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（健康安全・危機管理対策総合研究事業））「大規模災害復興期における地域保健活動拠点のマネジメント機能促進のための評価指標ツール開発に関する研究」（研究代表者：千葉大学大学院　教授　宮﨑美砂子）：春山が研究分担者。
９）平成27年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「都道府県へき地保健医療計画の検証ならびに次期策定支援に関する研究」（研究代表者：自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門　教授　梶井英治）：春山が研究協力者。

４．その他

１）日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会，日本型地域ケア実践開発研究事業中間報告会合同開催（2015.8.28-29，参加者305名）：春山は学術集会長，鈴木は実行委員長，塚本・島田・関山・青木・江角は事務局。
２）JICA草の根技術協力事業（草の根パートナー型）「モンゴル国　思春期からの健康なライフスタイル構築のための持続可能な仕組みづくりプロジェクト～性感染症と不適切な妊娠を予防し，豊かな自己実現をめざして～」：江角，春山が本邦研修対応（2016.2.17～2.29，研修生4名），江角が現地活動（2015.9.14～9.25，2016.3.9～3.23，ウランバートル），春山が現地活動（2016.3.10～3.16，ウランバートル）
３）栃木県地域保健中堅職員研修（企画評価編）（2014.6.24，12.11，参加者3名）：春山は講師，島田は助言者。
４）下野市避難者交流会「ふくしまあじさい会」への健康支援活動（2015.8.11，参加者は約50名，下野市）：島田・関山。
５）春山は日本ルーラルナーシング学会理事，編集委員，関山・江角は編集委員。
６）春山は日本地域看護学会副理事長及び災害支援のあり方検討委員会委員長（2015.6～），島田は災害支援のあり方検討委員会委員（2015.6～）。
７）塚本・江角は芳賀赤十字病院看護師8名の研究支援（研究課題8件）。
８）春山：①一般社団法人　日本ホスピタルアライアンス主催　講演「特定行為に係る看護師研修制度」（2015.6.5，東京）②日本地域看護学会第18回学術集会ワークショップ「保健師の現任教育のあり方～現任教育において修士課程修了生である保健師が果たす役割と大学院教育～」の企画・運営（2015.8.2，参加者37名，横浜市）③平成27年度熊谷保健所管内保健師現任教育研修の講師「保健活動の評価指標に関する研修会」（第1回；2015.9.1，参加者35名，第2回；2015.12.1，参加者13名，第3回；2016.2.22，参加者13名，熊谷市）④茨城県看護協会主催　平成27年度第1回水戸，日立，常陸太田・ひたちなか地区合同研修会　記念講演「日本型地域包括ケアにおける看護師の役割について～ルーラルナーシングの再発見～」（2015.9.16，参加者115名，水戸市）⑤埼玉県　平成27年度中堅後期保健師研修「効果的な事業展開のためのPDCAサイクルの活用」の講師（2015.11.16，参加者44名，さいたま市）⑥栃木県県南健康福祉センター管内地域保健福祉等関係職員研修会の講師「地域診断に基づくPDCAサイクルの実施（発展編）」の講師（2015.11.20，参加者28名，小山市）⑦日本看護協会主催の平成27年度保健指導支援事業保健指導ミーティングの講師「保健指導の探求と実践力を高める保健指導ミーティング～新任期保健師の保健指導技術のスキルアップを図るための効果的支援とは」（2015.12.5，参加者21名，下野市）。⑧日本家族計画協会主催の第17回自己効力感（セルフエフィカシー）を高め主体的な行動変容を支える健康教育実践セミナーの講師「ソーシャルキャピタルとヘルスプロモーション」（2015.12.6，受講者41名，東京）。⑨第4回日本公衆衛生看護学会学術集会ワークショップ「公

衆衛生看護学の大系化をめざして」の企画・運営（2016.1.24，東京）⑩栃木県保健師現任教育のあり方検討会委員⑪厚生労働省医道審議会臨時委員（保健師助産師看護師分科会員）⑫厚生労働省医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会委員⑬厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会」構成員（2015.12.1～）⑭日本公衆衛生学会評議員。⑮日本ルーラルナーシング学会誌査読委員。⑯千葉看護学会会誌査読者。⑰日本公衆衛生看護学会評議員及び学術実践開発委員，査読委員。⑱日本地域看護学会誌査読委員。⑲日本看護科学学会代議員。

９）鈴木：①栃木県県南健康福祉センター管内地域保健職員新任研修会「新任期職員が獲得すべき能力とは～キャリアラダーを見据えて～」の講師（2015.10.28，参加者29名，小山市）②第19回東アジア看護学研究者フォーラム（EAFONS2016）（2016.3.14-15，千葉市）当日実行委員。③下野市介護認定審査会委員。④日本ルーラルナーシング学会誌査読委員。⑤小山市地域包括支援センター運営協議会委員。

10）塚本：①栃木県看護協会主催の平成27年度実習指導者講習会の講師「実習指導の評価（6時間）」（2015. 9.3，9.7，受講者40名，宇都宮市）。②栃木県看護協会主催の平成27年度一般教育研修「入院時から始める退院支援・退院調整」（2015.8.4，9.10，各受講者200名，宇都宮市）。③栃木県補助事業「在宅医療地域連携体制構築委員会」による退院支援に関わる看護師の指導者研修（2015. 7.6，2015. 9.14，2015. 12.16，各受講者45名，宇都宮市），同研修26年度修了者フォローアップ研修会（2016.1.14，受講者43名，宇都宮市）。④栃木県看護協会　平成27年度在宅医療連携体制構築委員会　退院支援検討部会　部会長

11）島田：①栃木県看護協会教育委員。②下野市介護認定審査会委員。

12）関山：結城市介護認定審査会委員。

13）青木：①東京都島しょ町村保健活動サポーター。②上島町新任期保健師自主勉強会の講師「離島町村における保健師活動」（2016.3.19，参加者6名，上島町）

14）江角：日本思春期学会評議員。

精神看護学

教授　永井　優子

１．スタッフの紹介

教　授　永井　優子
教　授　半澤　節子
講　師　千葉　理恵（平成28年3月末退職）
助　教　小池　純子（平成28年3月末退職）
助　教　石井慎一郎

２．教育の概要

１）精神看護学に関する教育概要

当学科目では，あらゆる健康水準の個人及び集団を対象に，対象者の人権を尊重するとともに，その人の希望を踏まえた精神看護実践の基礎的知識と技術の修得を学士レベルの教育目標としている。精神の健康を増進し，精神の健康障害からの回復を促進する看護の提供体制は，精神科医療を提供する精神科病棟だけでなく，多様な場と支援者のネットワークにより精神障害者とその家族が生活者として健康の回復と社会生活の向上を図ることができるための看護を展開できる能力を育成することを目標としている。

担当科目は，「実践看護学概論Ⅱ」（2年次前学期1単位；必修）は永井15時間，「精神看護方法」（3年次後学期2単位；必修）は，半澤10時間，永井12時間，千葉6時間，「地域精神看護方法」（3年次後学期2単位；必修）は，永井10時間，半澤2時間，千葉2時間，土屋徹非常勤講師（夢風舎代表）2時間，精神看護学教員全員で12時間の演習を担当した。「精神保健看護実習」（3年次後学期2単位；必修）は，下野市，小山市，野木町，佐野市の4市町にある精神科デイケア3施設と精神障害者通所型の社会福祉法人とNPO法人の計3法人において，全教員で90時間を担当した。また，総合実習（4年次前学期2単位；必修）と看護総合セミナー（4年次後学期4単位；必修）では，学生8名に対して120時間を担当した。さらに，千葉は「看護トピックス」（4年次後学期1 単位；必修）の2時間を担当した。

後学期の「精神看護方法」「地域精神看護方法」「精神保健看護実習」ではMoodleを用いて，学生の学習支援を試みた。アクティブラーニングの手法を用いた教育方法の改善および質の向上に取り組んでいる。

２）精神看護学以外の教育概要

1年次前学期必修科目として，半澤は「援助関係論」（2単位）を30時間担当し，「生涯発達看護論」（2単位）では，永井が18時間担当した。また，永井，半澤，石井は「看護基礎セミナー」（2単位）を28時間担当した。千葉は「文献講読セミナー」（2年次前学期2単位；必修）を16時間担当した。

３．研究の概要

永井は，日本精神保健看護学会学術連携委員会として取り組んだ看護ガイドライン作成が完了し，同学会誌に「老年期うつ病ケアガイドライン　老年期のうつ病患者・家族への対応」と「リエゾン精神看護領域ケアガイドライン」を公表した。

半澤は，文部科学省科学研究費助成事業の基盤研究（C）「精神科臨床現場に形成されたモラルと行動制限に対する臨床判断に関する研究」の研究代表者（2014年4月-2018年3月）として石井らと共に活動している。また，基盤研究（C）「触法精神障害者の地域生活のおける現状と地域支援体制の確立に向けた基礎的研究」（代表者：宮城純子，2014年4月－2018年3月）の分担研究者として活動している。さらに，厚生労働省健康安全・危機管理対策総合研究事業「地域保健対策におけるソーシャルキャピタルの活用のあり方に関する研究」（代表者：藤内修二，2014年4月－2015年3月）の分担研究者としても活動している。12月には，なお，雑誌「看護研究」の特集「査読を考える-査読ガイドラインの構築に向けて」において「英文誌/和文誌の査読から考える 英文誌と和文誌の査読の経験から」を寄稿している。

千葉は，文部科学省科学研究費補助金（若手研究（B））の代表者として「精神疾患をもつ人々を対象とした，ポジティブな心理的変容を促す看護プログラムの開発」（2013年度～2015年度予定），および（公財）聖ルカ・ライフサイエンス研究所：平成25年度 臨床疫学等に関する研究助成の代表者として「精神疾患をもつ人々を対象とした，疾患の経験による心理社会的変化の評価尺度の開発」（2013年度～2015年度予定）に取り組んでいる。なお，12月5日に「慢性精神疾患をもつ人を対象とした，ベネフィット・ファインディング，人生の意味，ウェルビーイングを高めることに焦点をあてたリカバリー促進プログラムの効果

検討：無作為化比較試験」が日本精神障害者リハビリテーション学会 野中賞（最優秀賞）を受賞した。

小池は，文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）の代表者として，半澤らとともに「触法精神障害者家族に対する支援体制の確立に向けた基礎的研究」（2012年度～2015年度予定）に取り組んでいる。

石井は，「精神科看護師の臨床判断と情動指数の検討」を研究テーマとして本学赴任前から継続的に取り組み，日本感情心理学会，日本保健福祉学会，日本看護評価学会，日本社会精神医学会，日本精神科看護協会なとの学術集会で精力的に発表している。また，研究代表者として「精神科看護職の他者とのかかわりとエンパワメントとの関係の検討」について平成27年度日本精神保健看護学会の研究助成および「看護職の感情と省察に関する研究」をテーマに自治医科大学看護学部教員平成27年度共同研究費をいずれも2015年から 2016年にかけて外部資金を獲得している。

なお，文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された研究プロジェクト「日本型地域ケア実践開発研究事業」において，「精神および神経症状にかかる薬剤投与関連」特定行為のトライアルとして「精神科薬物療法と看護」のe-learningコンテンツを永井，石井，小池を中心に作成した。特定行為以外の高齢者看護3（認知症）については，半澤，千葉を中心にe-learningコンテンツを作成した。8月には本学で開催された日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会・日本型地域ケア開発研究事業中間報告会において，千葉を中心とした小池を除いた4名で「現任看護師を対象としたe-learningによる認知症看護教育プログラムの作成・試行と評価」を発表した。

その他各教員が，国内外の学会での発表，学内外の学術雑誌への論文掲載および査読などを担当している。また，永井を中心に発足して10年目を迎える北関東精神保健看護研究会は，年2回の研究会を継続しており， 栃木県のみならず北関東の精神科看護職者の情報交換，現場の問題解決の知恵を共有する貴重な機会となっている。

４．その他

永井は，栃木県，糖尿病認定看護養成課程2施設（日本看護協会看護研修学校および日本赤十字看護大学）等が主催する各種研修会の講師として，また，四日市医療看護大学大学院の「コンサルテーション論」の非常勤講師として看護職の継続教育に協力した。また，日本精神保健看護学会代議員・副理事長・査読委員，精神保健従事者懇談会代表，日本ルーラルナーシング学会評議員・理事（渉外担当）・事務局長，日本看護科学学会，千葉看護学会，日本看護学教育学会の評議員，文化看護学会の監事，日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本家族看護学会の査読委員，日本病院・地域精神医学会編集委員を務めている。さらに，介護福祉士国家試験委員（幹事）を務めた。

半澤は，日本精神障害者リハビリテーション学会の常任理事（学会誌編集担当），同学会誌編集委員，査読委員，日本社会精神医学会理事，同学会編集委員，査読委員，日本精神保健・予防学会の評議員，日本精神衛生学会理事および学会誌査読委員，日本精神神経学会 英文誌 Psychiatry and Clinical Neurosciences, Psychiatry Research, International Journal of Culture and Mental HealthおよびAsian Federation of Psychiatric Associations, Asian Journal of Psychiatry,のReviewer，日本精神保健看護学会，日本ルーラルナーシング学会，日本看護科学学会和文誌の専任査読委員，日本精神保健福祉学会機関誌の編集委員を務めた。

千葉は，Clinical Nursing Studies, Open Journal of Nursing, International Journal of Mental Health Nursing, Asian Nursing Research, Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing, の5誌の査読委員を務めており，日本ルーラルナーシング学会の会計を務めている。また，石井は同学会の事務局員を務めている。

母性看護学

教授　成田　　伸

1．スタッフの紹介

教　授　成田　　伸
教　授　野々山未希子
准教授　角川　志穂
助　教　篠原有美子（2016年3月31日退任）
助　教　望月　明見（2015年4月1日着任）
取得資格：看護師，助産師，保健師。
学歴：北里大学看護学部看護学科卒業，自治医科大学大学院看護学研究科博士前期課程修了。
職歴：北里大学病院産科病棟にて助産師，宇都宮保健センター非常勤保健師，自治医科大学看護短期大学地域看護学助手，こいけレディースクリニックにて助産師，栃木男女共同参画センター保護課保健業務嘱託員，大野医院にて助産師，自治医科大学看護学部母性看護学助教。
助　教　鈴江　理恵（2015年4月1日着任，2016年3月31日退任）
取得資格：看護師，助産師，保健師。
学歴：広島大学医学部保健学科看護学専攻卒業。
職歴：富良野病院産婦人科病棟および大草レディスクリニック（さくら産院）において助産師として勤務。
助　教　近藤まゆみ（2015年10月1日着任）
取得資格：看護師，助産師，専任教員
学歴：茨城県立中央看護専門学校看護学科卒業，茨城県立中央看護専門学校助産学科卒業，栃木県看護教員養成講習会修了，茨城県立医療大学大学院保健医療科学研究科看護学専攻博士前期課程修了。
職歴：茨城県立中央病院産婦人科病棟にて助産師，茨城県地域がんセンターにて看護師，茨城県立看護学校にて専任教員として勤務，茨城県専任教員養成講習会教育担当。

2．教育の概要

1）母性看護学に関する教育概要

⑴生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）（1年次後学期2単位：必修）

成田が担当し，助教，TAの協力を得て実施した。母性看護学の基本概念，母親になっていくプロセス，生殖医療と倫理・法的な問題などを講義した。

⑵周産期実践看護学Ⅰ（2年次後学期1単位：必修）

角川が科目責任として総括し，成田，近藤，望月，篠原，鈴江が協力し実施した。子育ての実際に関する学生のイメージ化を図るため乳児と母親に教育支援者として協力してもらい，学生と交流することで効果的な学習ができた。

⑶周産期実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）

角川が科目責任として総括し，成田，近藤，望月，篠原，鈴江が協力し実施した。妊産褥婦及び新生児のアセスメントについては，臨床助教や地域助産師も加わり指導した。周産期看護実習につながる看護過程については，助教が中心となって実習時の展開を意識した書式の修正と褥婦・新生児の事例を作成したうえで，講義，アセスメントや看護技術の演習，事例展開の演習が連動するように関連させて展開した。

⑷生涯発達看護学概論Ⅵ（リプロダクティブヘルス）（4年次前学期1単位：必修）

野々山が科目責任者として担当した。リプロダクティブヘルス・ライツの概念，思春期・性成熟期・更年期各期の健康問題と看護，避妊・性感染症予防，不妊の看護などを講義した。

⑸周産期看護実習（3年次前学期2単位：必修）

角川が科目責任者となり，望月，篠原，鈴江と臨時教員の浜野が分担して担当した。自治医科大学附属病院，さいたま医療センターそれぞれの産科病棟・産科外来等で実習すると共に，栃木県助産師会が下野市で実施している地域育児支援の活動に参加させるなどして，効果的な実習を展開できた。

2）助産学に関する教育概要

⑴助産学概論（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として全体を総括した。助産師の概念，助産師活動の概要，助産師の国際活動，海外の母子保健，性と生殖の健康と人権などを教授した。

⑵基礎助産学Ⅰ（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として担当した。助産の基礎となる形態機能，妊娠・分娩の生理について教授した。

⑶基礎助産学Ⅱ（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として担当した。助産の基礎となる産褥期・新生児期の生理について教授した。

⑷基礎助産学Ⅲ（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として担当した。母子の心理・社会的側面および，母子の健康と家族役割について教授した。

⑸実践助産学Ⅰ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみに開講し，成田が科目責任者として総括し，望月及び助教が分担した。妊娠期の母子と家族への助産ケアについて教授した。

⑹実践助産学Ⅱ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみに開講し，成田が科目責任者として総括し，望月及び助教が分担した。分娩期の母子と家族への助産ケアについて教授した。分娩介助の演習については，学生が実習予定の施設の臨床指導者に来学いただき，具体的な指導を展開してもらった。

⑺実践助産学Ⅲ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみに開講し，成田が科目責任者として総括し，望月及び助教が分担した。産褥・新生児期の母子と家族への助産ケアについて教授した。

⑻実践地域助産学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみに開講し，野々山が科目責任者として総括し，地域における助産師活動について教授した。

⑼助産管理学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生のみに開講し，野々山が科目責任者として総括し，助産師活動に関わる管理の概念と活動について教授した。

⑽助産学実習（4年次後学期8単位：選択）

助産学生6名が受講した。成田が科目責任者として総括し，野々山，角川，望月，篠原，鈴江，近藤が分担した。自治医科大学附属病院で34名，済生会宇都宮病院で3名が実習し，必要な分娩介助件数を達成し，継続ケースのケアを展開した。

３）母性看護学・助産学以外の担当教育概要

⑴基礎看護セミナー（1年次前学期1単位：必修）

野々山，篠原，鈴江が分担者としてそれぞれのグループを担当し，レポート作成を指導した。

⑵文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

角川，望月が分担者としてグループを担当し，文献講読およびレポート作成を指導した。

⑶総合実習（4年次前学期2単位：必修）・看護総合セミナー（4年次後学期4単位：必修）

成田，野々山，角川，望月，篠原，鈴江で母性看護学領域に配置された学生14名を担当し，総合実習でテーマとした内容についてレポートを作成した。フィールドとして，附属病院産科病棟およびNICU，附属さいたま医療センター産科病棟，大野医院，和田マタニティクリニックを使用し，栃木県助産師会の協力を得た。

⑷看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

角川が全体調整を担当し，母性看護学教員，TA，臨床助教の協力を得て実施した。日本版新生児蘇生法Bコースの公認コースなどを開催し，最新知識を教授した。

⑸ジェンダー論（1，4年次後学期2単位：選択）

成田が科目責任者として担当し，非常勤講師の協力も得て，ジェンダーにかかわる多様な社会問題を課題として取り上げ展開した。

３．研究の概要

１）成田は，文部科学省科学研究補助金（挑戦的萌芽研究）による研究課題「妊娠糖尿病女性への妊娠糖尿病認定助産師による産後継続支援に関する多施設共同研究」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，聖マリア学院大学松原まなみ，広島大学大平光子，富山大学笹野京子，松井弘美，京都橘大学工藤里香，大阪府立大学山田加奈子であった。

２）成田は，文部科学省科学研究費補助金（基礎研究（C））による研究課題，「母体・胎児集中ケアのための研修プログラム開発に関する研究」（研究代表者：大月恵理（埼玉県立大学））に連携研究者として参加し，同研究を実施した。連携研究者は，千葉大学坂上明子，淑徳大学菅林直美，順天堂大学高島えり子，東北大学中村康香，千葉県立保健医療大学林ひろみ，札幌医科大学林佳子，山形県立保健医療大学平石皆子，聖マリア学院大学松原ま

なみ，埼玉県立大学森田亜希子，齋藤明香であった。

3）野々山は，「保護者が希望する性教育の内容と家庭での会話」の研究を実施した。

4）角川は，看護学部共同研究補助金を受け，「乳幼児をもつ母親を地域で孤立させないための看護支援の検討－DVDによる育児支援情報の提供を試みて－」について，篠原および自治医科大学附属病院　寒河江かよ子，ひよこ助産院　原啓子を共同研究者として，調査を実施した。

4．その他

5）成田は，聖マリア学院大学大学院において「周産期医療における質の保証と看護」について教授した。

6）成田は，群馬大学大学院において「ハイリスク状態にある女性への援助とケアシステム－糖尿病を合併した女性と家族への援助」について教授した。

7）野々山は，母子保健研修センター助産師学校1年過程において，助産診断・技術学「性感染症」について教授した。

8）野々山は，上尾看護専門学校において，成人看護援助論Ⅱ「HIV感染症／AIDSの看護」「STIとその予防」について教授した。

9）成田は，第17回日本母性看護学会学術集会において，母性看護学会戦略的プロジェクト担当理事として，交流セミナー「「妊娠糖尿病女性への妊娠糖尿病認定助産師による産後継続支援に関する多施設共同研究」を主催，講師を務めた。

10）第10回日本ルーラルナーシング学会学術集会学会10周年記念対談として「これからのへき地看護」を野口美和子氏と対談した。

11）野々山は，日本性感染症学会第28回学術大会において，シンポジウム1「性感染症の予防と検査－受診しやすい環境整備のために－」を企画し，座長を務めた。

12）野々山は，日本性感染症学会第28回学術大会において，交流セミナー「認定士の集い」を企画し，座長を務めた。

13）角川は，第56回日本母性衛生学会総会・学術集会において示説の座長を務めた。

14）成田は，日本母性衛生学会学会誌「母性衛生」査読委員を務め，投稿論文の査読を行った。

15）成田は，日本看護科学学会学会誌「日本看護科学学会誌」査読委員を務め，投稿論文の査読を行った。

16）野々山は，日本AIDS学会学会誌「日本AIDS学会誌」査読委員を務め，投稿論文の査読を行った。

17）角川は，日本母性看護学会学会誌「日本母性看護学会誌」の査読委員を務め，投稿論文の査読を行った。

18）成田は，栃木県母性衛生学会学会誌「とちぼ」査読委員を務め，投稿論文の査読を行った。

19）野々山は，栃木県母性衛生学会学会誌「とちぼ」査読委員を務め，投稿論文の査読を行った。

20）角川は，栃木県母性衛生学会学会誌「とちぼ」査読委員を務め，投稿論文の査読を行った。

21）野々山は，日本性感染症学会第28回学術大会のプログラム委員を務め，学会抄録の査読を行った。

22）野々山は，日本性感染症学会誌の査読委員を務め，投稿論文の査読を行った。

23）角川は，第56回日本母性衛生学会総会・学術集会において，学会発表抄録の査読を行った。

24）成田は，日本学術振興会の科学研究費委員会専門委員として，第一段審査に係る「研究計画調書」の審査を行った。

小児看護学

教授　横山　由美

１．スタッフの紹介

教　授　横山　由美
講　師　田村　敦子
助　教　小西　克恵
助　教　仙徳　明美

２．教育の概要

１）小児看護学に関する教育概要

⑴生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）（1年次後学期2単位：必修）

横山が科目責任者として総括し，田村が分担して実施した。小児看護学の基本概念，成長・発達，倫理，制度などを学習する。

⑵小児実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）

子どもの健康状態の維持・増進するための援助および日常生活的な健康問題に対しての援助を学習する。

横山が科目責任者として担当し，田村が分担して実施した。また，臨床教授の朝野が2時間講義を担当した。

⑶小児実践看護学Ⅱ（2年次後学期2単位：必修）

小児期看護実習につながる小児特有の疾患やその看護ケアについて学習する。

田村が科目責任として総括し，講義は横山，小西が分担して実施した。演習は横山，田村，小西とTAおよび臨床教員で実施した。非常勤講師として医学部小児科学伊東，精神医学阿部が2時間ずつ講義を担当した。

⑷小児実践看護学Ⅲ（3年次前学期2単位：必修）

小児期看護実習につながる小児期特有の疾患とその看護ケアおよび継続看護，看護過程の展開などを学習する。

田村が科目責任として総括し，講義は横山，が分担して実施した。演習においては，横山，小西とTAで実施した。非常勤講師として医学部小児外科学小野，小児科学長嶋が2時間ずつ，移植外科学水田が1時間の講義を担当した。

⑸小児期看護実習（3年次前学期2単位：必修）健康課題をもつ子どもと親・家族を理解し，看護の展開を学ぶ。

横山が科目責任者として総括した。田村，小西，仙徳が担当した。

３）小児看護学以外の担当教育概要

⑴看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

横山，小西，仙徳が分担者としてグループを担当し，レポート作成を指導した。

⑵文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

田村が分担者としてグループを担当し，文献講読およびレポート作成を指導した。

⑶看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

横山，田村，小西で小児看護学領域に配置された学生10名を指導した。

⑷総合実習（4年次前学期2単位：必修）

横山，田村，小西，仙徳で小児看護学領域に配置された学生10名を指導した。フィールドとして，自治医科大学とちぎ子ども医療センター2A病棟，3A病棟，4A病棟，PICU，小児外来を使用した。

⑸看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

田村が担当し，学生13名を指導した。

３．研究の概要

１）横山，田村，小西，仙徳は，自治医科大学とちぎ子ども医療センター３A病棟師長相場，小児看護専門看護師の黒田，手塚，春日部市立病院　小児看護専門看護師佐々木，大学院生佐々木，辻本と看護学部看護系教員共同研究費で「へき地における子どもの健康の維持・増進に関するへき地診療所と学校との連携」をテーマに研究を実施した。

２）田村，横山，小西，仙徳は，自治医科大学附属病院看護部長　朝野，副看護部長兼子ども医療センター副センター長　大海，副看護部長兼看護支援室室長　前原，子ども医療センター外来主任　大畑とともに看護学部看護系教員共同研究費で「移植外来に通院する青年期患者の移行期を支援するための看護外来の構築」をテーマに研究を実施した。

３）田村は，文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）による研究課題，小児がん経験者・家族への長期フォローのための看護師教育プログラムと家族支援の構築」（研究代表者：小林京子）に分担研究者として参加し，研究を実施した。

４．その他

１）横山は，東京都保健医療公社　多摩南部地域

病院看護部研修で，看護研究の講師を務めた。

2）横山は，博士前期課程の佐々木，宗像，辻本とともに小山市立福良小学校および野木町立野木小学校の学校保健委員会で児童・保護者を対象に健康教育を行った。

3）横山，田村，小西，仙徳は自治医科大学周産期総合医療センターNICUで，退院後の育児相談や親同士の交流を目的に月1回行っている「すくすくクラブ」の会誌の原稿執筆を行った。

4）横山は，日本ルーラルナーシング学会副事務局長を務めた。

5）横山は，栃木県看護協会研修会一般教育「家族看護」の講師を務めた。

6）横山は，栃木県看護協会実習指導者講習会の講師を務めた。

7）横山は，日本小児看護学会誌専任査読者を務めた。

8）田村は，子ども医療センター専門看護師の手塚，博士前期課程の宗像，辻本とともに，日光市立小来川小・中学校の学校保健委員会で児童・生徒・保護者を対象に健康教育を行った。

成人看護学

教授　中村　美鈴

1．スタッフの紹介

教　授　中村　美鈴

准教授　村上　礼子（2015年7月1日教授昇進，8月1日看護師特定行為研修センター専任）

准教授　佐藤　幹代（2015年9月1日就任）

取得資格：看護師

学歴：修士（リハビリテーション）筑波大学教育研究科カウンセリング専攻リハビリテーションコース修了
筑波大学大学院　人間総合科学研究科看護学専攻　博士後期課程在籍

職歴：横浜市立大学医学部付属病院（看護師）12年間のうち1年間（神奈川県立看護教育大学校教育養成課程1年コース修了。横浜市立大学付属病院より派遣）
東海大学健康科学部看護学科・健康科学研究科（助教，講師）15年4ヶ月

講　師　長谷川　直人

講　師　佐々木　雅史（2015年4月1日就任）

取得資格：看護師

学歴：修士（看護学）青森県立保健大学大学院

職歴：東北厚生年金病院（看護師），駿河台日本大学病院（看護師），みやぎ県南中核病院（看護師／主任看護師），青森県立保健大学（健康科学部看護学科助手／助教，救急看護認定看護師教育課程専任教員／主任教員）

講　師　中野　真理子（2015年6月1日就任）

取得資格：看護師

学歴：修士（看護学）福岡県立大学大学院
東京女子医科大学大学院看護学研究科看護職生涯発達学博士後期課程在籍

職歴：日本医科大学多摩永山病院（看護師／主任看護師）東京慈恵会医科大学看護学科（講師）東京慈恵会医科大学大学院　急性・重症患者看護学（講師）

助　教　水口　恵美子（2015年4月1日就任 2016年3月末退任）

取得資格：看護師　保健師

学歴：博士（ヒューマン・ケア科学）筑波大学大学院

職歴：公益財団法人心臓血管研究所付属病院（看護師）
国立大学法人筑波大学附属病院（看護師）

助　教　佐々木　彩加（2016年1月1日就任）

取得資格：看護師　保健師

学歴：修士（障害科学）博士（医学）東北大学大学院医学系研究科

2．教育の概要

成人看護学の教育目標は，健康危機あるいは長期的な療養を要するさまざまな健康課題をもつ成人とその家族に必要な看護を創造するための基礎的能力を培うことである。

1）成人看護学に関する教育概要

⑴生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）（1年次後学期2単位：必修）

中村が12時間，佐藤が10時間，中野，佐々木（雅），長谷川が各2時間の講義を担当した.

⑵成人実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）

中村が16時間，村上が6時間，中野が2時間，佐々木（雅）が4時間の講義を担当した。

⑶成人実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）

講義は，中村が6時間，佐々木（雅）が6時間担当した。演習は，中村が，企画主担当として，看護過程8時間（中村），他，成人看護学全教員で演習を担当した。呼吸障害演習2時間（中野），循環障害演習2時間（佐々木（雅）），手術療法演習2時間（中野），生命の危機演習2時間（佐々木（雅））

⑷成人実践看護学Ⅲ（2年次後学期1単位：必修）

講義は，中村が2時間，佐藤が4時間，中野が6時間，長谷川が2時間担当した。演習は，長谷川が内部環境調節演習2時間担当した。

⑸成人実践看護学Ⅳ（3年次前学期1単位：必修）

講義は，佐藤が4時間，長谷川が10時間を担当した。演習は，中村が企画主担当として，看護過程10時間，感覚機能障害2時間（佐藤），運動機能障害2時間（水口）を担当した。

⑹成人期健康危機看護実習（3年次前学期2単位：必修）

中村は統括を行い，中野，長谷川，水口は各3クール，村上，佐々木（雅）は各2クール，堀田，三科（非常勤教員）が各1クール担当した。

⑺成人期長期療養看護実習（3年次前学期2単位：必修）

村上は統括を行い，中野，長谷川，水口は各2クール，村上，佐々木（雅）は各3クール担当した。また，三科非常勤教員が2クール担当した。

⑻成人期継続療養看護実習（2年次後学期2単位：必修）

中村は統括を行い，成人看護学全教員が2クールを担当した。また，三科，直井非常勤教員が2クール担当した。

２）成人看護学以外の担当教育概要

⑴看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

水口はグループ別セミナーを担当した。

⑵文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

中村は科目責任者で全体を統括し，4時間の講義とグループ別学習を担当した。村上は2時間の講義を担当した。中野，長谷川，佐々木（雅）はグループ別学習を担当した。

⑶看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

中村は全体を統括指導し，成人看護学全教員が計16名の学生を指導した。

⑷総合実習（4年次前学期2単位：必修）

中村は全体を統括指導し，成人看護学全教員が学生16名を指導した。

⑸看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

中村は統括を行い，佐々木（雅）は企画運営，全体討議を担当し，長谷川，佐々木（雅），中野，水口は国家試験対策を担当した。成人看護学教員全員が学生を指導した。

⑹チーム医療論（4年次前学期および2年次後学期1単位：必修）

中村は科目責任者で全体を統括した。中村，佐藤，中野，佐々木（雅），長谷川が各2時間，細田満和子非常勤講師（星槎大学副学長，共生科学部教授）が4時間の講義を担当した。

⑺へき地の生活と看護（1～4年次後学期1単位：選択）

長谷川はグループ別研修指導を担当した。

３．研究の概要

１）中村は，文部科学省科学研究費補助金基盤研究（B）（研究代表者：中村美鈴）による研究課題「術後機能障害評価尺度（DAUGS20）の欧米版の開発と有用性の検証」において，研究期間を延長し，上部消化管がん患者の術後機能障害評価尺度（短縮版）の欧米版の開発に向けて，小原泉，Alan Lefor，Vanderbilt Cancerセンターの共同研究者と共に－米国フィールドとの再調整を行った。研究分担者は，本学部教員小原泉，本学部教員村上礼子，Alan Lefor，細谷好則であった。また，村上礼子と共にデータの解析を行い，研究活動の報告書を作成した。

２）中村は，文部科学省科学研究助成金（挑戦的萌芽研究）による「急性・重症患者のレジリエンスを支える看護モデル開発に向けた挑戦的取り組み」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。分担研究者は，名古屋市立大学　明石惠子教授，聖路加国際大学の宇都宮明美准教授であった。

３）佐藤は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究B）による「慢性の痛み語りデータベース構築と生活の再構築に関する研究」の研究代表者として同研究を下記研究者らと共同し，慢性の痛みをもつ人とその家族の語りのインタビューを全国で実施した。研究分担者は，札幌医科大学保健医療学部看護学科　城丸瑞恵教授，札幌医科大学医学部リハビリテーション医学講座医師本間真理，聖路加国際大学　高橋奈津子助教，慶應義塾大学文学部　濱　雄亮非常勤講師であった。連携研究者は，札幌医科大学保健医療学部作業療法学部　池田　望教授，日本社会事業大学　小原眞知子教授，江戸川大学メディアコミュニケーション学部 マス・コミュニケーション学科　隈本邦彦教授，東京理科大学薬学部　薬学科　後藤恵子教授，東京医科大学看護学科　瀬戸山陽子講師，群馬県立県民健康科学大学看護学部　高井ゆかり教授，東京工科大学医療保健学部　森田夏実教授であった。研究協力者は，特定認定NPO法人－佐藤（佐久間）りか，射場典子，別府宏圀，医療法人こぶし植苗病院　芦沢健教授，山口大学国際総合学科　星野晋准教授であった。

４）佐藤は，文部科学省科学研究補助金（挑戦的萌芽研究）による「「慢性の痛みの語り」の映像を用いた慢性痛患者への看護支援モデル構築と評価」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，札幌医科大

学医学部リハビリテーション講座医師本間真理，聖路加国際大学　高橋奈津子助教，慶應義塾大学文学部　濱　雄亮非常勤講師であった。研究協力者は，特定認定NPO法人－佐藤（佐久間）りか，射場典子，別府宏圀であった。

5）中野は，文部科学省科学研究助成金（基盤研究（C））による研究課題「身体抑制に関する教育実践モデルの構築」の研究代表者として参加し同研究を実施した。研究分担者は本学看護学部教員の中村であった。

6）中野は，文部科学省科学研究助成金（基盤研究（C））による研究課題「身体抑制に関する教育実践モデルの構築」の研究代表者としてスペイン，サンカルロス病院，コンプルテンセ大学看護学部において研修視察を実施した。

7）長谷川は，平成27年度看護学部教員共同研究費による研究課題「上部消化管がん術後患者に対する術後機能障害の対処促進プログラムの検討―看護師の継続支援による対処行動の変化と教育的関わりの要素の抽出―」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，本学看護学部教員の中村，佐藤，村上，中野，佐々木（雅），水口，自治医科大学附属病院看護部の渡辺芳江，半田智子，宮田直美，相賀美幸，弘田智香，自治医科大学附属病院消化器外科学部門の佐田尚宏，細谷好則，倉科憲太郎，横浜創英大学看護学部の樅山定美，獨協医科大学附属病院看護部の吉田紀子であった。

8）佐々木（雅）は，学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））による研究課題「介護老人保健施設の利用者の急変に対応する看護職者を対象とした教育プログラムの開発」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は神奈川県立保健福祉大学大学院　織井優貴子であった。

9）中村は，文部科学省科学研究助成金（基盤研究（C））による研究課題「身体抑制に関する教育実践モデルの構築」（研究代表者：中野真理子）に分担研究者として参加し，同研究を実施した。

10）中村は，自治医科大学看護学部共同研究補助金による研究課題，「看護師の教育的関わりによる上部消化管がん術後患者の術後機能障害の緩和と生活のあり様」（研究代表者：長谷川直人）に分担研究者として参加し，同研究を実施した。

11）佐藤は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究C）による研究課題「乳がん患者の語りにみる手術後の苦痛の経時的変化と対処方法に関する研究」（研究代表者：札幌医科大学保健医療学部看護学科　城丸瑞恵教授）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。

12）佐藤は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究C）による研究課題「患者・医療者・研究者共同による乳がん患者の手術後退院支援モデルの構築」（研究代表者：札幌医科大学保健医療学部看護学科　城丸瑞恵教授）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。

13）佐藤は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究C）による研究課題「乳がん・子宮がん患者を対象にした「書く」ことでのケア：臨床応用をめぐる縦断的研究」（研究代表者：日本女子大学　研究員　門林道子）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。

14）佐藤は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究C）による研究課題「患者参画による患者の病い体験を尊重できる医療者育成のためのウェブサイト構築と評価」（研究代表者：東京工科大学保健医療学部看護学科　森田夏実）に，研究協力者として参加し，同研究を実施した。

15）佐藤は，自治医科大学看護学部共同研究補助金による研究課題，「看護師の教育的関わりによる上部消化管がん術後患者の術後機能障害の緩和と生活のあり様」（研究代表者：長谷川直人）に分担研究者として参加し，同研究を実施した。

16）中野は，自治医科大学看護学部共同研究補助金による研究課題，「看護師の教育的関わりによる上部消化管がん術後患者の術後機能障害の緩和と生活のあり様」（研究代表者：長谷川直人）に分担研究者として参加し，同研究を実施した。

17）佐々木（雅）は，学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））による研究課題「教授設計ワークシートを活用したシミュレーション看護教育システム開発と教育効果検証（研究代表者：神奈川県立保健福祉大学大学院　織井優

貴子）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。

18）佐々木（雅）は，自治医科大学看護学部共同研究補助金による研究課題，「看護師の教育的関わりによる上部消化管がん術後患者の術後機能障害の緩和と生活のあり様」（研究代表者：長谷川直人）に分担研究者として参加し，同研究を実施した。

19）長谷川は，「働く2型糖尿病患者の社会生活を促進するための自己調整尺度の開発」の研究を代表者として実施した。共同研究者は，東邦大学看護学部教員村岡宏子であった。

4．その他

1）中村は，2015年8月に実践に活用できる看護過程」（栃木県看護協会主催）というテーマで臨床看護師80名を対象に12時間講義・演習を担当した．中野と佐々木（雅）は，演習の指導補助を担当した。

2）中村は，2015年11月に認定看護管理者セカンドレベル教育研修会（栃木県看護協会主催）において，「人的資源活用論：継続教育」の講義・演習を那須日赤病院の高橋・山本とともに12時間担当した.

3）中村は，2015年9月に認定看護管理者セカンドレベル教育研修会（栃木県看護協会主催）において人的資源活用論「ナレッジマネジメント」というテーマで講義（6時間）を担当した.

4）中村は，栃木県看護協会実習指導者講習会にて「実習指導の評価」の講師を務めた。長谷川は，その指導補助を務めた。

5）中村は，CRSTの活動として，静岡総合病院救急部の医師を対象に，研究課題「高齢者の延命治療に対する代理意思決定」について，研究指導を1件実施した。

6）佐藤は，財団法人　神奈川県看護協会　緩和ケア認定看護師教育課程の入試委員を行った。

7）佐藤は，神奈川県立保健福祉大学実践教育センター非常勤　感染管理認定看護師教育課程「感染管理指導と相談」演習科目を12時間演習指導した。

8）長谷川は，東京医科大学八王子医療センター救命救急病棟の看護師を対象に，研究課題「A病院救命救急病棟の看護師が自殺企図患者へ抱く陰性感情と要因の検討」について，研究指導を行った。

9）長谷川は，東京医科大学八王子医療センター小児科病棟の看護師を対象に，研究課題「子どもの採血・静脈路確保時に付き添う母親の満足感とその影響要因」について，研究指導を行った。

10）長谷川は，東京医科大学八王子医療センター消化器外科病棟の看護師を対象に，研究課題「せん妄患者に対する中堅看護師のストレスとそのコーピング」について，研究指導を行った。

11）中村は，日本ルーラルナーシング学会の専任査読員を務め，査読を行った。

12）中村は，2009年度から日本看護教育学学会学会誌の専任査読委員を務め，査読を行った。

13）中村は，2008年度より日本クリティカケア学会学会誌編集委員会の編集委員を務め，査読を行った。

14）中村は，2006年9月より日本救急看護学会の専任査読委員を務め，査読を行った。

15）中村は，日本看護科学会誌 Japan Journal of Nursing Scienceの編集委員を務め，査読を行った。

16）長谷川は，日本糖尿病教育・看護学会誌編集委員会の査読委員を務め，査読を行った。

17）中村は，第17回日本救急看護学術集会の査読委員を務め，査読を行った。

18）中村は，第11回日本クリティカルケア看護学会学術集会の査読委員を務め，査読を行った。

19）中村は，第35回日本看護教育学学会の査読委員を務め，査読を行った。

20）中村は，第10回日本ルーラルナーシグ看護学会の査読委員を務め，査読を行った。

21）中村は，第12回日本クリティカルケア看護学会　企画委員会の委員長を務めた。

22）中村は，北関東救急看護研究会の会長を務めた。

23）中村は，日本保健医療社会学会看護・ケア研究部会の会長を2014年度から務めている。

24）長谷川は，第20回日本糖尿病教育・看護学会学術集会の査読委員を務め，査読を行った。

25）中野・佐々木は，北関東救急看護研究会の事務局員を務めた。

老年看護学

教授　宮林　幸江

１．スタッフの紹介

教　授　宮林　幸江
准教授　浜端　賢次
准教授　川上　　勝
講　師　清水みどり

２．教育の概要

老年看護学では，様々な生活の場・療養の場で，あらゆる健康レベルの高齢者とそれを取り巻く環境を対象として，看護を実践するために必要な専門的能力を養うことを教育目標としている。

１）老年看護学に関する教育概要

⑴生涯発達看護学概論Ⅳ（老年期）
（1年次後学期2単位：必修）
老年看護学の概念及び対象と老年看護学の役割を学ぶことを目的とした。高齢者疑似体験や回想法に関する学びを取り入れた。臨床の場における看護の実際が理解できるよう，鮎澤みどり非常勤講師，船田淳子非常勤講師による講義を組み込んだ。

⑵老年実践看護学Ⅰ
（2年次前学期1単位：必修）
高齢者の健康特性及び健康評価に基づき，セルフケアやヘルスプロモーションの考え方を中心に，高齢者の保健・医療・福祉の連携など，高齢者の健康増進と健康の維持向上をめざしたアプローチについて講義した。なお，鮎沢みどり非常勤講師による講義を組込んだ。

⑶老年実践看護学Ⅱ
（2年次後学期2単位：必修）
加齢により生じる様々な健康段階の理解や高齢者のエンパワメントを生み出す看護援助方法について学ぶことを目的とした。高齢者の紙上事例を用いた看護過程や倫理的課題の演習等を取り入れた。また，臨床の場の看護の実際が理解できるよう，太田信子臨床講師，廣瀬由美臨床講師，阿久津美代臨床助教による講義を組込んだ。

⑷老年実践看護学Ⅲ
（3年次前学期1単位：必修）
老年看護学の理論や知識を踏まえた看護技術の習得を目的とし，臨床実習での実践につながる摂食嚥下障害，皮膚障害，排泄・移動障害に対する看護について講義・演習を展開した。また，認知症高齢者や終末期にある高齢者への援助技術について講義した。

⑸老年臨床看護実習
（3年次前学期2単位：必修）
附属病院および特別養護老人ホーム，認知症グループホームにおいて，疾病や障害をもつ高齢者を対象に看護を展開した。

⑹老年在宅看護実習
（3年次後学期3単位：必修）
浜端は科目責任者として全体を統括した。老年看護学では，訪問看護ステーション及び通所リハビリテーション施設での学生指導を担当した。

２）老年看護学以外の担当教育概要

⑴看護基礎セミナー
（1年次前学期1単位：必修）
宮林は中塚助教と7名の学生を，浜端は福田講師と8名の学生を，川上は関山助教と8名の学生を担当した。

⑵文献講読セミナー
（2年次前期1単位：必修）
清水は9名の学生を担当した。

⑶看護総合セミナー
（4年次後学期4単位：必修）
15名の学生を対象に，看護実践課題に沿った先行研究の文献検討，総合実習に向けた計画書の作成および実践に基づくレポート作成に向けた指導を行った。各教員3～4名の学生を担当した。

⑷総合実習
（4年次前学期2単位：必修）
15名の学生のテーマに合わせて実習場および対象者を選択し，実践内容が目的に沿うよ

う随時指導した。（担当：全教員）

⑸看護トピックス
（4年次後学期1単位：必修）
16名の学生を対象に，看護活動の場（病院・施設・在宅）でグループとなり，高齢社会や多死社会，認知症高齢者の視点からその対応と予防策について検討し，共有した。（担当：全教員）

3．研究の概要

1）浜端は，平成27年度自治医科大学看護系教員共同研究による研究課題「安全帯の解除基準のガイドライン作成に関する研究」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，本学看護学部教員 宮林，本学附属病院神経内科病棟看護師長 簗瀬順子，同主任 石川裕子，同看護師福原江美，増渕美幸，水野百子，押久保絵美，高田沙織，地域医療連携・患者支援部 安藤恵であった。

2）川上は，文部科学省科学研究助成金（基盤研究（C））による研究課題「部位別体動の検知に基づく認知症高齢者の起上り予測法の確立と次世代見守り装置の開発」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は宇都宮大学　尾崎功一であった。

3）川上は，文部科学省科学研究助成金（基盤研究（B））による研究課題「ヘルスケア・デリバリーシステムの構築とマネジメント」（研究代表者：神奈川大学　高野倉雅人）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。

4）川上は，平成27年度自治医科大学看護系教員共同研究による研究課題「誤嚥予防用装着型食具の開発」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。共同研究者は，附属病院看護師　戸田浩司，塚本浩章，同歯科衛生士　若林宣江であった。

5）清水は，文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））による研究課題「介護老人保健施設入居者の終末期のQOLとリスク管理に関する看護ケアモデルの開発」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。

4．その他

1）浜端は，2015年5月に看護管理者研修「看護管理職に求められていること」（医療法人亀田病院主催）において，講義を4時間担当した。

2）浜端は，2015年8月にリーダーシップ研修（栃木県看護協会主催）において，講義・演習を12時間担当した。

3）浜端は，2015年9月に認定看護管理者セカンドレベル教育研修会「保健・医療・福祉サービス提供組織のしくみ」（栃木県看護協会主催）において，講義・演習を6時間担当した。

4）浜端は，2015年9月に実習指導者養成講習会「実習指導の原理」（栃木県看護協会主催）において，講義・演習を3時間担当した。

5）浜端は，2015年12月に介護施設等看護師キャリアアップ研修「高齢者の心身及び疾患の特徴とフィジカルアセスメント」（栃木県看護協会主催）において，講義・演習を4時間担当した。

6）川上は，JAかみつが厚生連 上都賀総合病院看護部職員を対象に看護研究全般について指導を行った。

7）川上は，2015年9月に実習指導者養成講習会「実習指導の原理」（栃木県看護協会主催）において，講義を6時間担当した。

大学院看護学研究科　教育の概要

母子看護学領域「小児看護学」

教授　横山　由美

1．スタッフ紹介

教　授　横山　由美

2．大学院教育の概要

小児看護学は，さまざまな健康状態にある子どもがよりよく育つことを目的に，子どもとその家族への看護の現状と将来的な展望を踏まえ，専門的な知識や研究課題を探求するとともに，高度な看護実践能力を育み，小児看護の充実と発展に寄与する人材の育成を教育目標としている。

平成26年度は，専門看護師教育課程の2年次1名，研究を主体とする課程の2年次1名，1年次1名の教育を行った。

院生の状況を配慮しつつ，ティーチングアシスタントとして，小児看護学の講義・演習・実習・セミナー等の補助を通して，教育方法について指導した。

1）小児看護学講義Ⅰ（1年次前期2単位）

子どもを理解するために，成長発達，生活，社会的・歴史的側面から，主要な看護理論や最近の知見について学ぶ。1年次1名と科目等履修生1名が履修した。横山が全講義を担当した。

2）小児看護学講義Ⅱ（1年次前期2単位）

子どもの健康レベルや状況に応じたケアについて考えを発展させるために，小児看護における重要な理論や最近の知見について学ぶ。1年次1名が履修した。横山が科目責任者として総括し，非常勤講師の小児看護専門看護師黒田・村山，朝野が分担者として担当した。

3）小児看護学演習Ⅰ（1年次前期2単位）

保健医療・福祉・教育との関連において小児看護を理解し，看護の役割・活動について学ぶ。1年次1名が履修した。横山が科目責任者として総括し，非常講師の朝野，小児看護専門看護師黒田が分担者として担当した。

4）小児看護学演習Ⅱ（1年次後期2単位）

専門的な小児看護実践に活用できるヘルスアセスメントの能力を修得する。1年次1名が履修した。横山が科目責任者として総括し，非常勤講師の医学部教員河野，熊谷が分担者として担当した。

5）小児看護学演習Ⅲ（1年次後期2単位）

事例を用いて小児看護実践における課題および小児専門看護師としての援助について検討する。事前学習として10月に日光市を対象とした地区踏査および日光市民病院オリエンテーションを行った。演習のフィールドとして日光市民病院を使用した。1年次1名が履修した。横山が科目責任者として総括し，非常勤講師で小児看護専門看護師の黒田・村山・佐々木が分担者として担当した。

6）小児看護学演習Ⅳ（2年次前期2単位）

小児期に特有な疾患の診断と治療のプロセスについて学ぶ。2年次2名が履修した。横山が科目責任者として総括し，非常講師として医学部阿部2時間，河野2時間，南6時間，熊谷8時間，門田8時間，小児看護専門看護師の黒田2時間，村山2時間が分担者として担当した。

7）小児看護専門看護実習Ⅰ（2年次前期8単位）

高度医療および地域の医療が展開される場において，小児看護専門看護師として子どものケアを実践できる能力を修得する。2年次1名が履修した。横山が科目責任者として指導し，非常勤講師として小児看護専門看護師である黒田，村山，佐々木がともに指導した。

8）小児看護専門看護実習Ⅱ（2年次後期2単位）

子ども特有の疾病の診断および治療のプロセスについての知識を活用し，医師とのディスカッションを通して学び，看護実践に活用できる能力を修得する。横山が科目責任者として総括し，非常勤講師として，医学部河野，南，熊谷，門田が分担者として担当した。

8）小児看護学課題研究（2年次後期4単位）

小児看護学の学修並びに看護実践を通じて見出された研究課題に沿って研究を行い，修士論文を作成する。2年次1名が履修し，修士論文として提出した。研究指導教員として横山が担当した。

8）小児看護学特別演習（2年次前期4単位）

小児看護における現状を分析して課題を見出し，改善・改革の方法について明らかにする。2年次1名が履修した。横山が科目責任者として担当した。

9）実践看護学特別研究（2年次後期6単位）

実践看護学の対象となる人々へのケアの改善・改革に関連する研究課題を設定し，修士論文を作成する。2年次1名が履修し修士論文として提出した。研究指導教員として横山が担当した。

講義・演習・セミナーを通じて1年生1名が修士論文における研究課題を研究構想発表会において発表し，さらに検討を重ねた。

院生の宗像は，「HEALTH EDUCATION EFFECTIVENESS ON ELEMENTARY SCHOOL STUDENT'S SLEEP IN COLLABORATION WITH EDUCATIONAL INSTITUTIONS」について19th EAFONSにおいてポスター発表した。

母子看護学領域「母性看護学」

教授　成田　　伸

１．スタッフ紹介

教　授　成田　　伸
教　授　野々山　未希子
准教授　角川　志穂

２．大学院教育の概要

平成27年度は，専門看護師教育課程を希望する2名について2年次の教育，専門看護師教育課程を希望する1名について1年次の教育を行った。

1年次の鈴木には，前期に母性看護学講義Ⅰおよび母性看護学演習ⅠⅡ，後期には母性看護学講義Ⅱ，Ⅲおよび母性看護学演習Ⅲ，Ⅳを，非常勤講師による臨地講義を活用して実施した。講義・演習・セミナーを通じて院生が課題研究に向けての課題検討を行い，研究構想発表会において発表し，さらに検討を重ね研究計画を立ち上げ，倫理審査受審の準備を行い，「切迫早産で入院した母親の妊娠期から出産後早期における母乳育児を通した体験」をテーマとすることになった。

2年次の専門看護師教育課程を受講する2名について母性看護専門看護実習ⅠおよびⅡの実習指導，課題研究を指導した。小林は，課題研究のテーマを含む実習を勤務先の病院で行うこととし，当該病院看護部に依頼し，了解を得られ，実習を実施した。実習記録に基づき課題研究として分析した結果を，修士論文「産科他科混合病棟の助産師による，妊婦健診外来から産科病棟への継続看護システムの導入の検討」として完成させた。佐藤は，課題研究のテーマを含む実習を附属病院で行い，実習記録に基づき課題研究として分析した結果を，修士論文「初めて妊娠糖尿病と診断された妊婦の自己管理上の課題と助産師の支援の検討」として完成させた。

健康危機看護学領域
「クリティカルケア看護学」

教授　中村　美鈴

１．スタッフの紹介

教　授　中村　美鈴
准教授　村上　礼子（2015年7月1日教授昇進，8月1日看護師特定行為研修センター専任）
准教授　佐藤　幹代（2015年9月1日　就任）

２．教育の概要

主として身体的な健康危機状態にある患者とその家族を全人的に捉え，苦悩・苦痛を緩和し，危機的状態からの健康の回復と生活への適応に向けて専門的に看護をするために，状況に応じた総合的な判断力と組織的な問題解決能力を備えた高度な看護実践者を育成する。

また，平成27年度は，高度実践看護師教育課程について，26単位から38単位に移行した。そのため，1年次生1名は38単位の教育課程，2年次生3名は26単位の教育課程を履修している。なお，26年度1年次生は，これまでに26単位教育課程の科目履修生であったため，既習得単位の認定を受け，単位取得ができている科目がある。

１）クリティカルケア看護学に関する教育概要
＜38単位教育課程の教育概要＞

⑴クリティカルケア看護学講義Ⅰ（1年次前学期2単位：必修・選択）

中村が26時間，山勢博彰（山口大学大学院医学系研究科教授）4時間の講義を担当した。

⑵クリティカルケア看護学講義Ⅱ（1年次前学期2単位：必修・選択）

中村が4時間，竹内護非常勤講師，井上壮一郎非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座教授，准教授）が各2時間，布宮伸非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座講師）が12時間，三澤吉雄非常勤講師（本学医学部心臓血管外科部門教授）が4時間，斎藤修非常勤講師（本学医学部腎臓内科部門准教授）2時間，佐久間康成非常勤講師（本学医学部消化器外科学部門准教授）2時間，水田耕一（本学医学部移植外科学部門准教授）2時間の講義を担当した。

⑶クリティカルケア看護学講義Ⅲ（1年次後学期2単位：必修・選択）

中村が8時間，布宮伸非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座学内教授）が8時間，竹内護非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座教授）が4時間，多賀直行非常勤講師（とちぎ子ども医療センター准教授）が2時間，和田政彦非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座講師）が2時間，山下圭輔非常勤講師（本学医学部・救急医学・教授）が6時間の講義を担当した。

⑷クリティカルケア看護学演習Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）

中村が32時間，村上が8時間，茂呂悦子非常勤講師（本学附属病院CNS）が中村とともに20時間の講義・演習を担当した。

⑸クリティカルケア看護学演習Ⅱ（1年次前学期2単位：必修）

中村が36時間，村上が12時間，井上荘一郎非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座准教授）が4時間，木下佳子非常勤講師（NTT東日本関東病院看護副部長）が８時間の講義・演習を担当した。

⑹クリティカルケア看護学演習Ⅲ（1年次後学期2単位：必修）

中村が32時間，佐藤が12時間，古賀雄二非常勤講師（山口大学医学部附属病院CNS）が8時間，綿貫成明非常勤講師（国立看護大学校教授）が8時間の講義・演習を担当した。

⑺クリティカルケア看護学演習Ⅳ（1年次後学期2単位：必修）

中村が6時間，佐藤が4時間，土蔵愛子非常勤講師（兵庫医科大学医療人育成センター主任教員）が4時間，谷島雅子非常勤講師（本学附属病院CNS），茂呂悦子非常勤講師（本学附属病院CNS），上澤弘美非常勤講師（土浦協同病院CNS），渡邊好江非常勤講師（杏林大学医学部付属病院CNS）が中村とともにそれぞれ4時間ずつ講義・演習を担当した。

⑻クリティカルケア専門看護実習Ⅰ（1年次後学期2単位：選択必修）

26年度は，布宮　伸教授と共に，中村・佐藤は，大学院生2名の実習指導を行った。

⑼クリティカルケア専門看護実習Ⅱ（2年次前・後学期4単位：選択必修）

27年度は開講していない。

⑽クリティカルケア専門看護実習Ⅲ（2年次前・後

学期4単位：選択必修）

27年度は開講していない。

⑾クリティカルケア看護学課題研究（2年次前・後学期4単位：選択必修）

今年度は開講していない

⑿クリティカルケア看護学特別演習（2年次前・後学期4単位：選択必修）

中村が40時間，ゼミ形式で48時間，佐藤が28時間の講義・演習を担当した。

⒀実践看護学特別研究（2年次後学期6単位：選択必須）

今年度は開講していない。

健康危機看護学領域「精神看護学」

教授　半澤　節子

１．スタッフの紹介

教　授　永井　優子
教　授　半澤　節子

２．教育の概要

精神看護学では，主として精神的な健康危機状態について，人間の生涯にわたる精神的健康の増進から重度の精神障害者の支援までを行う，上級の精神看護実践専門職として役割を果たすことができ，実践状況を変革できる人材育成を目指した教育活動をしている。

平成27年度に精神看護学に関する専門科目の履修を登録した院生は1名であり，「健康危機看護学特別研究」を開講した。

【健康危機看護学特別研究（通年）】

特別研究の授業目標は，看護実践を通して見出された研究課題について研究を行い，修士論文を作成することである。履修者1名に対して，前年度に看護学研究科研究計画支援委員会から得られた助言を踏まえ，研究倫理審査委員会に書類を提出するよう指導した。また，研究計画に基づいて調査研究を実施するために必要な助言を行った。

がん看護学領域「がん看護学」

教教授　本田　芳香

1．スタッフの紹介

教　授　本田　芳香
教　授　小原　　泉

2．教育の概要

がん看護学領域は，平成19年度に文部科学省の「がんプロフェショナル養成プラン」において，本学の取り組みである「全人的ながん医療の実践者養成」が採択された。本学大学院看護学研究科において，平成20年度より高度専門看護職に求められる看護実践能力の育成強化を教育課程の特徴とする実践看護分野に，がんの急性期から終末期に至る様々な健康状態にある患者とその家族に対して，看護実践を提供するための実践理論とその方法を系統的に教授するがん看護学領域を開講した。本領域ではがん看護における専門的知識や研究課題を探究するとともに，がん患者とその家族に生じる複雑な状況を的確に判断し，苦痛や苦悩を緩和し，生活の質の向上を目指した高度な看護実践のできるがん看護のスペシャリストを育成する。平成22年に専門看護師教育課程（28単位）の認定を受け，平成26年には，博士前期課程の教育課程として改編し，38単位の専門看護師教育課程の認定を受けた。

1）がん看護学に関する教育概要

平成27年度は2名の学生を受け入れた。この2名は専門看護師教育課程の標準コースにて講義・演習を開始した。38単位認定に伴いがん看護専門科目は，演習科目2単位，専門実習4単位が追加となっている。

平成26年度入学者1名は，がん看護専門看護実習㈱，がん看護専門看護実習㈱及びがん看護学課題研究を受講した。

【がん看護学講義Ⅰ】（1年次前期科目）2単位

がんの分子生物学，病因，疫学と予防，遺伝学，病態生理学，診断，治療法に関する最新知見を深め，治療に応じた身体管理方法の概要を理解する。がん患者とその家族に生じる複雑な健康課題を包括的にアセスメントする視点を修得し，最新のケア実践への適応を探求することを到達目標とした。がん患者とその家族に生じる複雑な健康課題に対して，がんの疫学，病態，診断，治療法などの最新知見から包括的なアセスメントを行う視点を，学生によるプレゼンテーション，討議を通して最新のケア実践へ繋げる方策を考察した。評価方法は，プレゼンテーション，討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，小原，非常勤講師7名が担当した。

【がん看護学講義Ⅱ】（1年次前期科目）2単位

がん患者とその家族が抱える複雑な健康問題を理解する基盤となる概念や理論を学び，看護モデルへの適応を探究することを到達目標とした。がん患者とその家族を理解するための基盤となる概念枠組みを理解するため，国内外の文献と討議をもとに，がん看護領域における基本的概念について考究した。またがん看護領域に関連するストレスコーピング理論，ケアリング理論，危機理論などの諸理論の理解についてプレゼンテーション，討議をし，それをもとにがん看護における本理論の適応を考究した。評価方法は，プレゼンテーション，討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，小原，非常勤講師1名が担当した。

【がん看護学演習Ⅰ】（1年次前期科目）2単位

がん患者とその家族に生じる複雑な健康課題に対して，最新の知見に基づいた系統的なアセスメントを行い，患者とその家族の苦痛及び苦悩を包括的に理解する方法を学修することを到達目標とした。がん患者とその家族の健康問題を身体的，精神的，社会的，スピリチュアルな各側面から系統的に症状を捉える基本，診断期から終末期に至る各期におけるがん患者とその家族の症状アセスメントの分析を通して系統的に習得する方法を教授した。評価方法は，プレゼンテーション，討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，小原が担当した。

【がん看護学演習Ⅱ】（1年次前期科目）2単位

がん看護の基盤となる概念や理論，および緩和医療の知識を活用した事例分析や看護介入モデルの展開を通して，緩和ケアを提供するための専門的な看護実践方法を学修することを到達目標とした。がん看護に関連する上記の諸理論を用いて実践事例を分析し，発表と討議を通して自己の看護観を考究した。また実践事例が有する健康課題を的確に捉える視点を，がん看護に関連する理論や概念を用いて看護介入モデルを作成し，プレゼンテーション，討議を通して実践への適用を検証及

び考察した。評価方法は，プレゼンテーション，討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，小原，非常勤講師4名が担当した。

【がん看護学講義Ⅲ】（1年次後期科目）2単位

がん診断期から終末期に至る様々な健康課題を抱えるがん患者とその家族に対するグリーフケアを含め，緩和ケアを系統的かつ体系的システムとして提供するために有用な資源，および資源の活用も含めた専門的な看護援助方法を理解することを到達目標とした。各治療時期（周手術期，化学療法，放射線療法，遺伝性のがん看護，長期療養過程にある看護，終末期にある看護，グリーフケア，地域看護）の様々な健康課題を抱えるがん患者とその家族に緩和ケアを系統的かつ体系的システムとして提供する看護支援方法を，各専門領域の講師より最新知見の提供を受けた。またがん看護専門看護師が果たすべき役割機能として探求するため，実践事例に基づきプレゼンテーション，討議形式で系統的に習得できるように教授した。評価方法は，プレゼンテーション，討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，小原，非常勤講師5名が担当した。

【がん看護学演習Ⅲ】（1年次後期科目）2単位

緩和ケアに関するキュアとケアの方法について実践事例や国内外の文献をレビューし，キュアとケアを統合しエビデンスに基づいた緩和ケアを提供するための専門的な看護実践方法を理解することを到達目標とした。様々な健康課題を抱えるがん患者・家族に緩和ケアを提供するための専門的な看護支援の実際を，CNSの6つの機能（実践，教育，相談，調整，倫理，研究）に基づき実践事例や国内外の文献を検討し，質の高い緩和ケア提供方法を探究するため，プレゼンテーション，討議を通して，がん看護や緩和ケアにおける課題や展望について考察した。評価方法は，プレゼンテーション，討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，小原，非常勤講師2名が担当した。

【がん看護学演習Ⅳ】（1年次後期科目）2単位

がん診断期から終末期に至る複雑で困難な健康課題を抱えるがん患者とその家族に対して，緩和ケアを提供するための臨床推論・判断過程を理解する。またがん相談技法やがん患者教育的技法を模擬患者などのシミュレーション方法を活用し緩和ケアの包括的介入方法を理解することを到達目標とした。がん患者とその家族が抱える複雑で困難な健康課題に対してキュアとケアを統合するための臨床推論・判断過程を系統的かつ包括的に探究するため，緩和ケアに関連する実践事例の展開および症状アセスメント方法についてプレゼンテーション，討議形式で系統的に習得できるように教授した。評価方法は，プレゼンテーション，討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，小原が担当した。

【がん看護専門看護実習Ⅰ】（2年次前期）6単位

がん患者と家族に継続的かつ質の高い緩和ケアを提供する病棟，外来など様々な場において，専門看護師の役割・機能の実際，および高度な看護実践・教育・相談・調整・倫理調整の実際を通して，創造的ながん看護ケア開発の方法を理解することを到達目標とした。がん看護専門看護実習Ⅰは，緩和ケア専門実習，CNS役割開発実習，上級実践がん看護実習の３つに分けて科目目標を達成するためにがん看護専門看護師のスーパーバイズを受けながら実施するよう実習体制を組んだ。評価方法は，実習記録などを含むレポート評価および実習評価基準に基づき，自己評価，実習指導者による他者評価，教員による総合評価で評価をおこなった。本田，小原が担当した。

【がん看護専門看護実習Ⅱ】（2年次後期）4単位

がんの診断・治療に伴う臨床判断に基づいた身体管理方法の実際を通して，複雑な健康課題をもつがん患者およびその家族にキュアとケアを統合した看護ケア開発について理解することを到達目標とした。主に外来および病棟でがん化学療法を受け症状緩和のための身体管理を要する患者を複数担当し，医師による臨床判断の内容や身体管理の方法を学ぶとともにがん看護専門看護師のスーパーバイズを受けながら実施する実習体制を組んだ。

評価方法は，実習記録を含むレポート課題および実習評価基準に基づき自己評価，実習指導者による他者評価，教員による総合評価にて評価を行った。小原，本田が担当した。

【がん看護学課題研究】（2年次後期）4単位

がん看護学領域における新たな知見を探求するため，研究課題に沿い科学的根拠に基づいた研究方法を用いて研究論文を作成することを到達目標とした。院生は1年次より自治医科大学シンポジウム，合同研究セミナー等により研究課題を絞りこみ臨床実践に寄与するための研究論文を作成し

た。評価方法は，一連の研究プロセスおよび成果物を総合的に評価した。小原が担当した。

２）その他　看護学部教育に関連する教育概要

⑴がん看護学に関連する教育概要

がん看護学（2年次後期科目1単位：選択）の科目責任者を小原が務めた。学習目的は，対象ががんを患う意味と，生命・生活への支障・影響を理解し，対象とその家族に必要な看護を学習することである。がんの特徴やがん治療の特徴，各健康時期（診断期から終末期に至るまで）のがん患者とその家族への看護の実際，がんに伴う症状（痛み，リンパ浮腫，倦怠感等）が生活・生命に与える影響と必要な緩和ケアについて，主に講義形式で授業をすすめた。またがん体験者によるがんと共に生きる患者の生活の理解についてがん体験者による講義も行った。授業は，科目責任者は小原，他本田，3名の非常勤講師，教育支援者1名が担当した。

⑵がん看護学以外の担当教育概要

本田，小原は，基礎看護学関連科目（主に1年，2年次，4年次）11科目，他総合分野として，看護基礎セミナー（1年次前期科目1単位：必修）では，７～8名の学生を対象にセミナー形式ですすめていった。総合実習（4年次前期2単位：必修）・看護総合セミナー（4年次後期科目6単位：必修）は，19名の学生を対象に前期の一部は全員にて文献検討をおこない，その後研究テーマ別に10名と9名のグループに分かれ，グループ指導および個別指導をおこなった。

老年・地域看護管理領域
「老年看護管理学」

教授　宮林　幸江

１．スタッフの紹介

教　授　宮林　幸江
准教授　浜端　賢次
准教授　川上　　勝

２．教育への概要

博士課程前期

１）老年看護管理学　講義Ⅰ（1年前期科目）2単位

高齢者看護の概念・高齢者の特徴，発達課題を踏まえての看護学から見た高齢者への健康生活の支援（宮林，川上），健康課題の問題，高齢者の意思決定と倫理問題（浜端），高齢者の家族と高齢者における現状と課題（宮林）等について教授し，院生は学修をした。また，評価は，今後の問題点を見据えつつ高齢者看護管理全般についての考察を含めて，課題レポートを課した。また，講義資料には，実際の研究論文を資料として提示した。

（担当　宮林，浜端，川上）

２）老年看護管理学　講義Ⅱ（1年後期科目）2単位

健康障害を持ちつつの高齢者の生活を支えることと実際の医療施策（宮林），高齢者の健康レベルと生活の場（宮林），認知症高齢者への援助の方法の変遷と最新のケアの実践・研究の動向（浜端），そして高齢者のソーシャルサポートと環境整備について（浜端）。また高齢者の最終の姿である弱体・衰退化（臨死）から死別へ老年期の発達最終過程にある姿と，多死社会に向けた最後のケアのあるべき援助の方法の変遷と最新のケアの実践・研究の動向を海外文献を使用しつつ教授した（宮林）。

（担当　宮林，浜端）

３）老年看護管理学　演習Ⅰ（1年・2年前期科目）4単位

高齢者看護に関する分野別の研究を系統的に整理しつつ，重要かつ優れた文献をクリティークし，院生の研究課題のフォーカス化・研究についての学修講義とした。また実際のケア（喪失悲嘆に苦悩する人）の実践に参加し，実際の声を徴収し聴き入る実践により研究への導入とした。

（担当　宮林）

博士課程後期

広域実践看護学特論Ⅲ（1年次科目　選択）2単位

悲嘆経験者のメンタルヘルスとグリーフケア及び遺族からの相談について，悲嘆の反応の悲嘆の正常・異常（複雑悲嘆）そしてグループ療法について講義をし，実際の事例を用いて，ケア・相談内容について理解を深めた。（宮林担当分）

（担当　半澤，宮林）

老年・地域看護管理学領域
「地域看護管理学」

教授　春山　早苗

１．スタッフの紹介

教　授　春山　早苗
准教授　鈴木久美子
准教授　塚本　友栄

２．教育の概要

地域看護管理学の履修者は，1年生は1名，2年生は1名（3年目）で全員が長期履修制度を利用している。

地域看護管理学では，地域特性に応じた政策立案や地域資源づくり，地域ケア体制づくり，その他の地域看護管理に関わる知識や技術を教授し，地域ケアの現場において管理的・指導的役割を担い，地域のニーズに合った看護サービス提供システムを改善・改革・創出できる人材育成を目指した教育活動をしている。今年度の開講科目は「地域看護管理学講義Ⅰ」（2単位，春山担当），「地域看護管理学講義Ⅱ」（2単位，春山・鈴木担当），「地域看護管理方法Ⅰ」（2単位，春山・非常勤講師担当），「地域看護管理方法Ⅱ」（2単位，春山・鈴木），「地域看護管理学演習」（4単位，春山・鈴木・塚本担当）であった。

【地域看護管理学講義Ⅰ・Ⅱ】

講義Ⅰの授業目標は，文献検討や近年の地域看護活動の課題の検討を通して，地域看護管理に関係する主要概念，地域における看護活動体制づくりの理論と考え方，地域資源の評価と開発に関わる看護活動について学修することである。1年生1名が履修した。

講義Ⅱの授業目標は，文献抄読により，へき地に住む人々のヘルスニーズと地域診断の視点，へき地看護理論の基礎，へき地看護活動の展開方法と看護管理体制のあり方について学修することである。1年生1名が履修した。

【地域看護管理方法Ⅰ・Ⅱ】

方法Ⅰの授業目標は，実践事例や先行研究の知見から地域連携体制の構築や地域看護管理活動の展開方法，施策化に関わる看護専門職の役割と看護活動の展開方法について検討することである。1年生1名が履修した。

方法Ⅱの授業目標は，山間へき地や離島，豪雪地帯における実践事例や国内外の文献を検討し，へき地における看護活動発展のための方法を考えることである。1年生1名が履修した。

【地域看護管理学演習】

授業目標は，地域特性とヘルスニーズの分析から，地域における看護提供体制を評価検討し，看護管理に関する改善・改革の課題を明らかにすることである。1年生1名が履修した。授業目標に関連した目標を学生自身が立て，県内1市において実習を実施した。

共通科目

大学院看護学研究科　半澤　節子

看護学研究科の教育課程において，看護学の高度専門職に求められる看護実践能力の育成強化を目指し，教育課程を構成し，「共通科目」と「専門科目」を置いている。平成27年度に開講された共通科目は，必修科目として「看護管理・政策論」（2単位）の1科目を開講した。また，選択科目として「病態生理学特論」「フィジカルアセスメント特論」「臨床薬理学特論」「看護実践研究論」「コンサルテーション論」「看護倫理」「看護継続教育論」「地域医療論」「地域調査法」（各2単位）の9科目を開講した。共通科目はいずれも，原則として1年次を配当年次としている。なお，このうち，「病態生理学特論」「フィジカルアセスメント特論」「臨床薬理学特論」のすべての科目，加えて「看護実践研究論」「コンサルテーション論」「看護倫理」「看護継続教育論」のうち3科目以上を選択し，計14単位以上を履修することが，専門看護師教育課程の認定の要件となっている。

１．必修科目

【看護管理・政策論】

本科目は，科目責任者を春山早苗教授として，保健・医療・福祉システムにおいて有効に機能する看護活動や管理の組織化の方法，並びに看護職の資質向上のために制度改革や政策決定に関する看護職の働きかけについて理解することを目標とし，保健医療福祉システムの中で質の高いケアを提供するための高度実践看護職の機能と役割，医療チーム内の調整や関係者間の調整，管理的立場にある看護職との協働，制度改革への高度実践看護職の働きかけについて教授した。

２．選択科目

【病態生理学特論】

本科目は，科目責任者を北田志郎准教授として，日常的によくみられる病態を系統的に理解し，より高度な看護実践に向け，エビデンスに基づいた病態生理学的状態を判断するために必要な知識と技術を習得することを目標とし，事例演習を交えて教授した。

【フィジカルアセスメント特論】

本科目は，科目責任者を中村美鈴教授として，高度実践看護職として，複雑な健康問題をもった対象の身体状況を査定し，臨床判断を行うために必要な知識と技術を修得することを目標とし，シミュレーター学習を取り入れ，特に複雑な病態に対する臨床判断プロセスを磨く技能を教授した。

【臨床薬理学特論】

本科目は，科目責任者を大塚公一郎教授として，薬剤の人体における作用機序，体内動態，有益な効果と有害な効果，薬剤使用の判断を理解し，投与後の患者のモニタリング，患者の服薬管理など専門看護師に実践について考えられることを目標とし，そのための臨床薬理学の基礎知識と看護職による薬剤調整に関する知識と技術を教授した。

【看護実践研究論】

本科目は，科目責任者を半澤節子教授として，看護分野における研究の発展について理解し，自らの臨床経験を踏まえながら，先行研究におけるエビデンスをさらに発展させた看護研究課題を設定し，適切な研究方法とその展開方法について理解することを目標とし，研究計画書作成への基礎的知識について教授した。

【コンサルテーション論】

本科目は，科目責任者を永井優子教授として，コンサルテーションに関する理論と倫理的側面を含むコンサルテーションをめぐる問題や課題について検討することを目標とし，ロールプレイやコンサルテーション体験に基づいて，高度実践看護職が必要とする技能と役割について教授した。

【看護倫理】

本科目は，科目責任者を小原泉教授として，医療現場における生命倫理の現実的な課題と看護職の倫理的行動，および看護場面での複雑な判断を要する倫理的課題について，関係職種間の調整，提言など看護専門職の立場から果たすべき機能について理解することを目標として，必要な知識，および高度実践看護職が果たすべき機能について教授した。

【看護継続教育論】

本科目は，科目責任者を本田芳香教授として，看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的な働きかけとして，様々な学習形態をとる教育環境づくりの方策，基盤となる教育的かかわりの方策を理解することを目標として，関連する知識と技術を教授した。

【地域医療論】

本科目は，科目責任者を北田志郎准教授として，地域に根差した医療や保健を展開する方法を理解することを目標として，地域ニーズの捉え方，ニーズに即した医療提供の方法，地域の保健医療福祉施設の有機的な連携，医療資源のアウトソーシングの実際について教授することとしてとしているが，平成26年度については，本科目の履修登録者がいなかったため開講されなかった。

【地域調査法】

本科目は，科目責任者を渡邉亮一教授として，地域における健康問題や健康ニーズを把握するための調査方法，並びに収集した資料やデータの分析方法，結果の読み方などを理解することを目標として，効率的な看護活動・保健活動やその管理的活動を展開する上で必要な地域の健康問題やニーズを把握するための質的・量的調査法について講義や演習を通じて教授した。

博士後期課程
広域実践看護学分野

研究科長　春山　早苗

１．スタッフの紹介

教　授	春山　早苗	教　授	永井　優子
教　授	中村　美鈴	教　授	成田　伸
教　授	野々山未希子	教　授	半澤　節子
教　授	本田　芳香	教　授	横山　由美
教　授	宮林　幸江	教　授	大塚公一郎
教　授	小原　泉	教　授	村上　礼子
教　授	渡邉　亮一	准教授	角川　志保
准教授	塚本　友栄	講　師	飯塚　秀樹

２．教育の概要

博士後期課程の学生は，1年生3名，2年生2名，3年生4名（3年目2名，4年目2名）で，全員が長期履修制度を利用している。

博士後期課程では，ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で，看護に関する問題の全体像と本質を捉え探究し，看護学を発展させることのできる教育研究者の育成を目指した教育活動をしている。今年度の専門科目の開講科目は「広域実践看護学特論Ⅰ」(2単位，必修)，「広域実践看護学特論Ⅱ」(2単位，選択)，「広域実践看護学特論Ⅲ」(2単位，選択)，「広域実践看護学Ⅳ」(2単位，選択)，「広域実践看護学演習」(2単位，必修)，「広域実践看護学特別研究」(6単位，必修，1～3年次）であった。専門関連科目の開講科目は「地域保健医療研究論」(2単位，選択）であった。

【広域実践看護学特論Ⅰ（ヘルスケアシステム研究法）春山・成田担当】

本科目では，講義やプレゼンテーション，討議をとおして，看護ケアやヘルスケアシステムを効果・効率的に提供するためのヘルスケアシステム及び看護提供システムの構築・マネジメント，施策・政策化に関わる看護実践の開発に関する研究方法を探究する。1年生3名及び科目等履修生1名が履修。

【広域実践看護学特論Ⅱ（クリニカルケア研究法）中村・横山担当】

本科目では，講義やプレゼンテーション，討議をとおして，看護現象の客観的な分析と分析結果を探究する研究方法論および方法について批判的に吟味し，クリニカルケアにおける新たな看護実践を創出するための研究方法を探求する。1年生1名が履修。

【広域実践看護学特論Ⅲ（メンタルヘルスケア研究法）半澤・宮林担当】

本科目では，講義やプレゼンテーション，討議をとおして，国内外における精神保健医療福祉の歴史や現状を踏まえて，メンタルヘルスケアに関わる看護実践の開発につながる研究課題及び仮説の設定，研究方法について理解する。1年生1名が履修。

【広域実践看護学特論Ⅳ（看護教育・管理研究法）本田・塚本担当】

本科目では，講義やプレゼンテーション，討議をとおして，看護教育・看護管理の現状と課題について理解し，看護行政・政策の動向を踏まえて，人材育成システムの開発と改善に関わる研究方法を探究する。1年生1名が履修。

【広域実践看護学演習】

本科目では，先行研究の知見の総括・評価を行い，その成果から研究課題を焦点化し，研究計画に反映できる学修となることを目指す。

システムに関するテーマについては，1年生1名が＜ヘルスケアシステム＞（春山・本田担当）を，2名が＜看護教育・看護管理＞（成田・塚本担当）を，看護ケアに関するテーマについては，1年生1名が＜クリニカルケア＞（中村・小原担当）を，2名が＜メンタルヘルスケア＞（半澤・永井担当）を選択した。

【広域実践看護学特別研究】

研究指導教員を表に示す。

博士前期課程・博士後期課程合同研究セミナーは6月，9月，11月，1月に開催した。博士後期課程の学生は，セミナーで毎回，特に，11月，1月は【広域実践看護学演習】の結果も踏まえてプレゼンテーションを行い，研究課題の設定，研究対象の明確化，研究方法の検討等について，研究指導教員以外の教員にも助言を得たり，博士前期課程の学生とも討議したりできる機会とした。

表　研究指導教員

学年	学生	主研究指導教員	副研究指導教員
1	A	春山	大塚・半澤
	B	中村	春山・横山
	C	成田	永井・本田
2	A	春山	中村・渡邉
	B	中村	永井・本田
3	A	永井	春山・本田
	B	成田	半澤・本田
3 4年目	A	春山	永井・本田
	B	成田	中村・春山

2名が学位論文審査に合格し，博士論文のテーマは「助産師の職業生活の変化の様相と職業生活の変化に影響する要因」及び「離島町村で働く新任期保健師の看護実践能力の向上につながる経験」であった。

【地域保健医療研究論　渡邊・非常勤講師担当】

本科目では，地域保健医療の将来像を踏まえ，医学，情報学等の他の学問分野における課題を見出し，人々を取り巻く地域保健医療システムに関する研究方法や最新の知見を学修する。

1年生3名，2年生1名が履修した。

研究業績録

注　1）掲載対象は2015年1月1日から同年12月31日までである。
　　2）ゴシック体の人名は対象年に本学に所属していた者である。

看護基礎科学

⑴　論文

１）Y.Shibayama, T.Kuwata, J.Yamaguchi, M.Matsumoto, M.Watanabe, R.Nakano, K.Kai, M.Watanabe, **R.Watanabe**, A.Ohkuchi, S.Matsubara：Changes in standing body sway of pregnant women after long-term bed rest. Journal of Obstetrics and Gynaecology, 36(4);479-482, 2015.

２）**大塚公一郎**，稲垣　諭：眼差し，声，規範の観点からみた自閉スペクトラム症の反社会的行為．臨床精神病理，36;245-262，2015.

⑵　学会発表

１）**Hirao A**, Aoyama M, Sugita S：The role of uropygial gland of sex behavior and the morphology of the lateral nasal gland duct in domestic chicken. 49th International Society for Applied Ethology, Sapporo. 2015年9月.

２）**大塚公一郎**：精神保健専門家の立場から医療通訳との連携を考える．シンポジウム10「医療通訳と精神保健専門化との連携」．第15回外来精神医療学会，東京．2015年7月5日.

３）**北田志郎**：医療 - 介護連携による「病いの軌道」の理解と介入．第17回日本在宅医学会，シンポジウム「認知症ケアの根幹を見つめる」，盛岡，2015年4月26日.（第17回日本在宅医学会抄録集174-175，2015）

４）**北田志郎**：「医療介護統合シート」を用いての「病いの軌道」の理解と意思決定支援．第37回日本POS医療学会大会，シンポジウム「在宅医療・ケアにおける情報共有とPOS」，松戸，2015年6月20日.（第37回日本POS医療学会大会・市民公開講座，プログラム・抄録集36，2015）

５）**北田志郎**：内科訪問診療専門診療所における精神疾患を有する患者の傾向と対応．第15回日本外来精神医療学会，シンポジウム「地域精神医療：地域における精神科と身体科」，東京，2015年7月5日.（第15回日本外来精神医療学会プログラム・抄録集67，2015）

６）**北田志郎**：東アジア伝統医学の手法を用いた『こころ』の治療をめぐって．第22回多文化間精神医学会学術総会，第19回多文化間精神保健専門アドバイザー資格認定研修会講演，東京，2015年10月3日（第22回多文化間精神医学会学術総会プログラム・抄録集75，2015）

⑶　著書・総説

１）**渡邉亮一**：病院概論.「ホスピタルエンジニア認定のための講習会テキスト（第4版）」所収. 1-4，一般社団法人日本医療福祉設備協会，2015.

２）岡本悦司，小橋　元，坂田清美，佐藤敏彦，西浦　博，横山英世，岡田充史，尾島俊之，亀崎豊実，高橋美保子，富田敦子，山本秀樹，**渡邉亮一**：サブノートF第39版　保健医療論・公衆衛生学（2016年版）．Medic Media，2015.

３）**大塚公一郎**：1．現症を理解しよう，2．精神症状とはなんだろう？（第Ⅴ章　精神を病む人はどんな状態を示すのか）．看護学テキストNICE精神看護学Ⅱ　こころ・からだ・かかわりのプラクテイス．改訂第2版．1-33，南江堂，2015.

４）**北田志郎**：せん妄．在宅医療テキスト（在宅医療テキスト編集委員会編），公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団（東京），90-91，2015.

５）**北田志郎**：補完代替医療（CAM）．在宅医療テキスト（在宅医療テキスト編集委員会編），公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団（東京），114-115，2015.

６）**北田志郎**：精神疾患の在宅医療．在宅医療テキスト（在宅医療テキスト編集委員会編），公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団（東京），142-145，2015.

⑷　その他

１）**大塚公一郎**：多文化間精神医療における多職種連携．外来精神療法，15;27-28，2015.

２）**大塚公一郎**：書評『ことばと知に基づいた臨床実践－ラカン派精神分析の展望』. こころと文化，14;74-75，2015.

３）**北田志郎**：在宅医療における身体科医と精神科医の連携モデル構築に関する研究－在宅医療専門内科診療所における精神疾患発症頻度とその傾向－．公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団2014年度在宅医療助成一般公募（前期）完了報告書，2015.

４）**北田志郎**：施設特性から考える精神科アウトリーチ－それぞれの現状と課題－．第14回外来精神医療学会シンポジウム．外来精神医療，15(1);32-34，2015.

５）**大塚公一郎**：教育講演．外国人のメンタルヘルス，こころの病気，誰でもかかりうる．栃木県国際交流協会主催平成27年度第1回相談員・通訳協力者実務研修会，宇都宮．2015年7月30日．

６）林　美紗，**平尾温司**，青山真人，杉田昭栄：カラス三叉神経の嘴における分布様式．第5回宇都宮大学オプトバイオシンポジウム，宇都宮．2015年12月21日．

７）**平尾温司**，佐々木航弥，竹田　努，杉田昭栄：ハシブトガラス*Corvus macrorhynchos*の尾腺分泌小管におけるPCNA陽性細胞の発現動態と浅部組織について．第12回とちぎ野生動物研究交流会，宇都宮．2015年3月．

基礎看護学

⑴　論文

１）浜端賢次，安藤　恵，**本田芳香**　高齢者が参加しやすい模擬患者養成プログラムの検討，川崎医療福祉学会誌10巻1　p217－222　2015

２）関山友子，**湯山美杉**，江角伸吾，山田明美，中島とし子，**福田順子**，鈴木久美子，塚本友栄，島田裕子，青木さぎ里，春山早苗

３）へき地診療所に勤務する看護師が認識した看護活動に関連する困難感　日本ルーラルナーシング学会誌(1881-2783)10巻 p 31-39　2015.

春山早苗，江角伸吾，関山友子，青木さぎ里，島田裕子，塚本友栄，鈴木久美子，山田明美，中島とし子，**福田順子**

わが国のへき地診療所における看護活動の特徴　2003年，2008年，2013年の比較から，日本ルーラルナーシング学会誌(1881-2783)10巻 p 1-13　2015.

⑵　学会発表

１）**Izumi Kohara**, Eriko Tamura, Kyoko Nishiwaki, Mika Takayama, Mitsuyo Ueno, Yoshie Watanabe: Practice of clinical research nursing and future issues at a university gynecology clinic, International Association of Clinical Research Nurse 2015 CONFERENCE INTERNATIONAL VIRTUAL POSTER ABSTRACT SUBMISSION, Boston, October 14-16, 2015.

２）Yoshikazu Asada, **Yoshika Honda**, Reiko Murakami,ShingoEsumi, **Yumiko Iizuka**, Sanae Haruyama:Design and development of The e-learning course for the nurses who perform medical auxiliary acts,An International Association for Medical Education, UK, August, e-Poster, 2015.

３）**小原　泉**：臨床研究専門職に対する教育の現状と課題，第15回CRCあり方会議　シンポジウム2：臨床研究専門職のキャリア形成と現任教育，神戸，2015年9月12日

４）**小原　泉**，町田静生，種市明代，高橋寿々代，佐藤尚人，竹井裕二，藤原寛行：婦人科がん臨床試験におけるスクリーニングのプロセス，第53回日本癌治療学会学術集会一般演題，京都，2015年10月29日.

５）若澤弥生，**飯塚由美子**，**里光やよい**，**湯山美杉**，中塚麻美：臨地実習時に看護教員が行う実習指導者との学習環境の調整．日本看護学教育学会第25回学術集会，徳島，2015年8月19日.日本看護学教育学会誌　25巻学術集会講演集；227，2015.

６）**飯塚由美子**，**本田芳香**，**小原　泉**，岩永麻衣子，竹野井さとみ，渡辺芳江，樋山伸子，手塚芳美，大貫晃子，上野充代：婦人科がんで治療を受ける患者の意思決定支援のためのスキルアッププログラム．第29回日本がん看護学会学術集会，神奈川．2015年2月28日.（第29回日本がん看護学会学術集会抄録集；p204，2015.）

７）岩永麻衣子，**本田芳香**，**小原　泉**，**飯塚由美子**，竹野井さとみ，渡辺芳江，樋山伸子，上野充代，手塚芳美，大貫晃子：終末期がん患者とその家族の意思決定プロセスに関わった看護師の内省的対話に関する研究，第29回日本がん看護学会学術集会，神奈川．2015年2月28日.（第29回日本がん看護学会学術集会抄録集；p169，2015.）

８）**飯塚由美子**，**本田芳香**：訪問看護師によるがんの在宅看取りのケアにおけるチーム調整に関する検討，第2回日本CNS看護学会，東京．2015年6月13日（第2回日本CNS看護学会プログラム・抄録集；p.95,2015.　）

９）村上礼子，川上　勝，関山友子，樅山定美，**飯塚由美子**，中村美鈴，早瀬行治，淺田義和，鈴木義彦，河野龍太郎：看護学生向けＩＣＬＳコースにおける看護教育の役割～病棟急変場面における意図的な声かけの分析から～Roles of teachers of nursing in the ICLS course for student nurses．第3回日本シミュレーション医療教育学会学術集会，栃木．2015年6月27日.（第3回日本シミュレーション医療教育学会学術集会プログラム・抄録集，p．54－55，2015.）

10）**飯塚由美子**，**本田芳香**：訪問看護師のがん療養者とその家族への在宅看取りのケア－悪化期から臨死期の短期間の関わりの分析―．第20回日本在宅ケア学会学術集会，東京．2015年7月18日.（第20回日本在宅ケア学会学術集会講演集；p.177, 2015.）

11）小島好子，**本田芳香**，**飯塚由美子**：大学病院の救命救急センターにおけるＭＳＷの早期介入に関する研究－ソーシャルハイリスクな家族の代理意思決定支援の事例―．日本医療社会福祉学会第25回大会，東京．2015年9月12日.（日本医療社会

福祉学会第25回大会抄録集；p.64, 2015.）

⑶　その他

１）①春山早苗，淺田義和，阿部幸恵，大湾明美，亀崎豊実，波多野浩道，本多正幸，**本田芳香，飯塚由美子**，江角伸吾，浜端賢次，村上礼子：診療の補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究，平成26年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）総括研究報告書，2015.

２）②春山早苗，淺田義和，阿部幸恵，大湾明美，亀崎豊実，波多野浩道，本多正幸，**本田芳香，飯塚由美子**，江角伸吾，浜端賢次，村上礼子：就労継続支援型の看護師の特定行為研修の実施にあたっての手引き，平成26年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「診療補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究」，2015.

３）③春山早苗，淺田義和，阿部幸恵，大湾明美，亀崎豊実，波多野浩道，本多正幸，**本田芳香，飯塚由美子**，江角伸吾，浜端賢次，村上礼子：特定行為研修のICTを活用した教育例集，平成26年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「診療補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究」，2015.

４）**里光やよい，本田芳香，湯山美杉，飯塚由美子**，岩永麻衣子，若澤弥生，淺田義和：看護過程におけるクリティカルシンキング力を高めるためのマインドマップ活用の検討，自治医科大学看護学ジャーナル12巻；36．2015.

５）**湯山美杉，本田芳香，里光やよい**，若澤弥生，岩永麻衣子，飯塚由美子，山本真由美：看護過程演習に用いる紙上事例に関する教材開発，自治医科大学看護学ジャーナル 12巻；43，2015.

地域看護学

⑴　論文

１）**春山早苗，江角伸吾，関山友子，青木さぎ里，島田裕子，塚本友栄，鈴木久美子**，山田明美，中島とし子，福田順子：わが国のへき地診療所における看護活動の特徴－2003年，2008年，2013年の比較から－．日本ルーラルナーシング学会誌，10；1-13，2015.

２）**関山友子**，湯山美杉，**江角伸吾**，山田明美，中島とし子，福田順子，**鈴木久美子，塚本友栄，島田裕子，青木さぎ里，春山早苗**：へき地診療所に勤務する看護師が認識した看護活動に関連する困難感．日本ルーラルナーシング学会誌，10；31-39，2015.

３）**島田裕子，春山早苗**，宮﨑美砂子，奥田博子，牛尾裕子，石川麻衣，駒形朋子，中瀬克己，岩瀬靖子：東日本大震災で被災した自治体保健師の災害時保健活動における地域診断の内容と情報収集方法．日本ルーラルナーシング学会誌，10；41-50，2015.

４）**青木さぎ里，春山早苗**：離島内居住保健師の実践知とその獲得方法の検討～保健師自身の生活と地域看護活動とを結びつける認識に着眼して～．日本ルーラルナーシング学会誌，10；51-66，2015.

⑵　学会発表

１）**Shimada H, Sekiyama T, Tsukamoto T, Suzuki K, Haruyama S**: Health needs of evacuees living long-term outside their prefecture as a result of the Great East Japan Earthquake. The 6th International Conference on Community Health Nursing Research, Seoul, KR. 19th August 2015. (Knowledge translation into Community Health: Programme Book; 43, 2015)

２）**Esumi S**, Asada Y, Iizuka Y, Hamabata K, Honda Y, Murakami R, **Haruyama S**: The Japanese current state and challenge of the ICT educational system in the support hospitals for rural medicine. The 6th International Conference on Community Health Nursing Research, Seoul, KR. 20th August 2015. (Knowledge translation into Community Health: Programme Book; 52, 2015)

３）**Haruyama S, Sekiyama T, Tsukamoto T, Esumi S, Aoki S, Shimada H, Suzuki K**, Tamura S, Nakao Y, Yasuda K, Yamazaki Y: Characteristic of the district to have to devise the public health nurses practice to reduce health disparities in Japan. The 6th International Conference on Community Health Nursing Research, Seoul, KR. 21th August 2015. (Knowledge translation into Community Health: Programme Book;79, 2015)

４）Asada Y, Honda Y, Murakami R, **Esumi S**, Iizuka Y, **Haruyama S**: Design and development of the e-learning course for the nurses who perform medical auxiliary acts. AMEE 2015 eLearning Symposium, Glasgow, UK. 4-11th September 2015. (AMEE 2015 abstract book;228, 2015)

５）村上礼子，**関山友子**，中村剛史，**春山早苗**：地域ケアスキル・トレーニングプログラム「臨床推論・フィジカルアセスメント」の検討－現任看護師を対象としたe-learning教育の試みから－．日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会，栃木．2015年8月28日．（日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会　合同開催　日本地域ケア実践開発研究事業中間報告会　抄録集；58，2015）

６）**塚本友栄，島田裕子，青木さぎ里**，根來理佳子：現任看護師対象のe-learningによる退院支援・調整教育プログラムの開発・試行とその評価．日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会，栃木．2015年8月28日．（日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会　合同開催　日本地域ケア実践開発研究事業中間報告会　抄録集；61，2015）

７）**青木さぎ里，鈴木久美子，塚本友栄，島田裕子，関山友子，江角伸吾**，金子敬子，**春山早苗**：村保健師への新任期現任教育における保健所保健師の役割．日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会，栃木．2015年8月28日．（日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会　合同開催　日本地域ケア実践開発研究事業中間報告会　抄録集；64，2015）

８）野口美和子，大湾明美，石垣和子，山崎不二子，北村久美子，**春山早苗**：島しょ看護学教育内容の体系化に関する研究－学士課程・博士前期課程・博士後期課程の教育目標・教育内容・教育方法－．日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会，栃木．2015年8月28日．（日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会　合同開催　日本地域

ケア実践開発研究事業中間報告会　抄録集；66，2015）
９）小谷妙子，**塚本友栄**，渡辺芳江，飯田久子，渡邉美智子，塩崎純子，高橋淳子，西田俊子，朝野春美：へき地医療拠点病院への2年間の派遣研修を通して派遣看護師が取り組んだことと学び．日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会，栃木．2015年8月28日．（日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会　合同開催　日本地域ケア実践開発研究事業中間報告会　抄録集；83，2015）
10）宮崎美砂子，奥田博子，**春山早苗**，牛尾裕子，石川麻衣，岩瀬靖子：地域保健活動拠点における災害時の地域診断項目（案）の実用性に関する検討．第74回日本公衆衛生学会総会，長崎．2015年11月4日．（第74回日本公衆衛生学会総会抄録集62(10)；466，2015）
11）久佐賀眞理，福島富士子，平野かよ子，藤井広美，石川貴美子，山口佳子，**春山早苗**，小西かおる，大神あゆみ，尾島俊之，森本典子，濱田由香里，稗圃砂千子，塚原洋子：保健師による保健活動の評価指標と評価マニュアルの検証－その１：母子保健－．第74回日本公衆衛生学会総会，長崎．2015年11月6日．（第74回日本公衆衛生学会総会抄録集62(10)；519，2015）
12）藤井広美，石川貴美子，大神あゆみ，尾島俊之，久佐賀眞理，小西かおる，**春山早苗**，平野かよ子，福島富士子，山口佳子：保健師による保健活動の評価指標と評価マニュアルの検証－その２：健康づくり－．第74回日本公衆衛生学会総会，長崎．2015年11月6日．（第74回日本公衆衛生学会総会抄録集62(10)；519，2015）
13）石川貴美子，大神あゆみ，尾島俊之，小西かおる，**春山早苗**，久佐賀眞理，平野かよ子，福島富士子，藤井広美，山口佳子：保健師による保健活動の評価指標と評価マニュアルの検証　その３：高齢者保健福祉．第74回日本公衆衛生学会総会，長崎．2015年11月6日．（第74回日本公衆衛生学会総会抄録集62(10)；519，2015）
14）山口佳子，石川貴美子，大神あゆみ，尾島俊之，小西かおる，**春山早苗**，藤井広美，福島富士子，久佐賀眞理，平野かよ子：保健師による保健活動の評価指標と評価マニュアルの検証－その４：精神保健福祉活動．第74回日本公衆衛生学会総会，長崎．2015年11月6日．（第74回日本公衆衛生学会総会抄録集62(10)；520，2015）
15）**春山早苗**，石川貴美子，大神あゆみ，尾島俊之，久佐賀眞理，小西かおる，平野かよ子，福島富士子，藤井広美，山口佳子：保健師による保健活動の評価指標と評価マニュアルの検証（その５：感染症対策）．第74回日本公衆衛生学会総会，長崎．2015年11月6日．（第74回日本公衆衛生学会総会抄録集62(10)；520，2015）
16）小西かおる，石川貴美子，大神あゆみ，久佐賀眞理，**春山早苗**，福島富士子，藤井広美，山口佳子，尾島俊之，平野かよ子：保健師による保健活動の評価指標と評価マニュアルの検証－その６：難病保健－．第74回日本公衆衛生学会総会，長崎．2015年11月6日．（第74回日本公衆衛生学会総会抄録集62(10)；520，2015）
17）森本典子，平野かよ子，久佐賀眞理，福島富士子，藤井広美，石川貴美子，山口佳子，**春山早苗**，小西かおる，大神あゆみ，尾島俊之：評価指標を用いた評価活動の成果と課題．第74回日本公衆衛生学会総会，長崎．2015年11月6日．（第74回日本公衆衛生学会総会抄録集62(10)；520，2015）
18）佐藤紀子，**春山早苗**，筑波優子，上野まり，荒木田美香子，澤井美奈子，三森寧子，椎葉倫代：新任期にある市町村保健師が認識している自己の成長に影響を与えた経験－日本地域看護学会教育委員会の調査から－．日本地域看護学会第18回学術集会，横浜．2015年8月1日．（日本地域看護学会第18回学術集会講演集；94，2015）
19）荒木田美香子，三森寧子，**春山早苗**，澤井美奈子，佐藤紀子，筑波優子，上野まり，椎葉倫代：特別支援学校で医療的ケアに携わる学校看護師の現任教育に関する調査－日本地域看護学会教育委員会の調査から－．日本地域看護学会第18回学術集会，横浜．2015年8月1日．（日本地域看護学会第18回学術集会講演集；109，2015）

⑶　著書・総説

１）**鈴木久美子**：第1章　公衆衛生看護学概論　第Ⅱ節　公衆衛生看護の歴史　第1項　保健婦規則制定以前の地域における看護活動．最新公衆衛生看護学　第２版　2015年版　総論（宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）．日本看護協会出版会（東京），24-31，2015.
２）**春山早苗**：第1章　公衆衛生看護学概論　第Ⅱ節　公衆衛生看護の歴史　第2項　保健婦規則

制定以後の保健婦活動　第3項　ヘルスニーズに対応した保健婦活動の確立．最新公衆衛生看護学　第２版　2015年版　総論（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）. 日本看護協会出版会（東京），31-70，2015.

３）**春山早苗**，平山朝子：第1章　公衆衛生看護学概論　第Ⅲ節　ヘルスケアシステムの中で機能する看護．第3章　公衆衛生看護活動の展開方法論　第Ⅳ節　地域ケア体制づくり　第1項～第3項の1．最新公衆衛生看護学　第２版　2015年版　総論（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）．日本看護協会出版会（東京），73-104，299-325，2015.

４）**春山早苗**：第2章　健康課題の特性に応じた活動論　第Ⅳ節　感染症保健福祉活動　第1項～第5項．最新公衆衛生看護学　第２版　2015年版　各論１（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）. 日本看護協会出版会（東京），262-304，2015.

５）**春山早苗**：第2章　地域特性に応じた活動論　第Ⅰ節　へき地における公衆衛生看護活動　第1項　へき地における公衆衛生看護活動．最新公衆衛生看護学　第２版　2015年版　各論2（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）. 日本看護協会出版会（東京），148-162，2015.

６）塩ノ谷朱美，**春山早苗**：第2章　地域特性に応じた活動論　第Ⅰ節　へき地における公衆衛生看護活動　第3項　山村・豪雪地帯における公衆衛生看護活動．最新公衆衛生看護学　第２版　2015年版　各論2（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）. 日本看護協会出版会（東京），183-191，2015.

７）**青木さぎ里**：第2章　地域特性に応じた活動論　第Ⅰ節　へき地における公衆衛生看護活動　第2項　離島における公衆衛生看護活動　４）離島における保健師活動の実際：小規模離島村における活動．最新公衆衛生看護学　第２版　2015年版　各論2（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）. 日本看護協会出版会（東京），173-182，2015.

８）**春山早苗**：第5章　健康危機管理　第3節　感染症集団発生時の保健活動．最新保健学講座５　公衆衛生看護管理論　第4版（平野かよ子　編集）．メヂカルフレンド社（東京）, 175-187，2015.

９）**塚本友栄**，福島道子：第2章チームアプローチの実際　Ⅱ．退院支援とチームアプローチの現状と問題点―急性期病院から回復期病院を経て自宅に戻る過程でのチームアプローチ―．在宅ケア学　第3巻在宅ケアとチームアプローチ（日本在宅ケア学会　編集）. ワールドプランニング（東京）, 56-60，2015.

⑷　その他

１）**春山早苗**：感染症対策にかかわる保健活動の評価指標の検証．厚生労働科学研究費補助金　政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）「保健師による保健活動の評価指標の検証に関する研究」　平成26年度　総括・分担研究報告書，Ⅱ・5・1-10，2015.

２）**春山早苗**，淺田義和，阿部幸恵，大湾明美，亀﨑豊実，波多野浩道，本多正幸，本田芳香，飯塚由美子，**江角伸吾**，浜端賢次，村上礼子：診療の補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究．平成26年度厚生労働科学研究費補助金　地域医療基盤開発推進研究事業　総括研究報告書，全170ページ，2015.

３）宮﨑美砂子，奥田博子，**春山早苗**，牛尾裕子，石川麻衣，駒形朋子，岩瀬美津枝，湯澤睦子，丸山佳子，中瀬克己，岩瀬靖子：災害時の被災市町村支援における地域診断項目とその活用に関する研究．厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「大規模地震に対する地域保健基盤整備実践研究」平成25年度～平成26年度　総合・分担研究報告書，全64ページ，2015.

４）梶井英治，前田隆浩，谷　憲治，井口清太郎，今道英秋，澤田　努，神田健史，森田喜起，中澤勇一，角町正勝，**春山早苗**，瀬川正昭，古城隆雄：都道府県へき地保健医療計画の検証ならびに次期策定支援に関する研究．厚生労働科学研究費補助金　地域医療基盤開発推進研究事業　平成26年度　総括研究報告書，全331ページ，2015.

５）**江角伸吾，春山早苗，鈴木久美子，塚本友栄，島田裕子，関山友子，青木さぎ里**，山田明美，中島とし子，吉津有子：へき地診療所における看護活動の実態と課題に関する調査．自治医科大学看護学ジャーナル　看護学部看護系教員共同研究報告，12；39，2015.

６）浜端賢次，**江角伸吾，島田裕子**，安藤　恵，柴山真里，黒尾絢子，中野杏梨，北田志郎，大塚公一郎，**春山早苗**，新海里恵，渡邊瑠美：本学看

護学部卒業生の現状と看護職継続に向けた基礎的研究．自治医科大学看護学ジャーナル　看護学部看護系教員共同研究報告，12；48，2015.
７）**春山早苗**，荒木田美香子，上野まり，佐藤紀子，澤井美奈子，椎葉倫代，筑波優子，三森寧子：保健師の現任教育のあり方～現任教育において修士課程修了生である保健師が果たす役割と大学院教育～．日本地域看護学会第18回学術集会ワークショップⅣ，横浜．2015年8月2日．（日本地域看護学会第18回学術集会講演集，35，2015）
８）**春山早苗**，村上礼子：10月より開始する「特定行為研修プログラム」を立ち上げて　臨床に戻ってからの“場づくり”を念頭に置いた教育．エキスパートナース，31(12)；118-120，2015.
９）岩瀬和子，太田秀樹，釜萢敏，真田弘美，**春山早苗**：座談会　特定行為研修制度への期待　これからの地域医療は看護師が支える時代に．厚生労働，8月号；30-33，2015.

精神看護学

⑴　論文

１）**Chiba R**, Miyamoto Y, Harada N: Psychological Transformation by an Intervention to Facilitate Benefit Finding Among People With Chronic Mental Illness in Japan. Perspectives in Psychiatric Care, (in press).

２）Yamaguchi S, Niekawa N, Maida K, **Chiba R**, Umeda M, Uddin S, Taneda A, Ito J: Association between stigmatisation and experiences of evidence-based practice by psychiatric rehabilitation staff in Japan: a cross-sectional survey. Journal of Mental Health, 24(2); 78-82, 2015.

３）**Ishii Shinichiro**, Katayama Saori, Mori Naomi, Sugita Yuriko, Suda Yuikiharu, and Itabashi Masato: Relationship between Emotional Intelligence and Reflection of Psychiatric Nurses in Japan,International Journal of Biomedical Soft Computing and Human Sciences 20(1); 21-27 ,2015

４）倉成由美，中島富有子，**石井慎一郎**，應戸麻美：精神科院内認定看護師の活動に対する意識分析，日本健康医学会雑誌 24(2);183-187,2015

５）中島富有子，武富由美子，**石井慎一郎**：精神科看護師に対する認知行動療法研修会の成果と課題,日本健康医学会雑誌，24(2);161-165, 2015

６）中島富有子，**石井慎一郎**，倉成由美，應戸麻美，武富由美子：研修会に参加した精神科看護師の看護倫理に対する意識の構造，日本健康医学会雑誌，24(1);17-24, 2015

⑵　学会発表

１）Nakataniyoji, Miyagi Junko, **Koike Junko**：Eugenics policy in prewar Japan and Germany. International Law and mental Health 33rd International congress, Vienna House of Austry. 2015.7.15

２）吉田知可，松本珠実，岡島さおり，朽木悦子，黒橋真奈美，小西美香子，西嶌知子，横山美江，佐伯和子，**半澤節子**：ソーシャル・キャピタルの醸成に結びつく公衆衛生看護活動，第74回日本公衆衛生学会，長崎，2015.11.4，第74回日本公衆衛生学会総会抄録集, 408

３）松本珠実，岡島さおり，朽木悦子，黒橋真奈美，小西美香子，西嶌知子，吉田知可，佐伯和子，**半澤節子**，横山美江：保健師によるソーシャル・キャピタルの醸成過程第74回日本公衆衛生学会，長崎，2015.11.4，第74回日本公衆衛生学会総会抄録集；408, 2015

４）宇佐美しおり，川田陽子，河野佐代子，佐藤寧子，長谷川雅美，山岡由実，相澤和美，小山達也，**永井優子**，日本精神保健看護学会学術連携委員会：リエゾン精神看護領域および高齢者のうつ病患者に対するケア・ガイドライン（仮）の作成と検討，第25回日本精神保健看護学会学術集会・総会，茨城，2015年6月27日，第25回日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 54，2015.

５）**千葉理恵，半澤節子，石井慎一郎，永井優子**：現任看護師を対象としたe-learningによる認知症看護教育プログラムの作成・試行とその評価. 日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会，栃木．2015年8月28日.（日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会・日本型地域ケア実践開発研究事業中間報告会 抄録集；60, 2015）

６）**千葉理恵**．日本精神障害者リハビリテーション学会 野中賞（最優秀賞）受賞記念講演 慢性精神疾患をもつ人を対象とした，ベネフィット・ファインディング，人生の意味，ウェルビーイングを高めることに焦点をあてたリカバリー促進プログラムの効果検討：無作為化比較試験．日本精神障害者リハビリテーション学会第23回高知大会，高知．2015年12月5日

７）**千葉理恵**，山崎喜比古，宮本有紀，船越明子．精神疾患を経験した人々のベネフィット・ファインディング評価尺度の作成の試み．第35回日本看護科学学会学術集会，広島．2015年12月6日．（第35回日本看護科学学会学術集会講演集；514, 2015）

８）小池　治，**小池純子**，加藤邦彦，池田朋広，常岡俊昭，黒田　治，半澤節子，稲本淳子，中谷陽二：触法精神障害者家族の現状調査－アンケート調査から.：日本社会精神医学会雑誌24(3)；292, 2015

９）常岡俊昭，池田朋広，**小池純子**，小池治，森田哲平，稲本淳子，針間博彦，黒田治，宮城 純子，中谷陽二：触法精神障害者の予防的介入に関する一考察　医療観察法入院患者と措置入院患者の特性の比較から．精神神経学雑誌2015特別；S315, 2015

10）**小池純子**，池田朋広，小池治，黒田治，加藤邦彦，宮城純子，針間博彦，常岡俊昭，稲本淳子，中谷陽二：精神障害者によって繰り返される犯罪・触法行為の予防可能性について．第11回司法精神医学会総会，愛知．2015年6月20日

11）**石井慎一郎**，板橋直人：精神科看護師の感情指数に関する研究－年齢と臨床経験年数による特性－，第５回日本看護評価学会学術集会，東京 2015年03月15日，日本看護評価学会

12）**石井慎一郎**，板橋直人：精神科看護師の感情指数と省察，臨床判断との関係，第５回日本看護評価学会学術集会，東京，2015年03月15日，日本看護評価学会

13）**石井慎一郎**，板橋直人：精神科看護師の感情指数に関する研究－年齢と臨床経験年数による特性－，第５回日本看護評価学会学術集会，東京 2015年03月15日，日本看護評価学会

14）伊勢田千康子，倉成由美，中島富有子，**石井慎一郎**：経済的な不安が強い適応障害患者に対する認知行動療法の効果，第40回日本精神科看護学術集会，福島，2015.6.19，日本精神科看護学術集会誌，58(1);518-519, 2015.

15）清水克哉，**石井慎一郎**，中島富有子，倉成由美，本多京子：精神科看護師のシャイネスの実態調査　A病院における地域生活移行支援とシャイネスの関係の検討から，第22回日本精神科看護学術集会専門Ⅰ，京都，2015.80.24，日本精神科看護学術集会誌，58(2);171-175,2015.

16）**石井慎一郎**，板橋直人，中島富有子，森 直美，杉田百合子，倉成由美：精神科看護師の他者とのかかわりに関する研究　予備調査の結果から，第22回日本精神科看護学術集会専門Ⅱ，山梨，2015.11.15，日本精神科看護学術集会誌58(3);39-43, 2015.

⑶　著書・総説

１）宇佐美しおり，相澤和美，川田陽子，小山達也，佐藤寧子，河野佐代子，山岡由実，長谷川雅美，**永井優子**，石飛マリコ，日本精神保健看護学会学術連携委員会，学術連携委員会内ケアガイドラインワーキンググループ：リエゾン精神看護領域ケアガイドライン　身体疾患で精神状態が不安定になった患者への対応，24(2);91-104, 2015

２）宇佐美しおり，相澤和美，川田陽子，小山達也，佐藤寧子，河野佐代子，山岡由実，長谷川雅美，**永井優子**，石飛マリコ，日本精神保健看護学会学術連携委員会，学術連携委員会内ケアガイドラインワーキンググループ：老年期うつ病ケアガイドライン　老年期のうつ病患者・家族への対応，日本精神保健看護学会誌，24(2);105-124, 2015

⑷　その他

１）**半澤節子**：査読を考える-査読ガイドラインの構築に向けて　英文誌/和文誌の査読から考える英文誌と和文誌の査読の経験から，看護研究48(7); 676-682, 2015.

２）**千葉理恵**：平成25・26年度研究助成　研究報告書「精神疾患をもつ人々を対象とした，疾患の経験による心理社会的変化の評価尺度の開発」．公益財団法人 聖ルカ・ライフサイエンス研究所，2015.

３）**千葉理恵**：精神疾患をもつ人々を対象とした，疾患の経験による心理社会的変化の評価尺度の開発．聖ルカ・ライフサイエンス研究所　臨床疫学等に関する研究助成　平成26年度研究助成交付対象者 業績発表会，東京．2015年4月26日

４）**千葉理恵**：精神疾患をもつ人々を対象とした，ベネフィット・ファインディング評価尺度の開発．第4回レジリエンス研究会，東京．2015年5月23日．

５）竹島正，下田陽樹，立森久照，高橋邦彦，金田一正史，**小池純子**：Unmet needsの把握のための通報等調査．厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）「新たな地域精神保健医療体制の構築のための実態把握および活動の評価等に関する研究」平成24年度～26年度総合研究報告書，55-64，2015

母性看護学

⑴　論文

１）**野々山未希子**：中学生の保護者が希望する性教育と家庭での親子の会話．日本性感染症学会誌，第26巻（第1号）；117-125, 2015.

⑵　学会発表

１）**Y.Shinohara**, R.Negoro, A.Kumagai,A. Mochizuki, M.Sibayama, S,Arakawa, A.Ueki, **M.Nonoyama, S.Sumikawa, S.Narita**：Survey of Actual State of Breastfeeding as per Mothers in Tochigi Prefecture：10Years After the Previous Survey (1st Report). The ICM Asia Pacific Reginal Conference 2015, 横浜，平成27年7月21日.（The ICM Asia Pacific Reginal Conference 2015, Program and Abstract Book, p.279, 2015）.

２）**A.Mochizuki, S.Narita**：Experience of Child Abuse and Domestic Violence Among the Female Inmates and Their Need for Support. The ICM Asia Pacific Reginal Conference 2015，横浜，平成27年7月21日.（The ICM Asia Pacific Reginal Conference 2015，Program and Abstract Book, p.229, 2015）.

３）**成田　伸，篠原有美子，望月明見，鈴江理恵**，荒川ゆかり，鈴木仁子，植木麻美，**角川志穂，野々山未希子**：支援者側からみた栃木県内における母乳育児の実態の10年後調査－開業助産師を中心とした分析結果から－．第40回栃木県母性衛生学会学術集会,栃木県壬生町，2015年6月27日.

４）川口弥恵子，山田加奈子，工藤里香，笹野京子，松井弘美，小嶋由美，立木歌織，大平光子，松原まなみ，**成田　伸**：妊娠糖尿病妊産褥婦へのケアについて先駆的に活動する施設および専門家の実践の明確化（その1）－妊娠糖尿病既往女性への産後ケアに焦点をあてて－．第17回日本母性看護学会学術集会，東京，2015年6月28日.

５）高橋綾佳，寒河江かよ子，塚田祐子，**角川志穂，成田　伸**：助産師出向制度を活用した地域支援病院における助産実践とその意義－三次医療機関所属助産師の地域支援病院への派遣体験－．第10回日本ルーラルナーシング学会学術集会，下野市，2015年10月16日.

６）**成田　伸**，松原まなみ，大平光子，工藤里香，山田加奈子，笹野京子，松井弘美，川口弥恵子，小嶋由美，立木歌織：妊娠糖尿病女性への産後継続支援に関する研修会プログラムの開発とその開催．第31回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会，東京，2015年11月22日.

７）**野々山未希子**：性感染症の予防と検査－受診しやすい環境整備のために－．日本性感染症学会第28回学術集会　シンポジウムⅠ「性感染症の予防と検査－受診しやすい環境整備のために－」，東京．2015年12月5日

８）**野々山未希子**：女子中学生のインターネット利用環境と携帯電話保有状況から性教育を考える．日本性感染症学会第28回学術集会，東京．2015年12月5日

９）**野々山未希子**：性感染症予防活動の課題と今後の活動．日本性感染症学会第28回学術集会　交流集会，東京．2015年12月5日

⑶　その他

１）**野々山未希子**：中学生の家庭内での性教育に対する親の認識と医療者に求める役割．第12回栃木県性感染症研究会，栃木．2015年11月19日

小児看護学

⑴　論文

１）斉藤正恵，黒田光恵，小林京子，玉村尚子，**横山由美**：終末期にある小児がん病児の同胞への支援の検討，小児がん看護，10 (1)，14-22，2015.

２）手塚園江，塚本浩章，**横山由美，田村敦子，小西克恵**：看護職による小学校での健康教育の報告，自治医科大学看護学ジャーナル 12，25-31，2015.

⑵　学会発表

１）佐々木綾香，宗像　修，**横山由美**：小児看護専門職が学校と連携して行う，メディアとの付き合い方に関する健康教育について～睡眠や心の健康を中心に～，自治医科大学シンポジウム，栃木県，2015.9.4.

２）宗像　修，**横山由美**：小児看護専門職と小学校の連携による健康教育の有効性，岡山，2015.（学校保健研究，57，Suppl.，271，2015.）

３）Osamu Munakata, **Yumi Yokoyama**: Literature review of Japanese nurses'concept of “YARIGAI”, 18th EAPONS, Taiwan, 2015, Feb. 5-6th

４）長谷川直人，**横山由美**：看護師特定行為「血糖コントロールのための薬剤投与関連」における講義科目のトライアル結果報告，栃木，2015.（日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会抄録集，59，2015.）

５）**小西克恵，横山由美，田村敦子，仙徳明美**他：へき地における小児看護のあり方の検討－養護教諭へのインタビューから見えてきたもの－，栃木，2015.（日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会抄録集，72，2015.）

６）**仙徳明美，横山由美，田村敦子，小西克恵**他：へき地診療所における小児看護の実態，栃木，2015.（日本ルーラルナーシング学会第10回学術集会抄録集，76，2015.）

成人看護学

⑴　論文

１）**Mikiyo Sato**, Machiko Ohara, Meiko Okabe, Rika Hieda : A study of end-of-life care at Our Lady's Hospice in Ireland: systems of practice, education and research. Tokai University, School of Health Sciences BULLETIN, No.20,p103-116, 2015.

２）谷島雅子，**中村美鈴**：救急看護師が認識するDNAR(Do Not Attempt Resuscitation)の患者とその家族の特徴および家族に対する看護実践．日本救急看護学会雑誌17巻2号，Page35-44，2015.

３）吉田紀子，**中村美鈴**：延命治療の代理意思決定支援に対するクリティカルケア熟練看護師の省察，日本救急看護学会雑誌,17巻2号，Page12-23，2015.

４）酒井賢一，萩　亮介，井上一穂，**長谷川直人**：離職率が低い救命病棟に勤務する中堅看護師の就業環境の実態　A病院における就業継続要因の分析に向けて．日本看護学会論文集：看護管理，45；236－239，2015.

５）内藤友美，**長谷川直人**：個人目標面接における看護管理者の支援と中堅看護師の受け止め方の比較．日本看護学会論文集：看護管理，45；126－129，2015.

⑵　学会発表

１）Mayumi Machida, **Misuzu Nakamura**：Nursing support for families of emergency patients in Japan.18th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2015), Taiwan, Taipei. Retrieved 25 February 2015. Poster Abstract Book, P 430.

２）**Misuzu Nakamaura**, Reiko Murakami, Izumi Kohara, Sadami Momiyama , Noriko Yoshida , Megumi Ando, Hideo Dannoue and Alan K. Lefor: Nursing support for postoperative dysfunction and social rehabilitation of patients with gastric cancer in Japan.18th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2015), Taiwan, Taipei. Retrieved 26 February 2015. Oral Abstract Book.

３）**Mikiyo Sato**, Natsumi Morita, Miyuki Semba, Mizue Shiromaru, Noriko Iba：,Educational Effectiveness of Using the Online Database of the "Health and Illness Narratives DIPEx-Japan (of Breast Cancer)". 18th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2015), Taiwan, Taipei. 5 February 2015. (Paper presented at the 18th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2015),(Poster Abstract Book, p109-110, Retrieved 26 February 2015, from http://www.eafons2015.tw/)

４）Mizue Shiromaru, Satomi Mizutani, Takehiko Ito, Migiwa Nakada, **Mikiyo Sato**, Michiko Kadobayashi, Tomoe Kodaira, Mari Honma : Narratives about chemotherapy in Tobyo-ki. From autobiographies written by women with breast cancer, 18th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2015), Taiwan, Taipei. 5 February 2015. (Paper presented at the 18th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2015), (Poster Abstract Book, p148-482, Retrieved 26 February 2015, from http://www.eafons2015.tw/)

５）Michiko Kadobayashi, Mizue Shiromaru, Migiwa Nakada, Takehiko Ito, Satomi Mizutani, **Mikiyo Sato,** Mari Honma, Tomoe Kodaira: hy do authors publish their own Tobyo-ki? Focus on breast cancer patients.18th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2015), Taiwan, Taipei. 5 February 2015. (Paper presented at the 18th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2015), (Poster Abstract Book,p494-495, Retrieved 5 February 2015, from http://www.eafons2015.tw/)

６）Natsumi Morita, Noriko Iba, **Mikiyo Sato**, Keiko Goto, Emiko Wada, Yoko Setoyama, Akiko Aoki, Chikako Nakamura, Rumiko Akimoto, Yuko Hirono, Miyuki Semba, Rika Sakuma Sato, Hirokuni Beppu : Development of New Educational Program Using Patients' Narratives in DIPEx-Japan.International Congress: Illness Narratives in Practice University of Freiburg Department of Psychology Rehabilitation Psychology and Psychotherapy, Germany. 26 June 2015.

７）**Emiko Minakuchi** and Yasushi Honda :THE ASSOCIATION BETWEEN EXTERNAL CAUSES OF DEATH AND HIGH TEMPERATURE IN

SIX PREFECTURES IN JAPAN,27th Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Sau Paulo(Brazil), 2 September 2015.

８）Kadobayashi M., ShiromaruM., Nakada M., Honma M., **Sato M.**, Ito T.: “Sociological Study of Tobyo-ki” to “Clinical Application of Caring through Writing.14th World Congress of the European Association for Palliative Care, Copenhagen, Denmark. 9 May 2015. (14th World Congress of the European Association for Palliative Care Abstract book, p134, 2015. Retrieved 5 May　2015, From http://www.eapc-2015.org/abstract_book.html)

９）**佐藤幹代**，佐藤りか[佐久間]，濱　雄亮，高橋奈津子，射場典子：「慢性の痛みの語り」データベース構築の試み，第41回日本保健医療社会学会大会，東京．2015年5月16日．（保健医療社会学論集 26巻特別：Page37，2015）

10）町田真弓，**中村美鈴**，村上礼子：救急搬送された患者の入院後に到着した家族への関わりに対する熟練看護師の看護実践，第11回日本クリティカルケア看護学会学術集会，福岡．2015年6月27日．（日本クリティカルケア看護学会誌11巻2号：Page166，2015）

11）黒田暢子，織井優貴子，**佐々木雅史**，他：看護学基礎教育におけるシミュレータを用いたシミュレーション教育の実態調査，第25回日本看護学教育学会，徳島．2015年8月19日．（日本看護学教育学会誌25巻学術集会講演集：Page129，2015）

12）**中野真理子**，菊池真由美，高島尚美：クリティカルケア領域における身体抑制を要する患者の家族に対するベテラン看護師の看護実践プロセス，第25回日本看護学教育学会，徳島．2015年8月19日．（日本看護学教育学会誌25巻学術集会講演集：Page182，2015）

13）**佐藤幹代**，高橋奈津子，森田夏実，仙波美幸，城丸瑞恵：「DIPEx-Japan:乳がんの語り」の映像からリハビリテーション看護において学生はどのような支援を学んだか？，第25回日本看護学教育学会，徳島．2015年8月19日．（日本看護学教育学会誌25巻学術集会講演集：Page174，2015）

14）森田夏実，射場典子，**佐藤幹代**，瀬戸山陽子，仙波美幸，和田恵美子：患者の語り（ナラティブ)から何を学ぶか(Part3)　健康と病いの語りデータベース(DIPEx-Japan)の教育用ページの活用，第25回日本看護学教育学会，徳島．2015年8月19日．（日本看護学教育学会誌25巻学術集会講演集：Page106，2015）

15）**佐藤幹代**，佐藤(佐久間)りか，濱　雄亮，高橋奈津子，射場典子：「健康と病いの語り」データベース構築に関する歴史的背景～イギリスの先行例からみた日本の取り組みについて～，日本看護歴史学会　第29回学術集会，札幌．2015年8月22日．（日本看護歴史学会第29回学術集会講演集：Page49-50，2015）

16）**中野真理子**，菊池真由美，高島尚美：クリティカルケア領域におけるベテラン看護師の身体抑制に関する看護の実践プロセス，第41回日本看護研究学会，広島．2015年8月23日．（第41回日本看護研究学会抄録集；P164,2015）

17）**村上礼子，中村美鈴**，里光やよい，川上　勝，小林京子，柴山真理，井上和子，河野龍太郎，鈴木義彦，淺田義和：看護学生向けICLSコースにおける看護教員の役割　病棟急変場面における声かけ，第14回自治医科大学シンポジウム，2015年9月4日．（自治医科大学看護学ジャーナル 12巻：Page47，2015）

18）段ノ上秀雄，樅山定美，安藤　恵，**中村美鈴**，川中子智恵，小原　泉，**村上礼子**，吉田 紀子，関　道子，石岡美登子，弘田智香，戸田 昌子，細谷好則：食道がん手術後患者が術後機能障害を有しながら生活を営む上での医療資源の活用に関する困難とその支援，第14回自治医科大学シンポジウム，2015年9月4日．（自治医科大学看護学ジャーナル 12巻：Page40，2015）

19）**中野真理子，佐々木雅史，長谷川直人，水口恵美子，村上礼子，中村美鈴**：成人期健康危機看護実習におけるカンファレンスでのチーム医療に関する学び－ワールド・カフェ形式を取り入れて－，第14回自治シンポ，栃木，2015年9月4日．（第14回自治医科大学シンポジウム抄録集；page26，2015）

20）松沼早苗，**中村美鈴**：術後疼痛を緩和するための手術室看護師による術前ガイダンスのあり方の検討．第35回日本看護科学学会学術集会，広島．2015年12月5日．（日本看護科学学会学術集会講演集 35回：Page225,2015）

21）樅山定美，**長谷川直人**，吉田紀子，**中村美鈴，村上礼子**，小原泉：上部消化管がん術後患者

の退院1ヵ月後の術後機能障害のあり様と対処方法の実態および看護師の教育的関わり．第35回日本看護科学学会学術集会，広島．2015年12月5日．（日本看護科学学会学術集会講演集 35回：Page226,2015）

22）**中野真理子**，菊池真由美，高島尚美：クリティカルケア領域におけるベテラン看護師の抑制解除判断にみる格率，第35回日本看護科学学会，広島．2015年12月5日．（第35回日本看護科学学会講演集；Page231, 2015）

23）**佐藤幹代**，濱雄亮，佐藤（佐久間）りか，射場典子，高橋奈津子：「慢性の痛みの語り」データベース構築の試み～患者会参加経験のある慢性の痛みをもつ人の語り～，全国難病センター研究会　第23回研究大会，高知．2015年2月21日．（第23回研究大会（高知）報告集：Page80，2015）

⑶　著書・総説

１）**中村美鈴**：今さら聞けない看護過程（第3回）問題の明確化と患者の全体像の考え方について　こう教えれば問題が焦点化できる．看護人材育成 11巻6号 Page91-95，2015.

２）**中村美鈴**：今さら聞けない看護過程（第4回）患者目標と計画立案の考え方　こう教えれば個別的な計画が立案できる. 看護人材育成 12巻1号 Page103-107，2015.

３）**中村美鈴**：今さら聞けない看護過程（第5回）看護計画実施と評価の考え方　こう教えれば評価が分かる．看護人材育成 12巻2号 Page103-106，2015.

４）**中村美鈴**：今さら聞けない看護過程（第6回）（最終回）看護過程と看護理論の関係　こう教えれば理論との関係性が分かる．看護人材育成 12巻4号 Page96-101，2015.

５）**中村美鈴**：【救急・急変に役立つフィジカルアセスメント】（2章）症候・徴候からみたフィジカルアセスメント：苦悶様表情のフィジカルアセスメントとは？（Q&A/特集），ナーシングケアQ&A 53号；Page180-181，2015.

６）**中村美鈴**：【救急・急変に役立つフィジカルアセスメント】（2章）症候・徴候からみたフィジカルアセスメント：不眠のフィジカルアセスメントとは？（Q&A/特集），ナーシングケアQ&A 53号；Page180-181，2015.

７）**長谷川直人**：【救急・急変に役立つフィジカルアセスメント】（2章）症候・徴候からみたフィジカルアセスメント：姿勢の異常のフィジカルアセスメントとは？，ナーシングケアQ&A；page52－54，2015.

８）**佐々木雅史**：【救急・急変に役立つフィジカルアセスメント】（2章）症候・徴候からみたフィジカルアセスメント：肥満・やせのフィジカルアセスメントとは？，ナーシングケアQ&A；page168－169，2015.

９）**佐々木雅史**：【救急・急変に役立つフィジカルアセスメント】（2章）症候・徴候からみたフィジカルアセスメント：眼球突出のフィジカルアセスメント，ナーシングケアQ&A；page166－167，2015.

⑷　その他

佐藤幹代：【連載】患者の語りから学ぶ　看護ケア　第７回　術後のリハビリを患者さんのペースで続けられるように支援するためには？．ナースプレス，ナース専科WEB. https://nursepress.jp/218601.

老年看護学

⑴　論文

１）**浜端賢次**，安藤　恵，本田芳香：高齢者が参加しやすい模擬患者養成プログラムの検討，川崎医療福祉学会誌，25 (1) , 217-222，2015.

２）**川上　勝**，阿部有貴，野澤翔馬，戸羽省吾，尾崎功一：部位別体動検知に基づく臥床者の起上り判定システムの開発，日本福祉工学会誌，17（2），25-30,2015.

⑵　学会発表

１）**宮林幸江，浜端賢次**：遺族期に起こる変化とスピリチュアルペインの問題（1）．第23回日本ホスピス在宅ケア研究会,横浜市．2015年8月29日.（抄録集

２）**浜端賢次**，安藤　恵，**宮林幸江**：認知症告知とその議論に関する文献検討．第16回日本認知症ケア学会，札幌市．2015年5月24日.（日本認知症ケア学会誌14（1）；295，2015）

３）**Sachie Miyabayashi，Kenji Hamabata**：Problems in Grief-care，New Orleans（米）．36th International Association for Human Caring Conference,2015年5月20日.（抄録集

４）**Kenji Hamabata，Sachie Miyabayashi**：A Tentative Cooperative Model in institutions With Dementia Persons，New Orleans（米），36th International Association for Human Caring Conference,2015年5月21日.（抄録集

５）**Sachie Miyabayashi，Kenji Hamabata**：Contents Analysis of Farewell letter（will）on imaging one's own sudden impending death，台湾，18th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS,2015年2月6日.（抄録集

６）村上礼子，**川上　勝**，関山智子，　樅山定美，飯塚由美子，中村美鈴，早瀬行治，淺田義和，鈴木義彦，河野龍太郎：看護学生向けICLSコースにおける看護教員の役割～病棟急変場面における意図的な声かけの分析から～．日本シミュレーション医療教育学会，下野市，2015年6月27日.（抄録集p54，2015）

７）三宅将文，高野倉雅人，松井正之，**川上　勝**，筧宗徳，滝聖子，山田哲夫：IE手法にもとづく介護福祉サービスの質的向上と効率化を目指した作業改善—特別養護老人ホームを事例として，日本設備管理学会平成27年度春季研究発表大会，東京都，2015年6月4日.（平成27年度春季研究発表会研究大会講演論文集）

資　　料

2015年度（平成27年度）看護学部学年暦

○前学期

４月１日（水）	ガイダンス（2・3・4年）
４月２日（木）	授業開始（2・3・4年）
４月３日（金）	入学式，オリエンテーション（1年）
４月６日（月）	授業開始（1年）
４月29日（水）～５月６日（水）	春季休業
５月11日（月）～６月５日（金） ６月15日（月）～７月24日（金）	前学期実習（3年）
５月14日（木）	創立記念日
６月８日（月）～６月12日（金）	対象の理解実習（1年）
７月16日（木）～７月17日（金）	定期試験（4年）
７月27日（月）～８月７日（金）	総合実習（4年）
７月21日（火）～７月24日（金）	定期試験（1・2年）
８月５日（水）～９月27日（日）	夏季休業
８月26日（水）～８月28日（金）	再試験

○後学期

９月28日（月）	授業開始
９月７日（月）～10月30日（金）	助産学実習（4年）
９月24日（木）～10月７日（水）	日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習（2年）
10月９日（金）～10月11日（日）	学園祭
10月14日（水）～10月27日（火）	日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習（2年）
11月16日（月）～12月18日（金） １月４日（月）～２月12日（金）	後学期実習（3年）
12月23日（水）～１月３日（日）	冬季休業
２月８日（月）～２月12日（金）	定期試験（1・2年）
２月25日（木）～２月26日（金）	再試験
３月４日（金）	卒業式
３月19日（土）～	学年末休業

自治医科大学看護学部の概況（平成28年3月31日現在）

1．教　員　数	46名
2．学　生　数	413名
4年生（平成24年4月1日入学）	104名
3年生（平成25年4月1日入学）	102名
2年生（平成26年4月1日入学）	102名
1年生（平成27年4月1日入学）	105名

看護学部教職員名簿

1．教員

職　名	氏　名	主要担当科目
教　授	春　山　早　苗	地　域　看　護　学
教　授	大　塚　公一郎	看　護　基　礎　科　学
教　授	小　原　　泉	基　礎　看　護　学
教　授	永　井　優　子	精　神　看　護　学
教　授	中　村　美　鈴	成　人　看　護　学
教　授	成　田　　伸	母　性　看　護　学
教　授	野々山　未希子	母　性　看　護　学
教　授	半　澤　節　子	精　神　看　護　学
教　授	本　田　芳　香	基　礎　看　護　学
教　授	宮　林　幸　江	老　年　看　護　学
教　授	横　山　由　美	小　児　看　護　学
教　授	渡　邉　亮　一	看　護　基　礎　科　学
教　授	村　上　礼　子	
（兼）		
准教授	川　上　　勝	老　年　看　護　学
准教授	北　田　志　郎	看　護　基　礎　科　学
准教授	佐　藤　幹　代	成　人　看　護　学
准教授	里　光　やよい	基　礎　看　護　学
准教授	鈴　木　久美子	地　域　看　護　学
准教授	角　川　志　穂	母　性　看　護　学
准教授	塚　本　友　栄	地　域　看　護　学
准教授	浜　端　賢　次	老　年　看　護　学
講　師	飯　塚　秀　樹	看　護　基　礎　科　学
講　師	佐々木　雅　史	成　人　看　護　学
講　師	島　田　裕　子	地　域　看　護　学
講　師	清　水　みどり	老　年　看　護　学
講　師	田　村　敦　子	小　児　看　護　学
講　師	千　葉　理　恵	精　神　看　護　学
講　師	中　野　真理子	成　人　看　護　学
講　師	長谷川　直　人	成　人　看　護　学
講　師	平　尾　温　司	看　護　基　礎　科　学
講　師	福　田　順　子	基　礎　看　護　学
助　教	青　木　さぎ里	地　域　看　護　学
助　教	飯　塚　由美子	基　礎　看　護　学
助　教	石　井　慎一郎	精　神　看　護　学
助　教	江　角　伸　吾	地　域　看　護　学
助　教	小　池　純　子	精　神　看　護　学
助　教	小　西　克　恵	小　児　看　護　学
助　教	近　藤　まゆみ	母　性　看　護　学
助　教	佐々木　彩　加	成　人　看　護　学
助　教	篠　原　有美子	母　性　看　護　学
助　教	鈴　江　理　恵	母　性　看　護　学
助　教	関　山　友　子	地　域　看　護　学
助　教	仙　徳　明　美	小　児　看　護　学
助　教	中　塚　麻　美	基　礎　看　護　学
助　教	深　田　裕　子	成　人　看　護　学
助　教	水　口　恵美子	成　人　看　護　学
助　教	望　月　明　見	母　性　看　護　学
助　教	湯　山　美　杉	基　礎　看　護　学

平成27年4月1日～平成28年3月31日在職者
（各職階ごとの50音順）

2．事務部

職　名	氏　名
大学事務部長	飯　山　尚　人
大学事務副部長	松　下　正　弘
（看護学部担当）	

（看護総務課）

職　名	氏　名
課　　長	塙　　建　夫
参事（兼）課長補佐	大　石　千　代
係　　長	坂　本　敦　徳
主　　事	森　下　寿美子
主　　事	津久井　仁　美
嘱　　託	中　村　里　子

（看護学務課）

職　名	氏　名
課　　長	渡　辺　秀　男
参事（兼）課長補佐	三　上　博　史
係　　長	湯　浅　芳　恵
主　　事	佐　藤　美　里
主　　事	三　原　理　央
主　　事	野　口　大　輔
嘱　　託	髙　槻　祥　子

2015年度（平成27年度）大学院看護学研究科学年暦

○前期

4月 6日（月）	入学式
	オリエンテーション，授業開始
4月13日（月）	履修計画の提出締切
5月14日（木）	創立記念日

○後期

10月１日（木）	授業開始
11月９日（月）	研究構想発表会
12月14日（月）	学位申請書・学位論文（審査用）提出締切
１月25日（月）～１月29日（金）	論文審査・口頭試問
２月15日（月）	学位論文発表会（最終試験）
２月29日（月）	学位論文（保存用）最終締切
３月22日（火）	修了式（学位授与式）

大学院看護学研究科の概況（平成28年3月31日現在）

１．教　員　数　　22名

２．学　生　数　　23名

2年生（長期履修制度利用者）※博士前期	8（3）名
1年生（長期履修制度利用者）※博士前期	7（3）名
3年生（長期履修生度利用者）※博士後期	4（3）名
2年生（長期履修制度利用者）※博士後期	1（1）名
1年生（長期履修制度利用者）※博士後期	3（2）名

大学院看護学研究科教職員名簿

1．教員

職　名	氏　名	主要担当科目
教　授	春　山　早　苗	地域看護管理学
教　授	大　塚　公一郎	共　通　科　目
教　授	小　原　　泉	が　ん　看　護　学
教　授	永　井　優　子	精　神　看　護　学
教　授	中　村　美　鈴	クリティカルケア看護学
教　授	成　田　　伸	母　性　看　護　学
教　授	野々山　未希子	母　性　看　護　学
教　授	半　澤　節　子	精　神　看　護　学
教　授	本　田　芳　香	が　ん　看　護　学
教　授	宮　林　幸　江	老年看護管理学
教　授	横　山　由　美	小　児　看　護　学
教　授	渡　邉　亮　一	共　通　科　目
教　授	村　上　礼　子	看護技術開発学
（兼）		
准教授	川　上　　勝	老年看護管理学
准教授	北　田　志　郎	共　通　科　目
准教授	佐　藤　幹　代	クリティカルケア看護学
准教授	里　光　やよい	看護技術開発学
准教授	鈴　木　久美子	地域看護管理学
准教授	角　川　志　穂	母　性　看　護　学
准教授	塚　本　友　栄	地域看護管理学
准教授	浜　端　賢　次	老年看護管理学
講　師	福　田　順　子	看護技術開発学

※平成27年4月1日～平成28年3月31日在職者
（各職階ごとの50音順）

2．事務部

職　名	氏　名
大学事務部長	飯　山　尚　人
大学事務副部長	松　下　正　弘
（看護学部担当）	

（看護総務課）

職　名	氏　名
課　　長	塙　　建　夫
参事（兼）課長補佐	大　石　千　代
係　　長	坂　本　敦　徳
主　　事	森　下　寿美子
主　　事	津久井　仁　美
嘱　　託	中　村　里　子

（看護学務課）

職　名	氏　名
課　　長	渡　辺　秀　男
参事（兼）課長補佐	三　上　博　史
係　　長	湯　浅　芳　恵
主　　事	佐　藤　美　里
主　　事	三　原　理　央
主　　事	野　口　大　輔
嘱　　託	髙　槻　祥　子

編　集　後　記

本号上梓の為に御協力頂きました皆様有り難うございました。

こうして出来上がった内容からは，各教員の一日一日，各月，各季節を大切にしつつ，看護学部の今と未来に向けて，切り開く形と姿に繋がっていくことを感じとることができます。看護学部の全教員が協力体制を組み，動いていることを実感として理解できる内容でした。

例えば，学部と大学院の教育の様子が詳細に記載されています。この他にも委員会活動として，大学の教育部分以外の部分で，学生を始め教員らの個々をも支持し，保護し，看護学部全体の推進へと，スムーズな流れを大学の動きにもたらしています。

教育分野別の報告では，授業に学会・研究にと意気軒昂たるチーム中の御一人御一人が目に入っていきました。

かくして，編集に関して実質的な陰の推進者は事務総務の方々です。

毎年のことではありますが，記録という形の大事さを思い皆様に深謝致します。

（平成29年3月　編集委員会　副委員長　宮林　幸江）

編集委員会

自治医科大学看護学部

委 員 長	村上　礼子
副委員長	宮林　幸江
委　　員	小原　　泉
	塚本　友栄
	平尾　温司
編集担当	看護総務課
	森下寿美子

自 治 医 科 大 学 看 護 学 部 年 報（第14号）
自治医科大学大学院看護学研究科年報（第10号）

平成29年３月31日発行

発　行　者　　学部長（研究科長）　春　山　早　苗
編集責任者　　編集委員会委員長　　村　上　礼　子
発　行　所　　自治医科大学看護学部
　　栃木県下野市薬師寺3311－159
　　電話　0285（58）7409
印　刷　所　　㈱松井ピ・テ・オ・印刷
　　栃木県宇都宮市陽東5－9－21
　　電話　028（662）2511㈹